

会長のページ 卒後臨床研修と基礎医学研究について	河野 雅行	3
日州医談 「かかりつけ医」制度について	小牧 斎	4
就任挨拶 宮崎大学医学部教授就任挨拶	河上 洋	6
宮崎大学医学部教授就任挨拶	新 竜一郎	7
随筆 離れの増築をめぐって	友成 久雄	8
エコー・リレー(496)	西 桂子, 中田 博	10
メディアの目 見たいものしか見えない	重畠 修一	14
宮崎大学医学部だより(解剖学講座組織細胞化学分野)	山口 優也	20
部会だより(病院部会・医療法人部会)	濱砂 重仁	21
ニューメンバー	秋月 英治	47
診療メモ 糖尿病黄斑浮腫	佐々木 究	70

あなたできますか?(平成27年度医師国家試験問題より)	11
宮崎県感染症発生動向	12
各都市医師会だより(西臼杵郡医師会, 宮崎大学医学部医師会)	16
各種委員会(健康スポーツ医学委員会, 健康教育委員会)	22
医師会立看護学校担当理事連絡協議会	24
九州医師会連合会第359回常任委員会	26
都道府県医師会JMAT担当理事連絡協議会	27
第38回産業保健活動推進全国会議	31
宮崎県医師会親善ゴルフ大会	34
平成28年度宮崎大学医学部5年生未来の医療を語る全員交流会 in MIYAZAKI	36
薬事情報センターだより(355) 新薬紹介(その88)	37
日医インターネットニュースから	38
理事会日誌	40
ベストセラー	45
県医の動き	46
会員の異動・変更報告	48
ドクターバンク情報	51
行事予定	57
医学会・講演会・日医生涯教育講座認定学会	59
宮大医学部学生ページ	72
平成28年度総目次	76
あとがき	86

お知らせ 医療事故調査制度 相談窓口	9
宮崎県医療勤務環境改善支援センター	15
宮崎県医師会メーリングリストのご案内	23
年末・年始の休館について	25
宮崎県医師会医療情報コーナー	47
医師資格証を持ちましょう	50
日州医事へのご意見・ご感想をお待ちしています	55
郡市医師会への送付文書	74

医師の心得

1. 私たちは、皆さまの
健康状態をよくお聞きします。
2. 私たちは、皆さまに
最善の医療を提供できるよう心がけます。
3. 私たちは、皆さまに
医療内容をよく説明し、一緒に医療を行います。
4. 私たちは、皆さまの
「知る権利」・「知りたくない権利」を大切にします。
5. 私たちは、皆さまの
健康維持と医療の質の向上に尽くします。

公益社団法人 宮崎県医師会

(平成14年 3 月12日制定)

〔表紙作品：写真〕

飛沫

水は美しい。

溪谷の緑を映した満々の水も、雨でしっとり
濡れたアスファルト面の輝きも、みんな美しい。

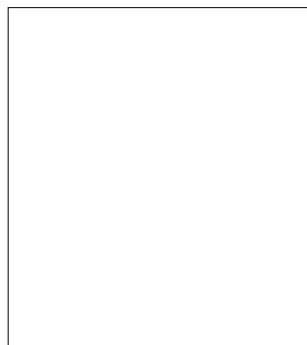
サーファーを洗うシャワーの水を逆光線で
狙った。流れ落ちる滴や、勢余って飛散する無
数の飛沫が、想像を超えた生命の輝きとなって
目に飛び込んできた。

写真は正に光と影で描く光画である。

宮崎市 たけ竹 お尾 やす康 お勇

会長のページ

卒後臨床研修と基礎医学研究について

かわ の まさ ゆき
河 野 雅 行

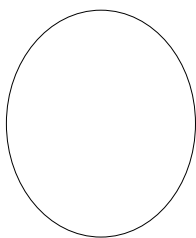
平成16年に導入された医師臨床研修制度もようやく定着してきたようです。宮崎県では、先日発表された来年度のマッチングが60名との報告がありました。勿論この数字は暫定的なもので、国試の結果やその他の条件により異なってくることは充分予測されますが、それでも近年にない過去2番目の数字で喜ばしいことです。これは大学卒後臨床研修センターの小松教授や県医師会金丸常任理事・県担当部局・関連病院その他の関係者が心を一つにして、研修医の意向動向につき分析し、対策を講じた結果が表れてきたものと思われます。しかし、折角改善し

つつあるものが、延期はされたものの、臨床研修制度と密接な関連のある新専門医制度が将来施行されると、地方では更なる医師の偏在が起こるのではないかと危惧されています。大都市の方が研修環境も良く、専門医取得にも便利であるとの先入観が根強いとされています。そこで、地方でも十分な研修ができ、専門医取得が可能なように配慮をしつつ再検討が行われています。地方の地域医療を守るためには、専門医としての質を担保しながら地域の特性に応じた医師の育成が必要であろうと思われます。

一方、ある基礎系の教授から「以前から人気はなかったけれども最近は特に入局希望者がいなくてね。全く絶滅寸前だよ」との悩みを聞きました。現在の研修制度は「臨床研修」制度であり、臨床が主体となっています。医師不足の解消のために、即戦力となる臨床医の育成を重視した結果であると思われます。勿論、医療の原点は患者さんと共にある臨床家であることは当然で、一概に現在の研修制度が間違っているとは言えません。本年度のノーベル賞を受けられた大隅先生は将来の成果に繋がるような基礎的な研究環境の貧弱さに危機感を述べられていました。医学・科学の進歩には基礎的な研究が根底になれば大きな発展は望めないと言われています。財政的な要素も大ですが、何と云っても人の集まる環境作りが大切です。早い段階から基礎系の地道な研究に触れることで自身のキャリアの幅を広げる機会を設けることも必要ではないでしょうか。宮崎大学では国際性豊かな研究医を育成する目的で、学生のうちから研究室で研究できる「医学研究者育成コース」が平成25年にスタートし、このコースで研究をしていれば卒後臨床研修期間中に大学院に入学することも可能で、大学院を3年に短縮して博士号を取得することもできるそうです。

従来の臨床領域に加えて、へき地医療や救急医療・在宅医療等、研修医として学ぶべきものが多く大変とは思いますが、医師には科学的論理的思考も必要です。地域医療を担う臨床医の育成と共に、医学研究も忘れてはならない重要事項と思われます。（平成28年11月18日）

日州医談



「かかりつけ医」制度について

常任理事 小 牧 ひとし

日本医師会(以下日医)による「日医かかりつけ医機能研修制度」が平成28年4月よりいよいよスタートしました。新専門医制度の開始に伴う「総合診療専門医」、厚労省のすすめる「かかりつけ医(地域包括診療料、地域包括診療加算を取得できる条件をそろえた医師)」とは一線を画すものとなっています。以下に、平成28年3月に日医会館で開催された「平成27年度都道府県生涯教育担当理事連絡協議会」で配られた資料に基づき私見を述べたいと思います。

日医の考える「かかりつけ医」とは、なんでも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要な時には専門医、専門医療機関を紹介でき、身近で頼りになる地域医療、保健、福祉を担う総合的な能力を有する医師と定義されています。超高齢化社会では、認知症などの疾病に加え、高齢者の日常生活の不具合も含めた早期発見、早期治療(対応)の必要性が高まり、かかりつけ医の役割はますます重要になります。外来医療、在宅医療に適切な資源を投入し「かかりつけ医」を中心にして、患者・国民の健康に幅広く対応していくというものです。その目的に合致する「かかりつけ医」を作るための研修制度が今回開始されたわけです。

わが国では多くの医師が、それぞれの深い専門性を有したうえで自ら研鑽を積み、幅広い視野の下に地域に根差した医師として診療にあたっています。専門性、診療の領域、診療の場を超えた「かかりつけ医」としての役割が患者さ

んのさまざまなニーズに合致し、わが国の医療制度を支える大きな柱になっていると考えられます。日医によれば、このかかりつけ医機能の強化こそがこれからの超高齢社会を支える重要な視点ととらえ、このための研修の機会を開始したとのこと。 「かかりつけ医」とは専門医制度すべてを包含した幅広い概念で、資格制度とは別の概念として日医がその育成や質の向上に引き続き取り組んでいく構想とのこと。有効な資格制度のない中で実体として総合診療医として地域医療に貢献してきた会員の先生方の将来への不安に、組織強化を図る日医にとって明確なビジョンを示したことになります。

一方、厚生労働省が考えている「かかりつけ医」とはいわゆる欧米型の「家庭医」ではなく、地域包括診療料・地域包括診療加算を算定できる施設を考えていると言われています。厚労省は「かかりつけ医」の果たす役割として、受診患者を病院の専門科に紹介する従来の振り分けの役割に加え、地域の最終的受皿として看取りまで診療を完結する役割を医療費抑制の点から重視しているようです。昨年厚労省から出された「保健医療2035」の提言の中に記された、かかりつけ医機能評価を強化するため「ゲートオープナー」機能確立を目指す文言があります。その中で、かかりつけ医を受診した場合の「患者負担軽減」という提案もなされており、すべての患者は「かかりつけ医」というゲートを通過することなく他医療機関へアクセスすることを制限

するもので国民皆保険制度の本幹であるフリーアクセスの阻害が懸念されます。

また、新専門医制度における総合診療専門医は、2年の臨床研修を修了したのちに選択する19の基本領域に含まれ、あくまで学問的基盤を持つ専門医の1つとして位置づけていくことが重要であると考えます。出来得れば、一つの方向性として、日医が生涯教育制度を通じて質の向上を図ろうとする日医認定「かかりつけ医」を、「総合診療専門医」に時間をかけて移行させるとの方向性が示されればもっと良い制度になるかもしれません。ただし、その際日医は専門医機構に劣らぬ育成や質の保証をし、認定医の資格取得に対し高いハードルを設定する必要があります。

参考までに主な欧州各国のかかりつけ医制度の概要をみますと以下に示すようになっています(厚労省HP 出典：高齢社会における医療報酬体系のあり方に関する研究会報告書 イギリス・フランス・ドイツ 医療関連データ集【2005版】OECD Health Division)。

イギリス

- 全ての住民に対して、原則無料で、包括的なサービスを提供
- 住民は、予め登録した診療所で診療を受け、必要に応じて紹介の下に病院の専門医を受診
- 住民は、自由に診療所の登録を変更できる

ドイツ

- 保険診療は家庭医診療と専門医診療に区分され、家庭医診療は一般医・小児科医・家庭医診療を選択した内科医等が従事している

- 国民は最初に家庭医を受診することは義務付けられてはいない

- 紹介状を持たずに受診した場合は10ユーロを負担する

- 国民の約9割がかかりつけの家庭医を持っており、事実上ゲートキーパーの役割を果たしている

フランス

- かかりつけ医にかからない場合は、負担金が増額

- かかりつけ医の選択は自由であるが、98%は一般医から選ばれている

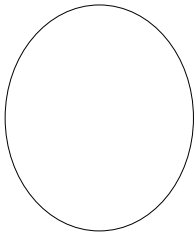
- かかりつけ医の変更はいつでも可能

- 小児科、精神科、産婦人科、眼科、歯科については、かかりつけ医を通さずに受診しても負担金の増額はしない

最後に、当県においては、本研修制度は一般会員にまだ十分に周知されていないと思えます。ただ、平成28年5月22日に開催された応用研修会(日医TV会議)に161名の会員が参加し、関心の深さがうかがえました。本制度はまだ開始されたばかりであり、この認定医を取得するインセンティブは明確ではありません。また、今回日医がスタートした本制度は、かかりつけ医機能をステップアップ(充実・強化)することに主眼をおいた研修制度であるので保険診療上の位置付けがどのようになるかは不明です。しかし、できるだけ多くの会員の先生方が「かかりつけ医」としての認定医を取得することが大事であると認識しています。

就 任 挨 拶

宮崎大学医学部教授就任挨拶

消化器内科学講座 教授 ^{かわ}河 ^{かみ}上 ^{ひろし}洋

2016年4月1日付けで、宮崎大学に新設されました消化器内科学講座の教授、診療科長を拝命いたしました。この場をお借りして宮崎県の皆様に謹んでご挨拶申し上げます。

私は神奈川県出身であり、1996年に北里大学医学部医学科を卒業し、卒業後は北海道大学医学部第三内科(現消化器内科)に入局しました。1997～1999年に網走厚生病院で地域医療を学び、1999～2001年に手稲溪仁会病院消化器病センターで消化管・肝臓に加え、胆膵疾患の専門研修を受けました。2001年には帰局し、2001～2005年まで膵癌に対する血管新生阻害に関わる遺伝子治療による基礎研究を行い、医学博士号を取得しました。2005年に助手、2007年に助教、2015年に講師、診療准教授を経て、現在に至っております。学位取得後は一貫して、北海道大学病院消化器内科で良・悪性を問わず、すべての胆膵疾患に対して診療を行っております。

宮崎大学では、私の教授就任と同時に医学部附属病院内に消化器病センターが開設されました。既存の内科学講座に所属する消化管・肝疾患を診療されている先生方や外科学講座の先生方と共働しつつ、消化器・肝・胆膵疾患診療に日夜従事しております。

診療では、これまで通り、主に胆膵疾患に対して低侵襲的な内視鏡を用いた診断と治療を行っております。特に、近年進歩の著しい先進医療の1つである、超音波内視鏡関連手技を積極的に行っております。これまで県内で行われることがなかった先進手技ですが、現在では日常的に施行することができるようになっております。

研究では、内視鏡手技を行うだけでなく、エビデンス確立のために臨床研究の発案・遂行を積極的に行っていきます。現在早速ですが、全国的な多施設共同無作為化比較試験を開始させていただいております。臨床医の発想ならではの研究により患者様に直接還元できるような研究を行っていきます。

教育では、座学中心の教育ではなく、臨床の現場での教育が最も重要と考えております。医学部ならびに附属病院において、2017年度より臨床実習に携わることになりました。医学・医療の指導者、地域の専門医の育成に取り組んでまいります。

これまでの経験を活かし、近郊はもちろん、遠方からも患者様をご紹介していただけるよう一生懸命に努力し、県下の皆様から信頼される消化器内科、胆膵疾患専門施設を目指していきます。

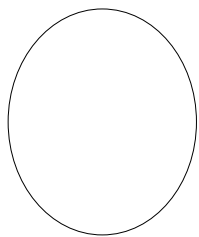
患者様の高齢化、重症化、複雑化に伴い、診療ガイドラインに基づきつつも、患者様一人ひとりに合わせた診断・治療法の選択が重要になってきます。消化器内科の枠組みにとらわれることなく、大学内の連携はもちろん、基幹、地域病院や診療所の先生方との連携も密にすることで、診断・治療方針を決定していきたいと思っております。

現在、産声を上げたばかりの消化器内科学講座は非常に小さなチームではありますが、臨床医として患者様に向き合う姿勢を忘れずに、和を大切に、志を高く持ち続け、常に努力していきます。

全力で診療、研究、教育に尽くし、貢献できるように誠心誠意努力してまいります。これから長い目で、ご支援ならびにご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

就 任 挨 拶

宮崎大学医学部教授就任挨拶

感染症学講座 微生物学分野教授 ^{あたらし}新 ^{りゅういちろう}竜一郎

2016年3月1日付で、宮崎大学医学部感染症学講座微生物学分野教授に就任いたしました。宮崎県医師会の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

私は名古屋市で生まれ、2歳から高校まで静岡県で育ちました。その後、長崎大学医学部を1995年に卒業し、基礎医学研究の道を志しました。当時でも基礎医学研究を目指す学生は少なかったのですが、もともと研究という創造的な活動に対するあこがれが強く、基礎医学系の大学院に入学しました。私はこれまで、プリオン病(伝達性海綿状脳症TSE)を主要研究テーマとして研究を行ってきました。大学院修了後の経歴としてはポスドクとして約2年研究を行いました。同時に大学院生の指導や細菌学実習などの教育活動にも従事しました。

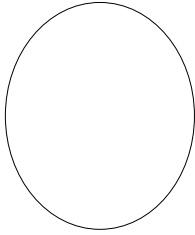
その後、機会を得て2004年の9月よりアメリカ、モンタナ州にあるロッキーマウンテン研究所(RML)に留学しました。RMLは、自然に恵まれた人口約3,000人の町ハミルトンにあり、今でも時々そのゆったりとした暮らしを懐かしく感じます。RMLではアメリカらしい分業体制が行き届いており、留学中は研究活動に専念することができました。帰国後、アメリカの研究教育職における人事システムであるテニュアトラック制度が日本でも試験的に導入され、長崎大学でテニュアトラック助教として採用されました。その頃から実習に加え、微生物学の

講義、医学ゼミ、教養ゼミなども担当しております。そしてテニュア獲得のため提示されていた条件(論文や外部資金獲得など)をクリアし、2012年からは准教授として教育、研究活動に携わっておりました。

宮崎大学ではプリオン病の研究に加え、それ以外の神経変性疾患、たとえばアルツハイマー病やレビー小体型認知症(これらの疾患は異常凝集タンパクが神経系に蓄積し、病態に深く関与するという点で共通のメカニズムを有する)、さらにその他の微生物など自らの専門領域を広げて新たな問題にも取り組みたいと考えています。学部教育においては宮崎大学のスローガンである「世界を視野に地域から始めよう」に基づき、「微生物学を通して世界を見る人材育成」を目指したいと考えています。一方では研修制度も変わり、我々の時代でも少なかった基礎医学系講座へ進学する大学院生がさらに減少し、医学部出身者に至ってはもはや絶滅危惧種といっても過言ではありません。国立大学への運営交付金も毎年減額され、大学組織の疲弊は進んでいますが、それでも教育と研究において地方大学の存在意義を戦略的に示し、大学教官自身が声を上げていくことが現在の大学組織に対する圧迫的な政策の見直しを迫るためには必要であると考え、希望を失わず努力していく所存です。

最後になりましたが、今後とも宮崎県医師会の皆様方にはご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

随 筆



離れの増築をめぐって

西都市 西都病院 友^{とも}成^{なり}久^{ひさ}雄^お

一昨年離れを増築した。20年前に妻のアトリエとして建てていたプレハブが雑多な持ち物も詰め込まれて、満杯になっていたからだ。絵は一階では湿気で傷むので、二階の部屋でないといけないという。2階建てにすると階下に狭くない一間が取れるから、そこを以前から母屋に欲しかった応接間にすることにした。

10畳大の洋間だが、そこを私の部屋にして私が管理することにした。私の趣味の基を打つテーブルと椅子を窓際に置き、さらに書斎コーナー、喫茶コーナーなどを設けた。ソファも置くので、椅子やテーブルは多いが、こごこした物品は何も置かないことにしたので、畳数の割に空間が広く、意外にすっきりしている。

さらに予想以上だったのは壁面が広いことだった。額縁の絵は本棚や水屋の上にも置けるので、10点以上も飾れた。ほとんどは複製画だが、その多くはモナリザやルノワール、ゴッホ、セザンヌなどの名作である。私がかつとも気に入っているのは印象派のピサロの風景画である。これはキャンバスに印刷してあるので、本物のように見える。もっとも、本物は美術展でも見たことはない。それを中央の壁面に飾り、両サイドにモナリザとセザンヌの果物の絵を飾った。この3点は常設にしてもいいと思っている。

これらの複製画は20点近くあったが、母屋では荷物が増えて飾る場所がなく、一部しか見ていなかった。新しい部屋は明るく、絵も目線に

近い高さに飾ったので、より美しく見える。多目的な応接間だが、三方の壁に自分の好きな絵を10点も飾ると部屋はなんともいい雰囲気で、ここに居だけで快く、幸せな気分になる。また、天気の良い日に明るい自然光で見ると、すべての絵が一段と輝きを増す感じである。

モナリザは最近手に入れたのだが、じっくり眺めてみると、人物の衣装やバックなどにかなり赤みがかった部分があることに気づいた。20年前にルーブル美術館で見た時黒っぽく感じられた本物とは少々印象が違った。全体の暗い神秘的な雰囲気や女性の鋭い目つきなども気にならず、やはり何百年もの時を超えて変わらない世界の名画なんだと改めて感じ入っている。

応接間の奥には3畳大のミニキッチンと納戸が造れた。キッチンの壁の上部は空いているし、納戸の棚の上も額縁を立てかけられる。それぞれに7、8点も飾れるではないか、キッチンには主に風景画を並べ、納戸にはゴッホの「幻の向日葵」、青木の馬、スーラの代表作などを置いた。すると20年ぐらい前から集めていた約30点の絵をほとんど全部飾れたのは感激的だった。絵を持っても眺められないのではつまらない。一階は玄関からどこに行っても絵があり、予想外の「絵の離れ」になった。通常、絵などは飾らないキッチンや納戸などもすっきり片付いているためか、絵が並んでいても違和感がない。私は離れに行くと奥の納戸まで覗きたくなる。所帯道具のない今の状態をずっと維

持したいものである。

40年近く前、家を新築するときには、親戚などの客を泊められる和室の客間を増築する予定で、母屋の端にスペースを残しておいた。しかし、ほとんど必要性を感じなかったこともあって、一向に実現しなかった。それが35年経って、予想もしなかった妻のアトリエを造ることになり、その副産物として広い応接間ができたのだ。常に片付いている応接間があるのは、不意の客やあらゆる客に対応できて便利だが、

もっとも大きな収穫は多くの絵を飾れたことだった。絵は額縁に入れて壁に飾って眺めるのがもっとも美しく、部屋全体も優雅な雰囲気になる。

最後に蛇足を付け加えると、南に面した窓際は非常に明るく、老眼でも文字がよく見える。年で早起きになった私はそこで新聞を読むのが楽しみの一つになった。自画自賛のようだが、離れはなかなかいいものだと思いつくづいてくる。

医 療 事 故 調 査 制 度

宮崎県医師会 相談窓口

宮崎県医師会は支援団体として、県内の医療機関をサポートいたします。

医療事故の判断に迷った時、また、医療事故と判断した時は、宮崎県医師会までご連絡ください。

宮崎県医師会 電話 0985-22-5118

【受付時間】

平日の8時30分から18時、土曜日8時30分から12時30分の時間帯は、県医師会事務局の代表電話(0985-22-5118)で対応いたします。

時間外または日曜祝祭日等県医師会が対応できない場合は、国が指定した東京の医療事故調査・支援センター相談専門電話(03-3434-1110)にご連絡ください。

【その他】

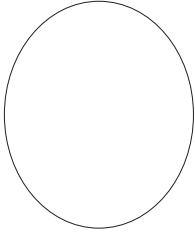
この制度は、医療事故の再発防止により医療の安全を確保することを目的にした制度です。対象事案を報告するか否かについては、医療機関の管理者が組織として判断することになっており、ご遺族から医療事故調査・支援センターに直接報告や調査依頼をする仕組みではありません。

エコー・リレー

(496回)

(南から北へ北から南へ)

昭和のピアノ

延岡市 おおぬきクリニック ^{にし}西 ^{けい}桂 ^こ子

「500円でピアノを引き取ってくれるって」と、母がつぶやいた。

ピアノが我が家にやってきた日、幼い私は嬉しすぎて、夕暮れて楽譜が読めなくなるまで弾き続けた。しかし、大人になって以後、ピアノは実

家に放置されたままとなり数十年の歳月が流れていた。

布カバーの中のピアノは、埃とカビでまだら模様を呈している。ふたを開けると湿っぽい薄汚れた鍵盤が現れ、調子の狂った音が悲しげに響いてくる。自分のせいでこのまま処分されるかと思うと、いたたまれない。しかも500円！処分を断り、専門の方に状態をみてもらったところ、「いいピアノです。よみがえりますよ」と思いがけない返事。翌日、ピアノはトラックの荷台に乗せられて、遠い地にあるピアノ製作所へと旅立っていった。そこで一度解体された後、修理と再塗装が施され、数か月後に戻ってきた。漆黒の艶を放ち、年月を経た静かな存在感を伴って。

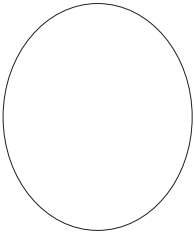
担当の方によると、当時のアップライトピアノとしてはかなり大きく内部の装置も外板も相当上質のものであったとのこと。この種のピアノはもう製作されておらず、工場でも多くの職人さんが見学に来たとのこと。

私はごく普通のサラリーマン家庭に育った。母は専業主婦である。両親は、どんなやりくりをしてどんな思いで、50年近く前の昭和の時代に、娘のためにこのピアノを購入したのだろうか。

命を得て戻ってきたピアノの前で多くの想いが交錯し、胸が熱くなった。

[次回は、宮崎市の皆川 明大先生をお願いします]

猟犬と室内犬

宮崎市 宮崎大学放射線科 ^{なか}中 ^だ田 ^{ひろし}博

私は入郷の山奥で育ったのだが、裏山で猪に遭遇し猛烈に走り去るのを見て命の危機を感じることもあった。それ故、いざ猟になると自分よりも大きな相手に勇敢に立ち向かう猟犬に対して、畏敬の

念を抱いていた。噂を聞きつけた県外の猟師から、優秀な猟犬の譲渡を依頼された、との自慢話を親戚のおじさんからよく聞かされたものだ。

そこで自分も犬を飼おうと思い、早速研修医時代にミニチュアシュナウザーを購入した。だがさすがに研修医の身で犬を飼うのは無謀であり、洪々田舎の実家に預けることになった。ただ、室内用の小型犬が自然の中でのびのびと育ち、天寿を全うしたのは幸せであったと思う。

前回の失敗を反省し、家族で世話ができるようになってから、二代目のトイプードルを購入した。私の運動不足解消のため夜中の散歩に付き合ってもらっているのだが、どうやら真夏と真冬、雨の日は犬も辛いらしく、散歩に行きたがらない。最近では散歩に行きたい日は尻尾を振って出迎えるのだが、行きたくない日は机の下に隠れるようになり、犬の表情で喜怒哀楽が分かるようになってきた。どの犬も猟犬のように、天候に関係なく毎日散歩に行くものかと思い込んでいたのだが、感情豊かで人間くさい我が家の犬も見てて面白い。ただこれくらい医学生 of 気持ちを読み取れるようになれば、もっと県内の放射線科医を増やせるのだが、と思うこの頃である。

[次回は、延岡市の今田 真一先生をお願いします]



あなたできますか？

－平成27年度 医師国家試験問題より－

(解答は49ページ)

- 1 転移性肝癌において肝切除術により予後の改善が最も期待できるのはどれか。
 - a 乳 癌
 - b 肺 癌
 - c 胃 癌
 - d 腓 癌
 - e 大腸癌
- 2 高齢女性の占める割合が高いのはどれか。2つ選べ。
 - a 臍ヘルニア
 - b 大腿ヘルニア
 - c 内鼠径ヘルニア
 - d 閉鎖孔ヘルニア
 - e 外鼠径ヘルニア
- 3 日齢0の新生児。常位胎盤早期剥離のため緊急帝王切開で出生した。在胎40週，出生体重3,285 gであった。出生直後は啼泣がなく，刺激によって30秒後から不規則な呼吸が出現したが，微弱であったため1分過ぎからマスク持続気道陽圧呼吸を開始した。脈拍は出生直後70～80/分であったが，1分後には100/分以上となった。出生時から筋緊張は正常より低下し全体は蒼白であったが，1分半後から刺激に対して反応が見られるようになった。
この児の1分後のApgarスコアはどれか。
 - a 1点
 - b 3点
 - c 5点
 - d 7点
 - e 9点
- 4 建築物における衛生的環境の確保に関する法律(建築物衛生法)に基づいて基準が定められ，建築物内で測定されるのはどれか。
 - a トルエン
 - b エチルベンゼン
 - c アセトアルデヒド
 - d ホルムアルデヒド
 - e パラジクロロベンゼン
- 5 保健所について正しいのはどれか。
 - a 介護認定の審査を行う。
 - b 保険医の登録先である。
 - c 労働災害の届出先である。
 - d 特定健康診査の実施主体である。
 - e 地域における健康危機管理の拠点である。
- 6 病院の臨床機能評価指標(クリニカルインディケータ)に含まれないのはどれか。
 - a 患者満足度
 - b 転倒発生率
 - c 診療の利益率
 - d 外来待ち時間
 - e 平均在院日数
- 7 微小粒子状物質のうちPM2.5について正しいのはどれか。
 - a 肺胞まで到達する。
 - b 炎症を起こさない。
 - c 2.5ng以下の物質をいう。
 - d たばこの煙には含まれない。
 - e 大気中濃度の季節変動は小さい。
- 8 病理解剖について適切なのはどれか。
 - a 異状死に対して行う。
 - b 解剖の結果を家族へ説明する。
 - c 死亡診断書の作成に必須である。
 - d 生命保険の書類作成に必須である。
 - e 死亡確認から6時間以内に行わなければならない。
- 9 医療チームが患者のQOLを評価する際に誤っているのはどれか。
 - a 患者の価値観が評価に影響する。
 - b 複数の測定指標が提唱されている。
 - c 将来の病状予想により評価が変化する。
 - d 患者の病状理解の程度が評価に影響する。
 - e 個別患者の状況に対する評価は一定である。
- 10 成人になったのを機に喫煙を開始し，20歳代の10年間は毎日20本，30歳以降の5年間は毎日40本喫煙している。その後は喫煙していない。
Brinkman指数はどれか。
 - a 15
 - b 20
 - c 300
 - d 400
 - e 600

宮崎県感染症発生動向 ～10月～

平成28年10月 3 日～平成28年10月30日(第40週～第43週)

■全数報告の感染症

- 1 類：報告なし。
- 2 類：○結核15例：保健所別報告数を【図1】に示した。患者が11例、無症状病原体保有者が4例であった【表1】。患者は肺結核が7例、肺結核及びその他の結核(粟粒結核、胸膜炎)が2例、その他の結核(右結核性胸膜炎、粟粒結核)が2例であった。性別は男性7例・女性8例で、年齢別報告数を【表2】に示した。
- 3 類：腸管出血性大腸菌感染症1例：高鍋保健所管内で報告があった。10歳代で、主な症状として腹痛、水様性下痢、嘔吐、発熱がみられた。原因菌のO血清型はO26(VT1産生)であった。
- 4 類：○E型肝炎1例：宮崎市保健所管内から報告があった。60歳代男性で、主な症状として全身倦怠感、肝機能異常、下肢痒痒感がみられた。
- 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)1例：宮崎市保健所管内から報告があった。60歳代で、主な症状として発熱、筋肉痛、下痢、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少がみられ、ダニの刺し口があり、海外渡航歴はなかった。
- チングニア熱1例：宮崎市保健所管内で報告があった。30歳代で、主な症状として関節痛、発疹、全身倦怠感がみられた。海外渡航歴があった。
- 日本紅斑熱2例：宮崎市及び小林保健所管内から各1例ずつ報告があった。年齢は20歳代と70歳代で、主な症状として発熱、刺し口、DIC、肝機能異常等がみられた。
- 5 類：○アメーバ赤痢1例：宮崎市保健所管内から報告があった。30歳代男性で、病型は腸管アメーバ症であった。主な症状として粘血便がみられた。
- カルバペネム耐性腸内細菌感染症4例：都城保健所管内から2例、宮崎市及び延岡保健所管内から各1例ずつ報告があった。
- ・60歳代で、主な症状として肺炎がみられた。原因菌は肺炎桿菌であった。
- ・60歳代で、主な症状として術後創部感染症がみられた。原因菌はEnterobacter cloacaeであった。
- ・70歳代で、主な症状として肺炎がみられた。原因菌はCitrobacter koseri (ESBL産生菌)であった。
- ・90歳代で、主な症状として肺炎がみられた。原因菌は肺炎桿菌であった。
- 侵襲性肺炎球菌感染症1例：高鍋保健所管内から報告があった。60歳代で、主な症状は頭痛、発熱、全身倦怠感、嘔吐、項部硬直、髄膜炎がみられた。ワクチン接種歴はなかった。
- 水痘(入院例)1例：宮崎市保健所管内から報告があった。60歳代で、主な症状として発熱、発疹、急性腎不全、免疫不全、他疾患入院中の発症がみられた。水痘ワクチンの接種歴は不明であった。
- 破傷風1例：宮崎市保健所管内から報告があった。60歳代で、主な症状として嚥下障害、強直性痙攣、呼吸困難(痙攣性)、易興奮性等がみられた。破傷風のワクチン接種歴は不明であった。

■5 類定点報告の感染症

定点からの患者報告総数は2,785人(定点あたり92.0)で、前月比85%と減少した。また、例年の110%と増加した。

前月に比べ増加した主な疾患は手足口病で、減少した主な疾患はヘルパンギーナと流行性耳下腺炎であった。また、例年同時期と比べて報告数の多かった主な疾患は手足口病、伝染性紅斑、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎、マイコプラズマ肺炎であった。

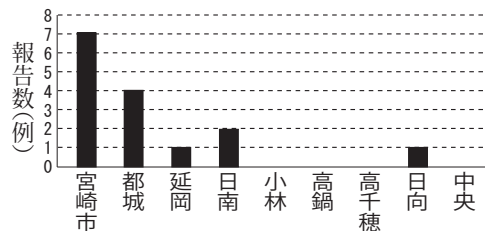


図1 結核 保健所別報告数

表1 結核 病型別報告

肺結核	7
肺結核及びその他の結核(粟粒結核、胸膜炎)	2
その他の結核(右結核性胸膜炎、粟粒結核)	2
無症状病原体保有者	4

表2 結核 年齢別報告

40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
1	3	1	3	6	1

前月との比較

	2016年10月		2016年 9 月		例年との比較
	報告数(人)	定点当たり(人)	報告数(人)	定点当たり(人)	
インフルエンザ	3	0.1	4	0.1	
RSウイルス感染症	325	9.0	426	11.8	
咽頭結膜熱	69	1.9	102	2.8	
※溶レン菌咽頭炎	164	4.6	184	5.1	
感染性胃腸炎	974	27.1	1,023	28.4	
水痘	51	1.4	69	1.9	
手足口病	589	16.4	363	10.1	★
伝染性紅斑	131	3.6	160	4.4	★
突発性発しん	113	3.1	175	4.9	
百日咳	1	0.0	3	0.1	
ヘルパンギーナ	123	3.4	191	5.3	★
流行性耳下腺炎	144	4.0	305	8.5	★
急性出血性結膜炎	0	0.0	0	0.0	
流行性角結膜炎	60	12.0	107	17.8	
細菌性髄膜炎	0	0.0	0	0.0	
無菌性髄膜炎	1	0.1	2	0.3	
マイコプラズマ肺炎	36	5.1	46	6.6	★
クラミジア肺炎	0	0.0	0	0.0	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.1	0	0.0	

★ 例年同時期(過去3年の平均)より報告数が多い

※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

手足口病の報告数は589人(16.4)で前月の約1.6倍、例年の約3.0倍であった。宮崎市(27.1),日向(24.0),日南(21.7)保健所からの報告が多く、年齢別では1～2歳が全体の約6割を占めた。

伝染性紅斑の報告数は131人(3.6)で前月の約0.8倍、例年の約5.6倍であった。小林(7.3),日向(5.8),高鍋(4.5)保健所からの報告が多く、年齢別では4～6歳が全体の約半数を占めた。

ヘルパンギーナの報告数は123人(3.4)で前月の約0.6倍、例年の約1.9倍であった。日向(8.0),延岡(6.3),中央(6.0)保健所からの報告が多く、年齢別では2歳以下が全体の約8割を占めた。

流行性耳下腺炎の報告数は144人(4.0)で前月の約0.5倍、例年の約2.1倍であった。高千穂(14.0),日向(6.8),小林(5.7)保健所からの報告が多く、年齢別では3～6歳が全体の約半数を占めた。

マイコプラズマ肺炎の報告数は36人(5.1)で前月の約0.8倍、例年の約18倍であった。宮崎市(16.0),延岡(8.0)保健所からの報告が多く、年齢別では4歳以下が全体の約4割を占めた。

■月報告対象疾患の発生動向

＜2016年10月＞

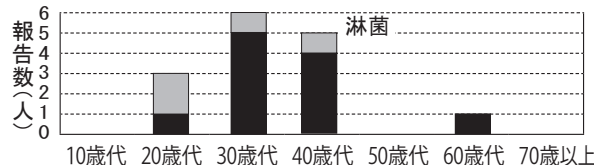
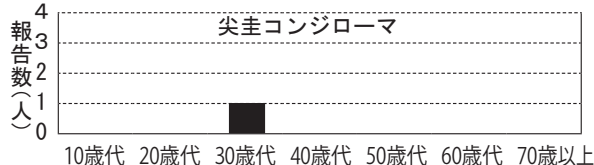
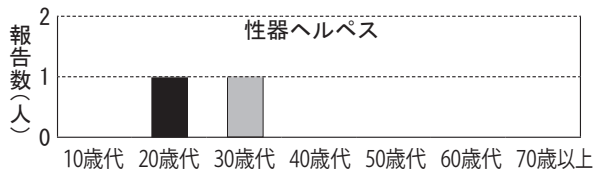
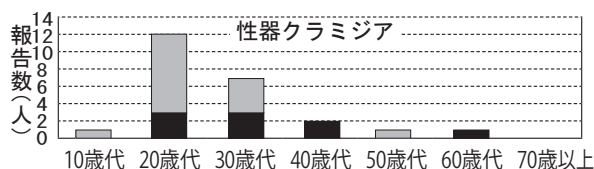
□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は42人(3.2)で、前月比120%と増加した。また、昨年10月(2.6)の約1.2倍であった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数24人(1.9)で、前月(1.5)の約1.2倍、昨年10月(1.5)の約1.2倍であった。20歳代が全体の半数を占めた(男性9人,女性15人)。
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数2人(0.15)で、前月及び昨年10月(0.15)の1.0倍であった(男性1人,女性1人)。
- 尖圭コンジローマ：報告数1人(0.08)で、前月(0.23)の約0.3倍、昨年10月(0.15)の約0.5倍であった(男性1人)。
- 淋菌感染症：報告数15人(1.2)で、前月及び昨年10月(0.77)の約1.5倍であった(男性11人,女性4人)。



■男 ■女

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は15人(2.1)で前月比125%と増加した。また、昨年10月(2.4)の約0.9倍であった。

《疾患別》

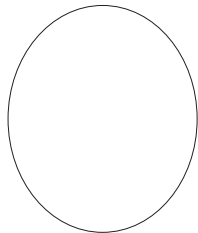
- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数15人(2.1)で、前月の約1.3倍、昨年10月(2.3)の約0.9倍であった。70歳以上が全体の約9割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

(宮崎県衛生環境研究所)

■病原体検出情報(微生物部)

	検出病原体	件
ウ	水痘・帯状疱疹ウイルス	1
	パラインフルエンザウイルス1型	3
	ライノウイルス	1
イ	RSウイルス	4
	コクサッキーウイルスA6型	1
ル	コクサッキーウイルスA16型	5
	コクサッキーウイルスB5型	1
ス	サイトメガロウイルス	1
	ヘルペスウイルス6型	1
細	<i>Bordetella parapertussis</i> (パラ百日咳菌)	1
	<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	1
	腸管出血性大腸菌 (EHEC) (O157:H7 VT2)	1
	<i>Salmonella</i> Miyazaki (09:l,z13:l,7)	1
	<i>Salmonella</i> Stanley (04:d:1,2)	3
	<i>Salmonella</i> Singapore (07,6:k:e,n,x)	1
	<i>Salmonella</i> Newport (08(06):eh:l,2)	1
菌	<i>Salmonella</i> Thompson (07:k:l,5)	1

メディアの目



見たいものしか見えない

南日本新聞社 宮崎支局長

しげ はたけ しゅう いち
重 畠 修 一

20年以上前、妻の妊娠が分かったとき、突如、街中が妊婦とベビーカーを押す人であふれた。会社に向かうバスの中にも出現し、思わず席を譲ったりした。昨年、宮崎赴任が決まった際は、新聞記事や通りの看板などから「宮崎」の文字が浮かび上がってきた。

ことわっておくが、働き過ぎによる幻覚ではない。もともと日常に存在していたもののなのに、興味がなく、目に映っても脳が認識していなかっただけなのだ。

「人は自分の見たいものしか見ようとしないう」と言ったのはシーザーだったか。いつも通る道沿いに、ある日さら地が出現しても、以前何が建っていたのか思い出せない。

昨年の10月28日、同じような(逆の)経験をした。昼下がりの宮崎山形屋に向かう横断歩道。顔見知りのテレビ局アナウンサーが「街頭インタビューに答えてくれる人がつかまらない」とぼやくのを聞きながら、信号待ちしていた。

青になり横断歩道を渡り始めたとき、アナウンサーがカメラマンを促して、カーリノ方向に猛ダッシュした。「あー、インタビューできそうな人がいたのか。頑張れ」と心でつぶやきながら、自分の取材に向かった。

1時間以上して、鹿児島県の高齢者が起こし

た、6人が死傷する歩道暴走事故のことを知った。現場に駆けつけたとき、すでにドクターヘリの姿はなく、横転した加害者の車が重機でつり上げられるところだった。先のアナウンサーはスクープ映像をものにしていて。

加害者の車は事故の端緒となった山形屋交差点で歩道に進入した際、筆者の真後ろを通過したようだ。後になって思えば、白い軽自動車がコンビニ前の歩道を通るのが、目の端に映ったような気もする。そのときはコンビニに荷物を降ろす業者だろうと、違和感を抱かなかった。

事故から1年以上たつが、宮崎地裁で開かれている裁判は継続中で、事故原因が被告のてんかんか認知症かを争っている。裁判を毎回傍聴しているが、被告は、何の興味もないように見える。

何の落ち度もなく犠牲になった2人と、けがをした4人のことを思うといたたまれない気持ちだ。また、証人尋問に協力した医師や目撃者も、検察、弁護士に記憶違いなどを指摘され、プライドをひどく傷つけられていたようで、尋問のあり方に疑問が生じた。

被告は唯一、裁判長の言葉には反応し、話す方向に目を向ける。彼の目には何が映っているのだろうか。

宮崎県医療勤務環境改善支援センター

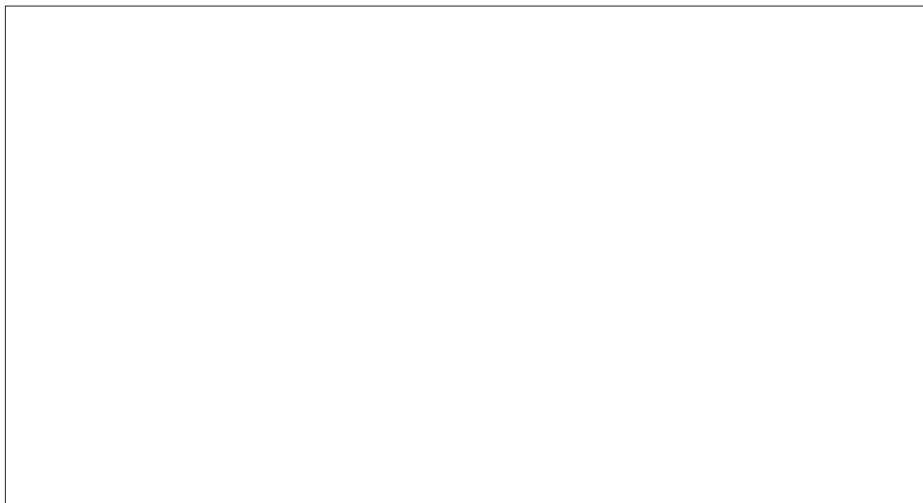
各郡市医師会だより

西臼杵郡医師会

会長 佐藤 元二郎

西臼杵地区では今年度、医師会、保健福祉総合センターを中心に西臼杵在宅医療・介護連携推進協議会を発足させ、3町の医療、介護、福祉の関係者と協働して医療資源の乏しい当地区においてまだ十分ではありませんが、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、さらなる地域包括ケアの取組みを進めているところです。今年度も在宅医療を進める研修会として、ケアマネジャー、ヘルパー、その他医療・医療介護にかかわる多職種のための医療研修会を計5回開催しました。井上病院の井上博先生、五ヶ瀬国保病院の崔林承先生、けいめい記念病院の岡原一徳先生、湯布院病院の本木ちはる看護師、また当地区の保健師、理学療法士の方々から講演をしていただき、参加者も多く大変好評でした。また西臼杵広域消防と郡内医療機関との事例検討会を毎月1回行い連携を深めております。12月3日に県内の医療従事者を目指す多職種の学生30名を高千穂町に招いて多職種連携の勉強会に加え、宿泊しながら高千穂の文化(夜神楽)を学び地域住民との交流を深める多職種連携教育プログラムを郡内で実施し、12月4日には西臼杵・町民公開講座として各町からの実践報告、宮崎大学教授の吉村学先生をお招きし「あんきにコロリ〜この町に住んでて良かったと思える町づくりと人づくり〜」の講演が開催されます。今年3月、高千穂にて多職種の学生による多職種連携の勉強会(パネルディスカッション等)が初めて開催され、後日、各学生の学習効果、学習に対するモチベーションが高くなったと報告があり再度勉強会を当地区で県寄附講座(宮崎大学医学部地域医療・総合医療医学講座)として行われることになりました。将来、西臼杵地区における医療・介護の即戦力として一人でも地域医療に従事してもらえればありがたいと思います。

さて、4月1日より6期目の会長職に留任することになりました。会員もマンパワー不足で少人数のまま運営しており役員に大きな変動はありません。今後も西臼杵地区の中核病院である高千穂国保病院長の久米修一先生、保健福祉総合センター所長の興沼知子先生をはじめ会員の先生方のご協力を仰ぎながら、植松副会長と精一杯努力したいと思います。どうぞ、これからもよろしくお願い申し上げます。



西臼杵郡医師会新役員

役員等名簿（任期 平成28年6月1日定例総会終結後～平成30年5月31日定例総会終結時）

役職名	氏 名	診 療 科	所属医療機関	担 当 業 務
会 長	佐藤元二郎	内科，胃腸科 小児科	佐藤医院	会務全般
副 会 長	植松 昌俊	精神科	国見ヶ丘病院	介護保険，健康教育，予備代議員 学校健診，学校医部会
理 事	古賀 志朗	内科，胃腸科 小児科	古賀医院	学校保健，学校心臓検診 県医師国保組合会
〃	久米 修一	外科	高千穂町国保病院	病院部会，救急医療 外科医会評議員，地域医療構想委員
〃	白石 達史	内科，小児科	田原診療所	産業医部会，福祉委員
〃	田上 恒雄			
監 事	後藤 幸一	内科，小児科	後藤医院	地域医療保険委員
〃	田崎 清廣	婦人科，内科	国見ヶ丘病院	医療関係者対策委員 諸規定検討委員
* 議 長	植松 昌俊	精神科	国見ヶ丘病院	
副 議 長	後藤 幸一	内科，小児科	後藤医院	
在宅医療協議会	興梠 知子	小児科	高千穂町国保病院	学校腎臓検診，裁定委員
* 勤務医部会	崔 林承	外科	五ヶ瀬町国保病院	病診連携
〔医師国保支部長〕 〔准，看〕	佐藤元二郎	内科，胃腸科 小児科	佐藤医院	
〔県医代議員〕	佐藤元二郎	内科，胃腸科 小児科	佐藤医院	

*は新任

各郡市医師会だより**宮崎大学医学部医師会**会 長 ^{さめ} 島 ^{しま} ^{ひろし} 浩

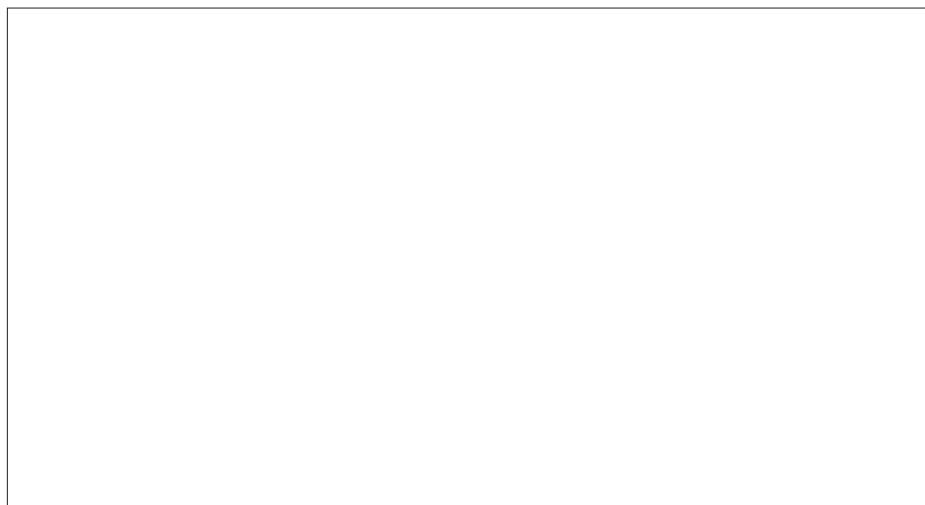
平成28年4月に宮崎大学医学部附属病院長に就任しました。それに合わせて、医学部医師会も新たな役員体制となりました(表)。宮崎県医師会員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

医学部医師会では、宮崎県内で唯一の大学医療機関であること、臨床上の「最期の砦」として地域の医療機関と連携をとりつつ高度で先進的な医療を提供すること、臨床医学と医学発展の両輪として充実させること、等を理念として活動を続けています。

現在の最大の課題のひとつは宮崎における医師の増員です。そのために多くの取組みを行っています。例えば、地域枠受験生などのアドミッションポリシーへの取組み、医学部5年生と6年生でのキャリアデザインサポートを介した宮崎県への定着の試み、選択度・自由度の広い多彩な研修医制度の提供、新専門医制度への適切な対応、女性医師へのキャリアデザインサポートやポジティブアクション、等々です。各医師会と協力して医師数増加に向けて取り組んでまいりますので、今後ともご協力をお願いいたします。

また、住民目線から分りやすい診療体制の再編も進めています。外科に関しては平成27年から外科学大講座制に移行し、臓器や疾患毎に診療方針を統合しつつさらに発展していきます。また、平成28年からは消化器病センターも開設し、診療と教育に新風を吹きつつ消化器病診療の基幹施設として活動を広げつつあります。

今後とも各医師会、宮崎県の行政の皆様と協力し、われわれも一丸となって努力してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。



宮崎大学医学部医師会新役員

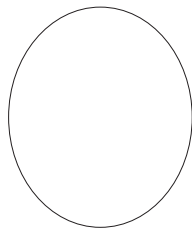
役員等名簿（任期 平成28年6月1日～平成30年6月教授会まで）

役職名	氏 名	担 当 業 務
* 会 長	鮫島 浩	大学理事，病院長
副会長	中里 雅光	内科学講座神経呼吸内分泌代謝学分野教授
* 理 事	帖佐 悦男	県医師会理事，感覚運動医学講座整形外科学分野教授
〃	荒木 早苗	県医師会常任理事，コミュニティ・メディカルセンター
〃	東野 哲也	感覚運動医学講座耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野教授
〃	布井 博幸	生殖発達医学講座小児科学分野教授
* 監 事	直井 信久	感覚運動医学講座眼科学分野教授
〃	竹島 秀雄	臨床神経科学講座脳神経外科学分野教授

*は新任

宮崎大学医学部だより

解剖学講座 ー組織細胞化学分野ー



ひしかわ よしたか
菱川 善隆 教授

解剖学講座組織細胞化学分野(旧・解剖学第一講座)では形態科学を基盤とした教育・研究を行っています。2016年12月現在のメンバーは、菱川善隆教授以下、Choi Jookhuu Narantsog 助教(モンゴル国出身)、Phyu Synn Oo 助教(ミャンマー国出身)、山口優也 助教の4名の教員と、医学獣医学総合研究科大学院生としてBaatarsuren Batmunkh(博士課程4年：モンゴル国出身)、Mohmand Noor Ali(博士課程3年：アフガニスタン国出身)、杉田直大(博士課程2年)、Myat Tin Htwe Kyaw(博士課程2年：ミャンマー国出身)、Naparee Srisowanna(博士課程2年：タイ国出身)、Nguyen Nhat Huynh Mai(博士課程1年：ベトナム国出身)、Uugantsetseg Byambatsogt(修士課程2年：モンゴル国出身)の7名が在籍しており、事務補佐員の川並知子さんを含め総勢12名で構成されています。

このように、当教室は国際色豊かなメンバーで構成されています。特にミャンマー国とは、菱川教授が長崎大学在任中より、十数年にわたり国際交流を続けており、ミャンマー国の医療レベルの向上に寄与できるよう同国研究者の育成や学術交流に積極的に取り組んでいます。具体的には、科学技術振興機構による「さくらサイエンスプラン」に於いて2014年よりミャンマー国を中心とした若手研究者や技術者を多数受け入れています。今年も11月に、ミャンマー国より10名の若手研究者が宮崎大学医学部に分子組織細胞化学に関する方法論をはじめとする最新の研究を学ぶために来日しました。また、JICA草の根事業として、昨年度より宮崎大学とミャンマー国保健省が中心となって“ミャンマー国ヒ素汚染地域における衛生保健の実

施体制強化プロジェクト”をミャンマー国エーヤワディー川流域のヒ素汚染地域で始めていますが、当教室からも菱川教授、Phyu Synn Oo 助教、Myat Tin Htwe Kyaw さんが主要メンバーとして活動しています。今後も今まで築いてきた交流をもとに、ミャンマー国のみならず様々な国との国際学術交流を進めていきたいと考えています。

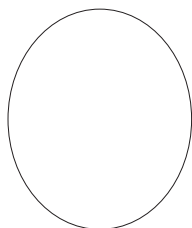
研究面では、組織内での蛋白質の局在検出法である免疫組織化学、転写因子の解析法としてのサウスウェスタン組織化学、あるいは遺伝子の発現動態を解析するin situハイブリダイゼーション法といった様々な分子組織細胞化学的方法論を用いて、生命現象の本質にせまる研究を行っています。さらに他の研究室や他大学との様々な共同研究も積極的に行っており、それぞれの強みを活かしてインパクトのある研究を世界に発信していけるよう日々努めています。また、教育では、発生学、組織学総論、組織学各論を担当しています。医学部学生に的確な標本観察力による正常構造に対する深い理解と知識を習得させ、病理学をはじめその他の基礎医学、更にそれに続く臨床医学を十分に理解するのに必要な基本的学力を身に着けさせることを目標として講義・実習を行っています。特に組織学・肉眼解剖実習では、超微形態科学分野(旧・解剖学第二講座)と密接に連携をとりながら実習に取り組んでいます。

教育・地域貢献の一環として、宮崎県内の看護師、救急救命士、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士等を目指す学生を対象にした解剖学標本示説実習も両講座で実施しています。教科書だけでは学び得ない人体の精緻な構造を解剖体や臓器標本から理解するとともに、「生と死」、「献体の意義」を考える機会になっていると考えています。本年度は、中・高校生を対象にした「サイエンスキャンプ」も担当しました。これからも医学部学生のみならず、より若い世代に「生命の不思議さ」を実感できるようなプログラムを積極的に実施して、宮崎大学医学部を社会にアピールしていきたいと考えています。

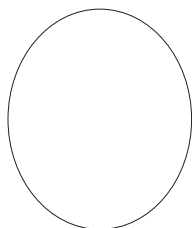
今後とも会員の皆様のご指導ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。(助教 山口 優也)

部会だより

病院部会・医療法人部会



病院部会
はますな しげひと
濱砂 重仁 部会長



医療法人部会
あいざわ きよし
相澤 潔 部会長

病院部会は、県内の公私立病院118医療機関、医療法人部会は、公私立病院69医療機関を会員として構成され、病院部会は私、濱砂、医療法人部会は相澤潔先生を部会長に医療圏毎に選出された17名の役員で事業を行っております。病院部会と医療法人部会は合同で活動を行っており、理事会において、私が全日本病院協会及び診療報酬委員会の報告、相澤部会長が日本医療法人協会の報告、そして県医師会の役員である池井理事が県医師会の事業を報告し、会員の医療機関が必要とする情報や研修会等を検討しております。

例年6月に合同総会を行った後、10月の合同研修会で、診療報酬改定などホットな話題をテーマとした講演会、3月の医療従事者研修会で、医療関係の話題に加え、一般教養を取り入れた講演も行っています。また、会員の医療機関より長年に渡り貢献されている職員の表彰を10名前後行っております。

平成28年度の活動としては、11月12日に開催した合同研修会で「医療提供体制はどうか」と題して、全日本病院協会副会長猪口雄二先生から、また「平成28年度診療報酬改定後の

動向」と題して、全日本病院協会医療保険・診療報酬委員会西本育夫先生に、地域医療構想等の医療制度改革に関する情報や診療報酬改定のポイント等、今後の医療機関の経営方針に関する講演を行っていただき、多くの院長または事務局長などに参加いただきました。また、3月4日には医療従事者研修会を予定しております。

現在、病院経営と直結する問題である社会保障制度改革に関して、先日2025年に向けた宮崎県の地域医療構想が公表されました(詳しくは宮崎県のホームページをご覧ください)。各医療圏共に2014年度の病床機能報告と2025年の必要病床数を比べると全体的必要病床数は減少させていくことになっています。病床種別でみると急性期は現在の数では過多であり、反対に回復期は、数が足りない状況になる見込みです。病院としては、これからその地域でどのような役割を担いながら経営を存続していくのかを判断していかなければなりません。

宮崎県の基本理念である「いつでも、どこでも必要な医療サービスが受けられる医療体制の確立」のためには、病院は必要不可欠な存在です。2025年に向けて、会員の先生方がしっかりと将来を見据えた病院経営ができ、質の高い地域医療を提供していけるよう、行政や医師会と連携し、情報提供や研修会の開催などを行っていきたいと考えております。

(病院部会長 濱砂 重仁)

－ 各種委員会 －

健康スポーツ医学委員会

と き 平成28年10月7日(金)

ところ 県医師会館

佐藤理事の司会により開会、河野会長の挨拶に続き、本会全理事協議会において本委員会委員長に田中俊正先生、副委員長に松村隆先生の就任が承認されたことが報告された。次に河野会長から諮問事項「宮崎県スポーツドクター連盟の今後の活動について」が示され、任期中に協議・答申することとなった。その後、田中委員長の進行で報告・協議が行われた。

報 告

1. 平成27年度県民健康セミナーについて

2月21日に開催した県民健康セミナー「健康寿命を延ばそう～元気で豊かな人生のために～」について報告があった。

2. 平成27年度県医健康スポーツ医学セミナーについて

3月14日に開催した県医健康スポーツ医学セミナーについて報告が行われた。

協 議

1. 平成28年度県民健康セミナーについて

健康教育委員会との合同の講演形式で本年度も健康スポーツ医学委員会から講演を提案して行うことが承認され、テーマ・講師案等について検討を行った。健康教育委員会において最終決定される。

2. 平成28年度県医健康スポーツ医学セミナーについて

テーマ・講師案について意見が出された。執行部で検討することが承認された。

3. 宮崎県スポーツドクター連盟について

本連盟役員について、会則に従い県医スポーツ医学委員会委員が務めることが承認さ

れた。また、平成27年度の歳入歳出決算、平成28年度事業計画・予算について協議し承認された。

4. 諮問事項「宮崎県スポーツドクター連盟の今後の活動について」

今後、より有効に機能するために何ができるか検討していくこととなった。

出席者－田中委員長、松村副委員長、

押川・宮永・柳田・森委員

(県医) 河野会長、濱田副会長、佐藤理事、

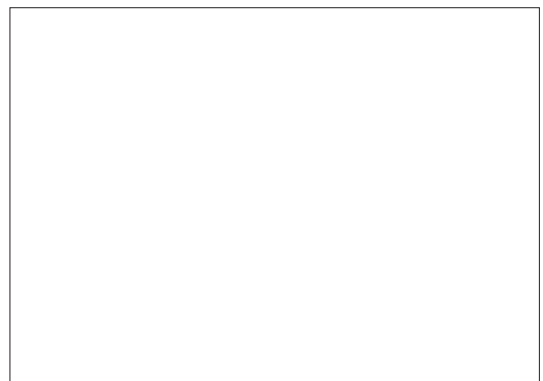
牧野課長、川端主事

健康教育委員会

と き 平成28年11月7日(月)

ところ 県医師会館

小牧常任理事より開会、河野会長の挨拶に続き、本会全理事協議会において、本委員会委員長に中山健先生、副委員長に松本英裕先生の就任が承認されたことが報告された。次に、河野会長から諮問事項「健康寿命延伸のための効果的な健康教育の方法について」が示され、任期中に協議・答申することとなった。その後、中山委員長の進行で報告・協議が行われた。



報 告**1. 平成27年度健康教育事業について**

昨年度宮崎県医師会が開催した健康教育事業(宮日新聞への掲載等)、会員、各専門分科医会が行った健康教育事業について報告を行った。

2. 平成27年度宮崎県医師会県民健康セミナーについて

「健康寿命を延ばそう～元気で豊かな人生のために～」をテーマに平成28年2月21日に開催した。194名の参加があり大変好評であった。

3. 健康教育事業費補助事業について

本年度より開始した同補助事業について説明があり、来年度も引き続き実施予定であることが報告された。

協 議**1. 平成28年度宮崎県医師会県民健康セミナーについて**

本年度の県民健康セミナーの企画を協議し

た。開催時期は平成29年2～3月の日曜または祝日の予定で、テーマを「健康寿命、日本一を目指そう!」とし、昨年に引き続き開催時間を3時間に拡大し、講演内容を健康スポーツ医学委員会からの1題、「メディアと子どもの関係」「睡眠障害・うつ病」の2題、計3題を講演テーマとすることが承認された。

2. 諮問事項「健康寿命延伸のための効果的な健康教育の方法について」

任期中の答申のため、今後検討を重ねていくこととなった。

出席者ー中山委員長、松本副委員長、大重、
瀧井、竹中、丸山、糸数、福井、
谷口、帖佐(宣昭)委員
(県医) 河野会長、濱田副会長、
小牧常任理事、岩村理事、
帖佐(悦男)理事
牧野課長、立山主事

宮崎県医師会メーリングリストのご案内

宮崎県医師会では「MMA通信」と「会員交流用メーリングリスト」の2本立てでのメーリングリストの運用をしています。

◆MMA通信

目的：県医師会から会員への情報提供(各種通知文書、研修会の案内等)

対象：会員本人、医療機関代表のアドレスなど

◆会員交流用メーリングリスト

目的：会員同士の意見交換、会員からの情報提供

対象：会員本人のみ

災害が発生した場合、情報の収集および発信手段は複数確保することが必要です。
まだ登録されていない会員はぜひご登録をお願いします。

お問い合わせ先：宮崎県医師会 学術広報課
TEL 0985-22-5118

医師会立看護学校担当理事連絡協議会

と き 平成28年10月24日(月)

ところ 県医師会館

佐藤理事の司会進行のもと、河野会長から「医師会立養成所が県内の看護師等確保、地域医療に多大な貢献をしていることは明らかだが、一方でその経営は大変厳しい。県内に就職する優秀な医療従事者を確保するため、県医師会としても、日本医師会や県へ積極的な働きかけを行っていくので、各学校のご協力もお願いしたい」という趣旨の挨拶があり、協議と報告に入った。

協 議

平成29年度看護師等養成所に係る補助金について

事務局から説明をした。

看護師等養成所運営支援事業補助金は、地域医療介護総合確保基金の区分Ⅲ「医療従事者の確保に関する事業」から支出されているが、国が区分Ⅰ「地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備に関する事業」へ重点配分する方針のため、来年度以降も十分な内示額が確保できない可能性が高い。

各校においても更なる経費削減や、地元自治体等への補助金要請等、財源確保の検討をお願いしたい。

報 告

1. 平成28年度県に対する要望事項について
2. 平成27年度看護学校卒業生および平成28年度入学生の状況について
3. 医師会立看護学校卒業生就業状況(平成17～26年度)について
4. 医師会立看護学校運営状況について

5. 医師会立看護学校入学試験案内広告について

6. 第47回中四九地区医師会看護学校協議会について

上記報告事項について、佐藤理事から説明をした。

最後に、各学校を取り巻く諸問題について、学校相互のフリーディスカッションを行った。主な内容は以下の通り。

奨学金制度について

(宮崎)応募者数は年々減少しており、内訳では新卒者が減り社会人が増えてきている印象がある。社会人の学生はアルバイトをしながら授業料を払い、苦勞して学んでいるのが現状。本校に奨学金制度はないが、私立看護学校等は、都会の病院から奨学金を受けているところもある。

(都城)各医療機関にアンケートを取ったところ、奨学金を出してもいいという回答が多かったため、ガイドラインを作成中である。金額は授業料相当額を最低限とし、それに加え教材費、入学金等の諸経費を出来れば負担していただく予定。奨学金が出るなら学生も来てくれるのでは。

(延岡)受入医療機関から毎月、運営協力金という形で負担していただいている。また延岡市医師会病院では、専門課程の学生に対して毎月奨学金を支給している。

(日向、児湯)学校としての奨学金制度はない。

(小林)1, 2年生の授業料について, 学生に対しては全額免除し, 委託病院に負担していた。3, 4年生になったら准看護師としてその委託病院で働いてもらう形になっている。

実習施設の確保について

宮崎からの「新設校の影響で, 平成30年度から高等課程の実習施設がゼロになりそうであったが, 会員の先生方のご協力で何とか確保できる見通しとなった」という報告があったのを受け, 県医師会から, 本年8月に徳島県で開催された第47回中四九地区医師会看護学校協議会において, 厚生労働省の看護課長が「実習先の病院が既存の看護学校の実習を削減する事がない様に指導すべく, 都道府県に対して通達している」と明言された旨を報告した。11月の県福祉保健部・県病院局との意見交換会において, 県医師会から県へ, 医師会立看護学校の実習施設確保について特段の配慮を求めることとなった。

出席者

宮崎 済陽校長, 弘野・白尾副校長,
笹原事務長
都城 永吉副校長, 田原課長, 若松事務係長
延岡 野田校長, 平野担当理事,
井野内事務長
日向 青柳副校長, 高野事務長,
椎葉事務職員
児湯 黒木事務長, 鍋倉教務主任
西諸 遊木事務局長, 永山事務職員
県医師会 河野会長, 富田副会長,
佐藤担当理事, 立元・花田副担当理事
山内事務局長, 久永課長, 松本課長,
串間主事

お知らせ

年末・年始の休館について

県医師会館(医師会, 医師国保, 医師協同組合, 病院厚生年金基金)は年末・年始休業のため, 下記のとおり休館いたしますのでお知らせします。

記

期 間 平成28年12月29日(木)～平成29年1月3日(火)

緊急連絡先 総務課長 090-9572-1385

事務局長 090-1514-3220

九州医師会連合会第359回常任委員会

と き 平成28年11月9日(水)

場 所 リーガロイヤルホテル小倉

1 開 会

2 九州医師会連合会長挨拶(熊本県医師会長 福田 稠)

3 報 告

1) 第116回九州医師会連合会総会における 宣言・決議(案)について(熊本)

11月18日の九医連臨時委員総会に提案することが報告承認された。

4 協 議

1) 九州医師会連合会平成28年度第2回各種 協議会(2月4日(土)熊本市)の開催種目について(熊本)

各種協議会に先立ち、制度開始から1年以上経過していることもあり、各県の対応について意見交換を行うため「医療事故調査制度担当理事連絡協議会」を開催することが提案され承認された。

各種協議会の開催種目は、「地域医療対策協議会(地域医療構想、新専門医制度を含む)」「医療保険対策協議会」「介護保険対策協議会(在宅医療・地域包括ケアを含む)」の3種目を開催することが原案どおり承認された。

なお、各種協議会の議論を十分行いたいので提案事項については、可能な限り各県1題程度でお願いしたいとの依頼があった。

2) 次期診療報酬改定の要望事項に係る平成 30年度九医連医療保険対策協議会(1月21 日(土)福岡市)の開催について(熊本)

本来であれば、2月4日の各協議会開催時に行うところだが、日本医師会の社会保険診療報酬検討委員会の日程上、九州ブロックの協議会を1月中に開催する必要があるとの提案理由が示され、原案通り開催することが承認された。

3) 九州ブロック認定産業医制度基礎・生涯 研修会について(福岡)

この研修会の開催については、第347回常任委員会で協議されていたものであり、原案通り、平成29年度から開催期日を2月から5月に変更するとともに、平成29年度については、5月20日、21日に開催することが提案され了承された。

4) 鳥取県中部地震への対応について(熊本)

今回の地震については、鳥取県内の医療機関の被害は1医療機関と限定的であったこと、また、九州医師会連合会としてお見舞い電報をすでに送付していることもあり見舞金の対応は見送ることが決定された。

5 その他

1) 日本医師会議事運営委員会開催報告について(大分)

日医議事運営委員会において、代議員会運営に係る見直し案が検討され、質問用紙の様式を題名、背景、質問事項の3区分に分けること、また、議長による字数の事前調整として代表質問は1,400字以内、個人質問は840字以内をめどとするなどの報告があった。

2) 平成29・30年度九州医師会連合会及び各 種関連行事予定(案)について(福岡)

福岡県より、平成29・30年度の各種関連行事予定案が示された。例年と異なる部分は、平成29年10月28日開催の第1回各種協議会の翌日に総会・医学会を開催すること。第2回目の各種協議会を平成30年3月3日、4日の2日間で行う予定であることが発表された。

出席者一河野会長、山内事務局長

都道府県医師会JMAT担当理事連絡協議会

と き 平成28年 9 月21日(水)

場 所 日本医師会館小講堂・ホール

1 挨拶（日医横倉会長）

今期の日医執行部の基本方針として「まちづくり」、「人づくり」、「組織づくり」の3点を掲げているが、災害対策はいずれにも関わる分野であり、非常に重要な課題であることから、本協議会を開催することとなった。今回の熊本地震の対応から様々な課題が指摘されたが、犠牲になられた方々のためにもこの課題を早期に解決していくことが求められる。日本は災害大国であることから、南海トラフ大地震や首都直下地震のような大規模災害に備えた更なる体制強化が必要である。また、災害対策には、厚生労働省をはじめとした関係機関との連携も必要不可欠であり、JMATとDMATの連携を含め、更なる連携強化、体制強化を行っていきたい。

2 JMAT活動報告

(1)日本医師会

平成28年熊本地震でのJMAT活動全般について報告が行われた。

平成28年熊本地震(平成28年4月16日に本震発生)でのJMATについては、7月16日までにすべてのチームが活動を終え、第5回日医理事会(平成28年7月26日開催)で終了を正式に決定した。派遣チーム数は568チーム、派遣人数は医師750名をはじめ、合計で延べ2,556名であった。

今回のJMAT活動の特徴は、①東日本大震災時に比べて「JMAT」名称が浸透していた、②災害前から九医連で災害時医療救護協定を締結していた、③熊本県医でも災

害前からJMATを編成していた、④兵庫県医、沖縄県医などが現地のコーディネータ役を担うケースがあったことの4点が挙げられた。

また、今回の災害対応で、日医での情報共有の課題が浮き彫りになり、今後の対策について報告された。

日医・都道府県医メーリングリストが、日医からの一方的な情報提供になり、医師会同士の情報交換の場にはならず、被災県医である熊本県医が臨時で立ち上げたJMAT情報共有サイトが役に立ったことから、今後はJMAT情報共有サイトを日医に常設し、日頃からの周知徹底を図ると共に、いつでも利用可能にしておく方針が示された。EMIS(広域災害救急医療情報システム)については、災害時に有用な情報が掲載されているにも関わらず、有効活用できていなかったこと等の課題が挙げられ、日医としてEMISの周知及び登録推進を図っていく方針が示された。

なお、日医では、今後の災害対応体制の一層の充実を目指すため、被災した医師会の支援や情報収集に取り組む「JMAT先遣隊」や現地で調整役などを担う「統括JMAT」の創設を視野に検討を進めていくことが説明された。

最後に、今回の震災で改めてJMATのコーディネート機能の重要性、他のチームとの連携、役割分担の重要性を痛感したことが報告され、災害時にはコーディネータによる指揮命令系統の確立が求められることが強調された。

(2)熊本県医師会

被災県医師会及び派遣要請側の立場からの報告が行われた。

良かった点として、災害発生の時期・時間が幸いし、火事、津波、肺炎等の感染症が少なかったこと、DMATとJMATの連携・引き継ぎが円滑にできたこと、災害関連死を最小限に抑えることができたこと等が挙げられた。また、問題点としては、県の連絡網が機能せず情報収集に苦慮したこと、多くの避難者が車中泊を選んだことで避難者数の把握に苦労したこと、EMISは非常に使いにくく、情報共有ができなかったことなどが挙げられた。

(3)長崎県医師会

九医連災害対策本部の立場からの報告が行われた。

ブロック単位としての災害医療対策については、普段から担当者同士の顔の見える関係の構築と、様々な状況を想定した定期的な訓練が不可欠であると主張された。また、同時に派遣先での各チームの役割分担・日程調整等を行うリーダー的なコーディネータの養成が必要であるという意見があった。

(4)東京都医師会

阿蘇地域での活動について報告が行われた。

現地情報(地域医療資源、医療救護活動の状況、土地勘など)が不十分な中で任務を行うことの難しさ、地元のニーズに応じたJMATを編成する重要性、記録などを行う連絡調整員(ロジスティックス)の重要性などが主張された。

(5)静岡県医師会

大津町等での活動について報告が行われた。

透析患者が食事をカップラーメンに頼っていた例などが挙げられ、被災者の栄養管理の在り方が指摘された。

また、今回の震災では、東日本大震災時と異なり、情報が錯綜しており、十分な横の連携が取れていなかったため長く待機を強いられたJMATが発生していたとして、JMAT独自の調整機能を果たせる職員の養成及び各チームと本部の随時の連絡体制づくりが必要であると提言された。

(6)兵庫県医師会

益城町での活動について報告が行われた。

記録や連絡調整を行うロジスティックスの養成が必要であり、今後、JMATの質の向上が必要であるとの意見が出された。

また、今後JMATとして統括業務を担当するにあたっては、1つの都道府県医が継続して対応するのではなく、日医、ブロックレベルで組織されたチームによる対応が望ましいと指摘があった。そのうえで、地元で習熟した現地医師会責任者・災害医療コーディネータが指揮する形が理想であるとの意見が出された。

3 関係者指定発言

(1)総務省消防庁

救急医療について、救急業務の位置づけと実施体制、救急業務の定義、消防の救急でのメディカルコントロール(MC)体制及び救急安心センター事業等について説明が行われ、救急業務に関して、今後一層の協力依頼があった。

(2)厚生労働省

災害医療体制について説明が行われた。

災害医療体制の整備として、厚生労働省防災業務計画に①災害拠点病院の整備、②災害派遣医療チーム(DMAT)等の体制整備、③災害時情報網(EMIS等)の整備の3つが定められている。この3つの整備に関し、東日本大震災以降の施策として、それぞれ、①災害拠点病院機能強化のための要件の追加、②DMAT研修の更なる充実、③EMISの機能強化・導入促進の施策を進めてきたことが説明され、熊本地震で新たな課題が指摘されたものの、少なからずこれまでの施策の効果が現れていることが報告された。

また、今回の熊本地震を受けての課題として、二次医療圏レベルでは、災害医療コーディネータが事前に指定されておらず、混乱がみられた地域があったため、今後は二次医療圏レベルでの災害医療コーディネート体制の準備が必要であること、統計によると医療機関の8割以上が策定していないBCP(事業継続計画)の策定を推進し、各医療機関で災害時の避難準備体制、方策を確立していくことの必要性などが挙げられた。

(3)DMAT事務局

平成28年熊本地震でのDMAT活動全般について報告が行われた。

DMATは全国466班、2,071名が動員された。また、主な活動内容として病院支援

(ライフライン等支援)、病院避難等が挙げられ、EMISを有効活用しながら活動に従事したことが報告された。

また、今までの災害のなかで、最もJMAT及び医師会と連携を取れたことが報告された。

(4)内閣府

災害救助法の概要説明及び平成28年熊本地震でのJMAT派遣等に係る求償方法等について説明があった。

4 協議

協議では、事前に提出されていた各都道府県医からの意見、要望等について日医から説明、コメントが行われた。主な内容は以下のとおり。

(1)富山県医師会

日医は、被災地での情報収集や派遣されたJMATへの周知をどのように行ったのか。また、今後は、より迅速な情報収集や調整が必要であると考える。

日医回答

全国での情報共有ツールとして、熊本県医が用意した情報共有サイトに各チームから現地の報告をしていただくことで、情報共有を行った。しかし、被災県医に負担をかけないためにも、日医では今後、より正確な情報を収集し、効率的なJMAT活動につなげるため「JMAT先遣隊」の創設を検討している。

(2)三重県医師会

JMATと全国知事会からの要請に基づく都道府県医療救護班を一本化することはできないのか。

日医回答

JMATと都道府県医療救護班は、国での位置付け、被災県医との連携、指揮系統の仕組み等の観点から一本化は非常に難しい

と考えている。しかし、両救護班の連携及び情報共有の重要性については、今回の熊本地震で改めて痛感したので、次の大規模災害に備えて、厚労省等の協力も得ながら、全国知事会との連携強化を図っていききたい。

(3)福岡県医師会

JMATでは、自己調達した薬剤は、現地へ行けば補償の対象となるが、待機で終わると補償されない。何らかの対応が検討できないか。

日医回答

派遣がなかった以上は、災害救助法で賄うことは難しい。

今回、日医ではJMATを派遣した都道府県医に一律に100万円の支援を行った。今回の救護班の様々な費用補償に充てるなど、各都道府県医で検討していただきたい。

また、JMATが携行する医薬品の備蓄方法や迅速な調達方法についても、今後、検討を進めていく。

(4)鹿児島県医師会

災害派遣等従事車両証明書の手続きには時間を要するため、JMAT派遣が決定された際には、日医から災害派遣等従事車両証

明書を発行することで代用できないかを検討してほしい。

日医回答

現在は「医師資格証」が普及している。今後、更に普及していくと、国交省や高速道路会社などに「医師資格証」でJMATであることの証明ができるようになって考えている。次の大規模災害に備えて、「医師資格証」で代用できるように普及と関係機関との交渉に努めていきたい。

5 総括（日医中川副会長）

南海トラフ大地震や首都直下地震は、いつ発生してもおかしくない。今年度のJAXAとの衛星利用実証実験(防災訓練)は、首都直下地震を想定して行うが、各都道府県医にもテレビ会議等で参加いただき、大規模災害に備えた全国的な体制づくりへの協力をお願いしたい。

今回の協議では、日医に対して厳しいご意見もあったが、いただいた意見を今後の大規模災害に備えたJMAT体制の見直しに活かしていきたい。

出席者

(日医会場) 米澤理事、鳥井元課長補佐

(県医TV会議場) 小牧常任理事、久永課長

第38回産業保健活動推進全国会議

と き 平成28年10月13日(木)

場 所 日本医師会館

第38回産業保健活動推進全国会議が10月13日開催された。

はじめに、主催者である塩崎厚生労働大臣（田中厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生部長代読）、横倉日医会長、有賀労働者健康安全機構理事長、櫻井産業医学振興財団理事長の4名よりそれぞれ挨拶があり、活動事例報告、厚労省からの説明・報告ののち「医療機関における産業保健の推進」をテーマとしたシンポジウムが開かれ、引き続き協議が行われた。

活動事例報告

(1)「茨城産業保健総合支援センターの取組みについて」

茨城産業保健総合支援センター所長

小松 満

茨城県内の産業医を選任すべき事業場に対する産業医の数は不足しており、一人あたり3事業場を担う計算となり、紹介も困難であることから、選任率は83.7%と全国平均を5%下回っている。この状況を受け、県医師会と連携し、基礎研修を開催するなど認定産業医の増員に努めている。

(2)「酒田(山形県)地域産業保健センターの活動」

酒田地域産業保健センターコーディネータ

浅井 俊夫

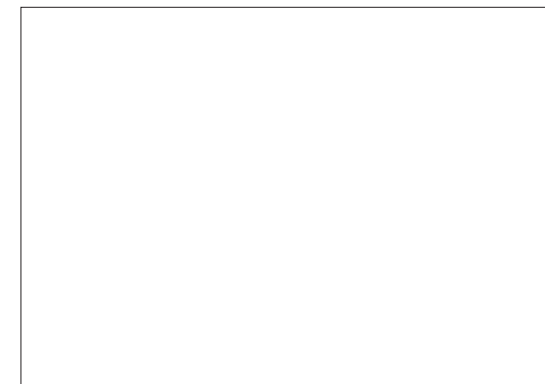
当センターでは、登録産業医、保健師、コーディネータが一体となって相談活動・保健指導を行っている。特に、産業医が指導した労働者については、事業者へも結果を文書で発行し活用を促すことで、健康への意識が高まり、健診結果が改善される事業場が年々増加している。

説明・報告

「最近の労働衛生行政の動向について」

厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課課長

武田 康久



ストレスチェックについて、現時点で実施が完了している約9,000事業場のデータによると、ストレスチェック実施者の約50%が、面接指導では約85%が事業場選任の産業医であった。厚労省の提供しているマニュアルや実施プログラム及びコールセンター等を活用し、制度の適切な実施促進に向け、引き続き産業医の先生方の協力をお願いしたい。

また、治療と職業生活の両立支援については、具体的な取組み方法をまとめた「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」を公表しているので参照されたい。

その他、時代や環境の変化に伴う産業医制度の在り方について議論を行っている「産業医制度の在り方に関する検討会」の報告書は、今後公表の予定である。

シンポジウム 「医療機関における産業保健の推進」

(1)「体制作りー産業医の役割を中心にー」

北里大学名誉教授

相澤 好治

医療機関には多くの危険有害要因が存在し、交代制勤務や長時間労働など働き方の問題もある。医療機関における産業保健活動は、医療従事者の健康と安全を守り、質の高い医療を提供する基盤となることから、産業

医が職務を適切に行える環境整備が求められる。

(2)「メンタルヘルス対策」

三井記念病院精神科部長 中嶋 義文

平成27年5月に実施された勤務医1万人アンケート調査では、勤務医を取り巻く環境は全般的に改善傾向にあるにもかかわらず、勤務医の主観的健康観はほとんど変化がないという結果となった。検討委員会が選定した15項目の勤務医の健康支援に関する勤務環境改善に関するアクションの統計的分析からは、組織的な取組みはメンタルヘルス、自殺リスク、労働生産性、経営指標の改善と関連することが分かった。

三井記念病院では、組織的な取組みとして、産業医だけでなく、さまざまな専門職が協力し、「柔らかく何重にも抱える」メンタルヘルス支援を行っている。

(3)「勤務医の健康支援」

労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所
過労死等研究センター長代理 吉川 徹

勤務医の健康を守るには、医師自身のセルフケアである「自助」、上司や同僚、産業医、医療機関によるケアである「共助」、社会や関連団体、家族によるケアである「互助」の3つのケアが重要である。医療機関の産業保健促進においては、医師自身の勤務環境や健康への関心向上、院内の労働安全衛生管理体制の見直しなどによる産業医の健康支援が期待される。

(4)「労働衛生のリスク対策」

国立国際医療研究センター国際医療協力局
和 田 耕治

医療機関における産業保健活動の実態調査によると、風疹、麻疹、水痘などワクチンで予防可能な疾患の対策が遅れていることが分かった。産業医の負担軽減および効率的な対策のためには、日本環境感染学会が公開している「医療関係者のためのワクチンガイドライン」の活用や院内感染担当部署との連携が

重要である。また、血液媒介感染症感染患者への感染リスクの他、偏見についてもさらなる対策が必要である。

協 議

問 1 (栃木県医師会)ストレスチェック制度導入の産業医への影響について

ストレスチェック制度導入による産業医活動への影響、動向の把握や調査を行う予定はあるか。

武田労働衛生課長 来春、制度開始1年目の状況を発信予定である。

松本日医常任理事 全国の産業医の実態を調査し把握するとともに、事業場内の体制作り、嘱託産業医の契約見直しを検討していきたい。

問 2 (大宮医師会)

①ストレスチェック制度と労働者健康安全機構の助成金の活用について

大宮地産保センターでは、機構が促進する助成金制度は全く利用がなかった。センター事業に助成金制度を組み込んでどうか。

亀澤労働者健康安全機構理事 当該助成金制度への登録事業場は9月末時点で1,000を超えており、引き続き周知に力を入れているところである。また、高ストレス者への面接指導と、センター実施の小規模事業場への支援は国からの補助により実施しているため、それらと重複して助成金を利用することはないと考えられる。

②ストレスチェック制度の小規模事業場における実施について

今後、小規模事業場でもストレスチェックが義務化される予定はあるか。

武田労働衛生課長 今のところ義務化はないが、実施していただけるようセンターとの協働で普及啓発セミナーを開催している。

問 3 (小田原医師会)日医医師賠償責任保険制度における産業医・学校医等の医師活動賠償責任補償の対象範囲について

嘱託産業医として契約を結んでいない事業

場で、臨時的に面接指導を行う場合、補償対象となるか。また、その事業場での嘱託産業医の有無によって取扱いが変わるのか。

松本日医常任理事 日医A会員であっても、事業場と契約を結んでいなければ補償の対象とならない。ただし、医師会と事業場が委託契約を結んでいる場合は補償の対象となる。事業場の嘱託産業医の有無に関係なくその取扱いは同様である。

問4 (岡山産業保健センター)

①医師偏在による産業医不足の対応策について

医師不足の地域では、新たに産業医の資格を取得するのも難しい。同様の地域が増えていくことが予想されるが、行政として今後の方策はあるか。

亀澤労働者健康安全機構理事 登録産業医に協力いただき実施しているセンター事業について医師会に協力依頼を行うとともに、産業医資格を有する方にも個別に協力をお願いしていきたい。

武田労働衛生課長 新たに産業医資格を取得する医師向けの研修会を増やすため、研修会の委託先である日医、産業医科大に協力を依頼し、追加で集中講座を実施する。

②国公立医療機関に対する産業保健活動への協力要請について

国公立医療機関の勤務医は産業保健活動に参加していただけない傾向が強くなってきている。改めて行政(国)から協力要請を行う必要があるのではないかと。

武田労働衛生課長 厚労省としても公務員法としても規則はないため、それぞれの勤務先の規定に従ってもらえばよい。

③事業場におけるメンタルヘルス対策の推進について

メンタルヘルス対策についての研修について申込みが少なく、行政からの働きかけがなければ実施が進まない状況があるが、行政としての考えはどうか。

武田労働衛生課長 センター実施の研修会

についての情報提供、受講勧奨を行っていく。

問5 (岡山県医師会)

①ストレスチェック制度における共同実施について

業者へ丸投げして共同実施者を必要としない企業もみうけられるが、どうしたらよいか。

武田労働衛生課長 事業場内情をよく理解している産業医が共同実施者に加わる意義を重視した制度の目的に照らして適切に実施されるよう事業場へ指導を行っていく。

②面接指導の推進について(50人以上の事業場に対する財政的支援)

面接指導を拒否する高ストレス者に対する処置の重要性から、50人以上の事業場についても助成が必要ではないか。

武田労働衛生課長 50人以上の事業場については法的義務であるため、費用を国が助成することは困難である。財政的支援ではなく、技術的支援を行っていききたい。

③「面接指導」のスキルアップ研修について

日医として「面接指導」スキルアップに関する研修等の予定はあるか。

松本日医常任理事 次年度行う方向で検討していく。

武田労働衛生課長 医師向けの面接指導マニュアルを公表している。

問6 (広島北地域産業保健センター)小規模事業場におけるストレスチェックに対する労働基準監督署の対応について

国として、小規模事業場でのストレスチェック実施の際に労働基準監督署の役割をどのように考えているか。

武田労働衛生課長 努力義務ではあるが、非常に重要な事項であるので、引き続き制度の周知啓発および小規模事業場に対する各種支援を行っていく。

出席者一有野・岩男・山元・新(地域産業保健センターコーディネータ)
佐々木常任理事、畠中主事

宮崎県医師会親善ゴルフ大会

と き 平成28年11月3日(木・祝)

ところ ハイビスカスG・C

恒例の県医親善ゴルフ大会がハイビスカスゴルフクラブにおいて開催され、29名の会員の先生方がご参加されました。

雲ひとつない晴天に恵まれ、絶好のゴルフ日和のもと、熱戦が繰り広げられ、無事に大会を終了することができました。

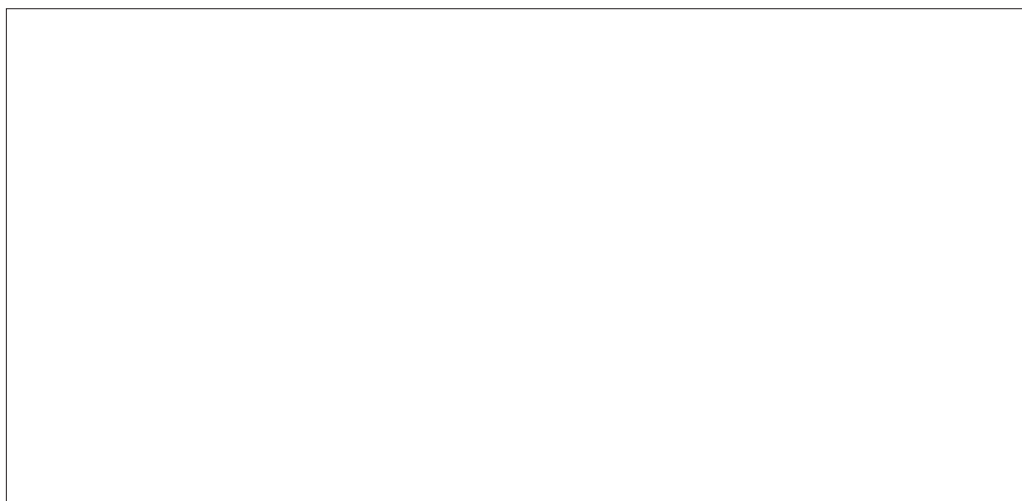
今大会の競技方法は、18ホールズストロークプレイダブルペリア方式(同ネットの場合は年長者を上位)で行われ、団体戦は西諸医師会チームが優勝、個人戦の総合優勝は内村大介先生(西諸)、年齢別にA・B・Cの3区分に分けて行い、A：大塚直純先生(西都西児湯)、B：丹光明先生(西諸)、C：内村大介先生(西諸)がそれぞれ優勝されました。

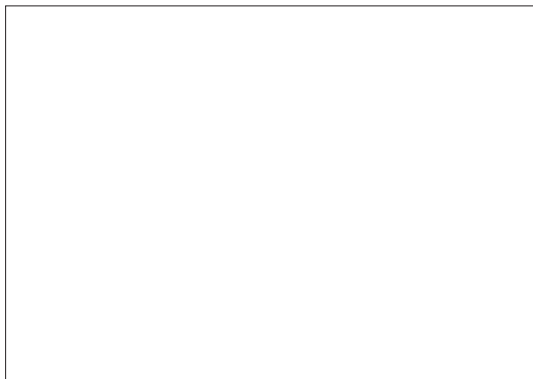
来年も11月3日(文化の日)に開催予定ですので、ご興味がある先生は、是非ご参加ください。

その他の成績は、以下の通りです。

団体戦	郡市名	NET合計	各 郡 市 NET 上 位 3 名						
優 勝	西 諸	215.2	内村 大介	68.8	丹 光 明	72.4	高崎 直哉	74	
準優勝	宮 崎 A	216.8	桑畑 睦郎	71	佐々木 昭	72.8	小緑 英行	73	
3 位	児湯・西都西児湯・南那珂・宮大	219.0	大塚 直純	70	賀本 敏行	72.6	糸井 仁	76.4	

	個人戦	会員名	OUT	IN	GROSS	HD	NET
A	優 勝	大 塚 直 純	55	51	106	36	70
	準優勝	弓 削 達 雄	42	41	83	10.8	72.2
	3 位	南 嶋 洋 一	47	44	91	16.8	74.2
B	優 勝	丹 光 明	41	41	82	9.6	72.4
	準優勝	木 屋 博 昭	41	40	81	8.4	72.6
	3 位	小 緑 英 行	49	54	103	30	73
C	優 勝	内 村 大 介	41	35	76	7.2	68.8
	準優勝	桑 畑 睦 郎	54	53	107	36	71
	3 位	賀 本 敏 行	46	47	93	20.4	72.6
BG賞		久保田 秀 紀	74				
NP賞		椎教次, 木屋博昭, 内村利博, 吉田建世, 高崎直哉					

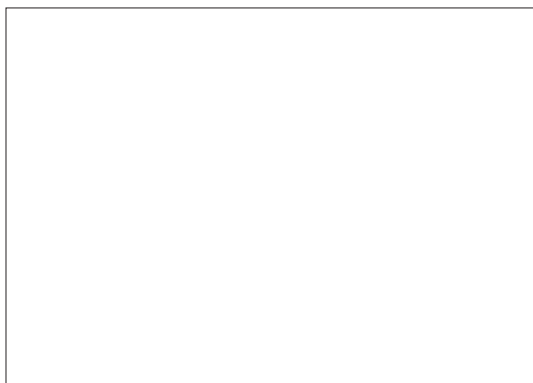


団体戦優勝**西諸医師会チーム**

11月3日、絶好のコンディションの中、県医師会ゴルフコンペで西諸医師会が団体優勝でき、大変うれしく思っております。

今回、当医師会からは前田譲治先生、丹光明先生、花田武浩先生、内村大介先生、私の5名が参加しました。内村先生、丹先生のすばらしいゴルフのおかげで、私達のチームは団体優勝を果たすことができました。健康を維持するためにも、これからもゴルフを続けていきたいと思っております。

祝日にもかかわらず、お手伝いいただきました県医職員の方々に感謝いたします。今後ともよろしくお願いいたします。（高崎 直哉）

総合優勝**西諸医師会 内村 大介**

素晴らしい晴天に恵まれた宮崎県医師会親善ゴルフ大会で、更には同伴プレーヤーの高崎直哉先生、丹光明先生、花田武浩先生の気迫とナイスプレーに引っ張られて沢山の幸運をもらい総合優勝でき、大変嬉しく名誉に思っております。そして事務局の皆様の鋭い感性で選ばれた賞品が素晴らしく、家族一同大変喜んでおります。当日は河野会長が欠席なさり非常に残念でしたが、会長のかねてからのご指導の下、抜かりのない運営をされた立元常任理事と事務局の皆様、同伴していただいた高崎先生、丹先生、花田先生、楽しい一日を過ごさせていただき有難うございました、大変お世話になりました。

平成28年度 宮崎大学医学部 5 年生 未来の医療を語る全員交流会 in MIYAZAKI

宮崎大学医学部キャリアデザインサポート委員長

宮崎大学医学部解剖学講座 超微形態科学分野

さわ ぐち
澤 口

あきら
朗

平成28年10月3日(月)19時より宮崎観光ホテル「山吹」を会場に、医学科5年生対象「未来の医療を語る全員交流会 in MIYAZAKI」が開催されました(主催：宮崎県臨床研修・専門研修運営協議会，運営：宮崎大学医学部キャリアデザインサポート委員会／同・卒後臨床研修センター／同・医療人育成支援センター)。来賓として河野俊嗣宮崎県知事をお迎えし，河野雅行宮崎県医師会長，池ノ上克宮崎大学長をはじめ，宮崎大学附属病院各診療科や基幹型臨床研修病院から数多くの先輩医師が参加し，5年生の参加者90名と合わせて総計173名が一堂に会しました。

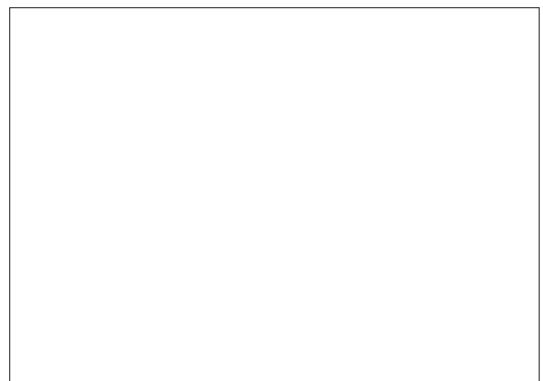
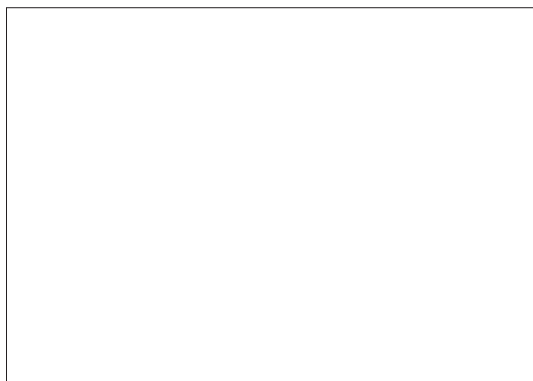
冒頭，＜医師のワークライフバランスとキャリアを語り合おう＞と題した医療人育成支援センター小松弘幸教授による基調講演では，自らの経験をもとに学生に勇気を与える熱いメッセージが送られました。続いて，河野雅行会長より地域医療充実に向けた宮崎県医師会の取組みが紹介され，医学生は次世代の担い手として寄せられる期待の大きさに，新たな使命感を覚

えている様子でした。

乾杯後の交流企画では，県医師会の荒木早苗常任理事と糸数智美理事から「宮崎県における女性医師キャリア支援体制」が紹介され，将来のワークライフバランスを考える女子学生の皆さんは，心の内に抱える不安を払拭される思いで聞き入っておりました。昨年に続いて第2回目の開催となりましたが，大広間全体には終始，笑顔が溢れ，「宮崎県地域医療の未来は明るい！」と参加者全員が確信を得たところで，盛会のうちに閉会となりました。

本会の企画運営を担当する宮崎大学医学部キャリアデザインサポート委員会では，来年度以降も継続して開催する計画を進めており，「日本のひなた宮崎県」で学んだ学生が医師への道を着実に歩み，成長していく姿を宮崎県医師会の皆様とともに応援して参りたく，今後ともご協力の程よろしくお願い申し上げます。

文責：宮崎大学医学部キャリアデザインサポート委員会



薬事情報センターだより(355)

新薬紹介(その 88)

今回は11月に薬価収載されたダビガトラン特異的中和剤プリズバインド静注液2.5g(一般名:イダルシズマブ(遺伝子組換え))と難吸収性リファマイシン系抗菌薬リフキシマ錠200mg(一般名:リファキシミン)について紹介いたします。

プリズバインド静注液2.5g(一般名:イダルシズマブ(遺伝子組換え))

プリズバインド静注液2.5g(一般名:イダルシズマブ(遺伝子組換え))は、抗凝固作用を示す直接トロンビン阻害剤であるダビガトランに対して高い親和性で結合し、抗凝固作用を中和することを目的としてベーリンガーインゲルハイム社で開発されたヒト化モノクローナル抗体フラグメントです。イダルシズマブは、血漿中のダビガトラン及びそのグルクロン酸抱合代謝物と高い親和性で特異的に結合し、ダビガトラン及びそのグルクロン酸抱合代謝物の抗凝固作用を中和します。なお、ダビガトランのプロドラッグであるダビガトランエテキシラートメタンスルホン酸塩がプラザキサカプセル75mg・110mgという製品名で日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社から販売されています。

プリズバインドは、2015年10月に米国、11月に欧州で承認され、2016年8月31日現在、12の国及び地域で承認されています。我が国では、「生命を脅かす出血又は止血困難な出血の発現時、もしくは重大な出血が予想される緊急を要する手術又は処置の施行時におけるダビガトランの抗凝固作用の中和」を効能・効果として、2016年9月に製造販売承認されました。なお、抗凝固療法の再開については、ダビガトランエテキシラートメタンスルホン酸塩の投与は本剤の投与から24時間後に再開可能であり、他の抗凝固剤の投与は本剤投与後いつでも再開可能です。

ダビガトランエテキシラートメタンスルホン酸塩投与中に生命を脅かす又は止血困難な出血が認められた患者、あるいは緊急を要する手術又は処置が必要となった患者を対象とした国際共同第Ⅲ相症例集積試験(中間集計)において、日本人4例を含む243例に本剤が投与され、副作用が報告された症例は13例(5.3%)でした(承認時)。なお、重大な副作用として、ショック、アナフィラキシーが報告されています。

リフキシマ錠200mg(一般名:リファキシミン)

リファキシミンは、Alfa Wassermann S.p.A(本社:イタリア ボローニャ)により創製・開発されたグラム陽性菌、グラム陰性菌、好気性菌及び嫌気性菌に対して抗菌活性(*in vitro*)を示す難吸収性のリファマイシン系抗菌薬です。細菌のDNA依存性RNAポリメラーゼに結合し、RNA合成を阻害することにより抗菌作用を示すことが示唆されています。主として腸管内のアンモニア産生菌に作用し、アンモニア産生を抑制し、血中アンモニア濃度を低下させることで、肝性脳症における高アンモニア血症を改善します。

リフキシマ錠は、1985年にイタリアで最初に承認されて以来、2016年5月現在、68の国又は地域で肝性脳症関連の効能・効果で承認されています(肝性脳症に係る効能・効果で44カ国、高アンモニア血症に係る効能・効果で24カ国)。我が国では、あすか製薬株式会社が導入し、開発を行いました。2013年5月に希少疾病用医薬品として厚生労働省の指定を受け、2016年9月に難吸収性抗菌薬のなかで、初めて「肝性脳症における高アンモニア血症の改善」を効能・効果として製造販売承認されました。

承認時までの国内臨床試験157例中21例(13.4%)に副作用が認められました。発現した主な副作用は、便秘4例(2.5%)、下痢2例(1.3%)等でした。なお、重大な副作用として、偽膜性大腸炎(クロストリジウム・ディフィシル関連下痢症)が報告されています。

〈参考資料〉

プリズバインド静注液2.5g、リフキシマ錠200mg各添付文書・インタビューフォーム
(宮崎県薬剤師会薬事情報センター

永井克史)

日医インターネットニュースから

■医療情報の安全管理, SNSなど厳格化

－ 厚労省GL, 改訂で －

厚生労働省は、医療機関などが講じるべきICT関連のセキュリティ対策を整理して示した「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン(GL)第4.3版」を改訂する方向で関係団体と協議している。改訂内容については議論中だが、公開型ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)が普及している現状を踏まえ、機微情報を取り扱う医療分野では、セキュリティ確保の観点から公開型SNSの使用を避けるよう提言される可能性が高い。政策統括官付情報化担当参事官室がメディアファクスの取材に応じた。

SNSを使えば、グループの参加メンバーに対して文字情報や画像などを一斉送信できるほか、過去の情報のやりとりを時系列で閲覧できる。受信者が情報を確認したかどうかを「既読」表示で知る機能も一般的だ。こうした機能により、スマートフォンやタブレットなどのモバイル端末さえあれば、複数の医療・介護職種が時間・場所を問わず患者情報を共有でき、多職種連携によるケアが円滑化・効率化される期待がある。一方、公開型SNSには情報漏洩の恐れもあるため、以前から日本医師会は公開型SNSではなく、専用非公開型SNSを使用するよう求めてきた。

公開型SNSの運用が医療現場などで実際にどの程度常態化しているかは明らかではないが、総務省の「情報通信白書」(2015年版)によると、例えばSNSの一種であるLINE(ライン)の一般利用率は全年齢で37.5%(20代以下=62.8%, 30代=47.0%)と高い。医療現場で公開型SNSを使用している事例も一部にあるとみられる。

情報化担当参事官室は、具体的な改訂内容については「今後の議論」とし、改訂時期も明らかにしていない。ただ、「モバイルデバイスで医療情報を扱う際のセキュリティやサイバー攻撃対策について議論している」ことは認めている。現行GLにはSNS使用について明確な言及がなく、改訂では、日医が求めている非公開型SNSの使用(公開型SNSの回避)が盛り込まれる可能性は高い。

また、個人用のモバイル端末を業務で利用する「BYOD」を、より明確な表現で避けるよう

示すことも考えられる。現行GLに「個人の所有する、あるいは個人の管理下にある端末は原則として使用せず、機器の設定の変更は管理者のみが可能とすること」との記載はあるが、推奨項目であり、義務ではない。個人用の端末ではインストールするソフトウェア(アプリ)などの管理は利用者本人に委ねられ、紛失や悪用などに伴う情報漏洩の可能性も高い。このため、BYODの回避も議論される見通しだ。

(平成28年10月28日)

■AMR対策推進へ、国民啓発会議を開催

－ 広報大使選任も －

厚生労働省や日本医師会などの関係省庁・団体、有識者で構成する「薬剤耐性(AMR)対策推進国民啓発会議」(議長=毛利衛・日本科学未来館長)は、11月の推進月間に合わせて1日、初めての会合を開いた。関係省庁や各団体などが現在までの取り組みを報告し、今後、広報大使の選任や、実践例への表彰などを通じて、国民への啓発・教育活動を進めていくことを確認した。

政府が今年4月に決定した向こう5年間のアクションプランでは、国民への普及啓発・教育活動の推進を明記している。今後、政府広報ラジオ番組や内閣官房のツイッター、フェイスブックなどを用いて普及啓発活動を展開。「抗生物質は風邪やインフルエンザには効果がない」などの知識の普及に取り組む。

同日は、議長提案により、AMR対策の実践例を表彰する仕組みを関係省庁に設けることを了承。また「あなたのリスク ほどよいクスリ」をキャッチフレーズとすることも決めた。

(平成28年11月8日)

■医療機関敷地内禁煙を支持、三師会など

－ 厚労省・受動喫煙WG －

厚生労働省は11月16日、「受動喫煙防止対策強化検討チームワーキンググループ」の2回目となる公開ヒアリングを実施した。日本医師会の今村聡副会長は医療機関の「敷地内禁煙」を支持し、サービス業では喫煙室の設置を認めない「建物内禁煙」の徹底を求めた。日本歯科医師会、日本看護協会、日本薬剤師会も医療機関の敷地内禁煙を支持した。

厚労省は2020年の東京五輪・パラリンピックなどを念頭に、医療機関での敷地内禁煙やサービス業などでの「原則建物内禁煙(喫煙室設置可)」を提言。実効性を担保するため、違反した施設管理者や喫煙者への罰則も検討している。

今村副会長は、医療機関での敷地内禁煙に賛成する考えを示した上で、サービス業を念頭に「喫煙室があったとしても、人の出入りがあれば受動喫煙は防げない。多額の費用をかけて全飲食店に喫煙室を設けるといっても現実的には難しいだろう」と指摘。厚労省案よりも踏み込んだ、喫煙室の設置を認めない「建物内禁煙」を求めた。また、受動喫煙の問題は「単なる個人的嗜好ではなく、国民全体の医療的・経済的な問題と考えるべき」と対策強化の必要性を強調した。

日看協は罰則を含めた厚労省案を支持する意見を表明。大学での敷地内禁煙など、一部厚労省案よりも強い規制を求めた。日薬は厚労省案を支持。日歯も喫煙による歯周病に懸念を示し、厚労省案を支持した。(平成28年11月18日)

■外来時定額負担、時間かけて議論を — 医療保険部会 —

社会保障審議会・医療保険部会(部会長＝遠藤久夫・学習院大教授)は11月18日、骨太方針2016の経済・財政再生計画改革工程表で懸案の一つである「かかりつけ医の普及の観点からの外来時の定額負担」について議論を進めた。かかりつけ医を巡る解釈も固まっていない段階での制度化には依然として慎重論が多く、時間をかけて議論を重ねていくべきとの意見が出された。

厚生労働省は、かかりつけ医普及の観点からの外来時定額負担について論点を提示。▽診療科ごとに複数のかかりつけ医を認めるか▽受診頻度が低いという理由でかかりつけ医を持たない若者についてどう考えるか—などの課題があるとし、かかりつけ医の要件の検討には一定の時間を要するとした。さらに論点では、紹介状のない患者が200床以上の病院を受診した時などの選定療養としての特別料金徴収などを挙げている。(平成28年11月22日)

■社会保障費抑制、「数字ありき」に懸念

— 横倉会長 —

横倉義武会長は11月22日、自民党の中堅・若手の国会議員を中心とする「医療政策研究会」に出席し、政府が「骨太の方針2015」で、2016～18年度の社会保障関係予算の伸びを計1兆5000億円程度(年度平均5000億円程度)にすることを目安とする方針を決めていることについて「あくまでも目安だ」と説明した。その上で1兆5000億円程度という「数字ありきの対応」もすべきでないと強調した。

17年度予算概算要求の段階で、政府全体の社会保障関係費の自然増が16年度当初予算比6400億円となっており、17年度予算編成では、これをどのように5000億円程度まで抑制するかが焦点となる。17年度予算で伸びを5000億円程度まで抑えることができなかった場合、18年度予算はさらに厳しい伸びの抑制が求められるため、診療報酬・介護報酬同時改定の財源を巡る攻防もより厳しいラインからスタートすることになる。

横倉会長はこの点を念頭に「医療における適切な財源を確保する一方、18年度同時改定時に積み残して財源が圧迫されることは避けるべき。1兆5000億円程度の目安は政治で決めたことなので、きちんと政治で決着をつけなければならない」と求めた。

6400億円を5000億円程度まで抑える方法として、70歳以上の高額療養費制度の見直し、入院時の居住費(光熱水費相当額)負担の引き上げ、高額薬剤の薬価引き下げ、介護納付金の総報酬割などが取り沙汰されているが、横倉会長は「低所得者に十分な配慮が必要だ」との考えを示した。一方、かかりつけ医以外を受診した場合の定額負担の導入については「先生方のお力添えもあり、社会保障審議会・医療保険部会での反対意見も多く、拙速な導入は避けられる状況と聞いている」と見通しを語った。

また横倉会長は、全国の医療機関で300万人以上が働いていることに触れながら、医療・介護の財源を確保することは国内経済の活性化にもつながる、と力説した。(平成28年11月25日)

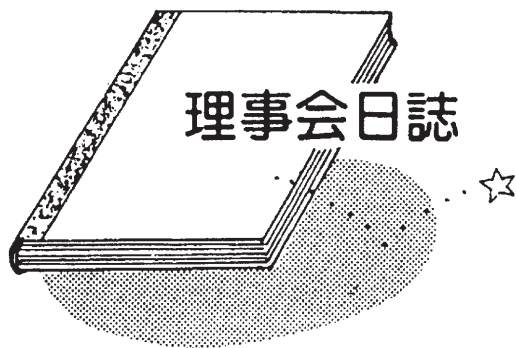
日医インターネットニュースは日本医師会ホームページからご覧になれます(毎週火・金更新)。

日本医師会 (<http://www.med.or.jp/>) > メンバーズ > 日医インターネットニュース

メンバーズルームへのアクセス方法

◆ユーザー ID：会員ID番号(日医刊行物送付番号)の10桁の数字(半角)

◆パスワード：生年月日の「西暦2桁, 月2桁, 日2桁」の6桁の数字(半角)



平成28年10月4日(火)第19回常任理事協議会

医師会関係 (議決事項)

1. 宮崎県国民健康保険診療報酬審査委員会委員(保険医代表)の推薦について

任期満了に伴う推薦依頼で、県医社保・国保審査委員会委員の選任基準(内規)に従い、本会から富田副会長と佐藤理事の2名を推薦すること及び、今後、郡市医師会に続いて、各専門分科医会に推薦依頼を行うことが承認された。なお、任期は平成29年1月1日から2年間。

2. 11/15(火)(日医)平成28年度第2回都道府県医師会長協議会の開催について

河野会長が出席することが承認され、提出議題については、河野会長に一任することとなった。また、翌々週の11/29(火)に報告を兼ねた各郡市医師会長協議会を開催することが承認された。

3. 後援・共催名義等使用許可について

①日本医師会後援「心のバリアフリーとりハビリテーションを広める映画」ご協力をお願いについて

→障がい者に対する社会的障壁を取り除きリハビリテーションの推進と活躍機会の創出を図ることを目的に劇場映画の製作と公開を行う事業で、目的そのものに

問題はないが、名義の使用範囲等に不明な点があるため、詳細を確認後、改めて協議することとなった。

4. 各郡市医師会医療廃棄物担当事連絡協議会(水銀血圧計等回収事業に係る業者説明会)について

医療機関が保有する水銀血圧計等の回収について、事業概要の説明及び各郡市医師会からの質問事項に回答するため、委託予定業者の東建工業㈱を招いての説明会を開催することが承認された。

5. 日本医師会の委員会委員の委嘱について

日本医師会から、勤務医委員会の委員に金丸常任理事、予防接種・感染症危機管理対策委員会の委員に峰松理事を委嘱したいとの依頼があり、本会として了承することが承認された。

6. 九州厚生局及び宮崎県による社会保険医療担当者の個別指導等の実施に係る立会について

4 医療機関を対象に行われる個別指導で、立元常任理事を立会人として派遣することが承認された。

7. 業務委託について

①平成28年度医師養成・確保支援事業に関する業務委託契約の一部変更について
→6/21の第8回常任理事協議会で承認された原契約に、臨床研修修了後の若手医師の県内定着を図るため臨床・専門研修医等研修会事業を追加して契約することが承認された。

8. 11/3(木・祝)滋賀県在宅医療セミナーへの出席について

先進県として紹介されている滋賀県が、在宅医療(訪問診療)に携わる医師の増加を目的に開催する研修会で、石川常任理事が出席することが承認された。

(報告事項)

1. 週間報告について
2. 9月末日現在の会員数について
3. 10/1(土)(熊本)九医連常任委員会について
4. 10/3(月)(ニューウェルシティ宮崎)みやざき愛の献血運動推進県民大会について
5. 10/3(月)(宮観ホテル)宮大医学部5年生未来の医療を語る全員交流会について
6. 10/3(月)(日医)日医医療秘書認定試験委員会について
7. 9/29(木)(県医)医療事故調査支援団体連絡協議会・支援委員会合同会議について
8. 10/1(土)(県医)県警察医会総会・学術講演会について
9. 10/1(土)(熊本)九医連第1回各種協議会について
10. 9/29(木)(JA-AZM)社会保険医療担当者の新規個別指導について
11. 9/29(木)(日医)日医医療IT委員会について
12. 10/4(火)(県医)治験審査委員会について
13. 10/3(月)(県医)在宅医療研修会企画小委員会について

医師連盟関係**(議決事項)**

1. 11/6(日)(MRTmicc)県議会議員清山知憲
県政報告会のご案内について
清山県議会議員による県政報告と講師を招いての特別講演を行う報告会で、参加希望の役員は事務局まで申し出ることとなった。

平成28年10月11日(火)第20回常任理事協議会

医師会関係**(議決事項)**

1. 後援・共催名義等使用許可について
①日本医師会後援「心のバリアフリーとリ

ハビリテーションを広める映画」ご協力
のお願いについて(再)

→前回の常任理事協議会で協議され、再
検討となった映画製作事業に対する名義
後援の依頼で、ホームページ等を通じた
名義の使用方法及び事業概要等が確認で
きたことから、名義後援を行うことが承
認された。

②宮崎県総合診療フォーラムの名義後援について

→総合診療に興味がある医学生、若手医
師及び医療関係者に学びの機会を提供し
交流を深めることを目的にしたフォーラ
ムで、名義後援を行うことが承認された。

2. 業務委託について**①平成28年度女性医師等就労支援事業に関する業務の委託契約について**

→女性医師等が仕事と家庭の両立を図
り、医師として働き続けられる環境作り
を支援することで、本県の医師確保を図
ることを目的に行われる事業で、契約を
締結することが承認された。

②県医療計画策定にかかる調査事業(入院患者実態調査)の委託契約について

→二次医療圏間における入院患者の実態
及び動向を調査し、県医療計画の基礎資
料とすることを目的に行われる事業で、
契約を締結することが承認された。

(報告事項)

1. 10/11(火)(県庁)県社会福祉審議会児童福祉
専門分科会について
2. 10/5(水)(県医)女性医師保育支援講座に
ついて
3. 10/10(月)(福岡)eレジフェアについて
4. 10/6(木)(ホテルマリックス)小児救急医療
電話相談事業運営協議会について

5. 10/8(土)(県医)人体シミュレータを用いた在宅医療研修会について

医師連盟関係

(報告事項)

1. 10/6(木)(シーガイア)太田前国土交通大臣意見交換会について
2. 10/8(土)(宮観ホテル)椎葉茂樹厚生労働省審議官講演会について

平成28年10月18日(火)第21回常任理事協議会

医師会関係

(議決事項)

1. 11/9(水)(福岡)九州医師会連合会第359回常任委員会の開催について

九医連感染症対策協議会及び世界獣医師会等に合わせ開催される常任委員会で、河野会長の出席と協議事項等は会長一任とすることが承認された。

2. 11/18(金)・19(土)(熊本)九州医師会連合会「第360回常任委員会」、「第112回臨時委員総会」並びに「九州医師会連合会・九州各県医師会役員合同協議会」の開催について

九州医師会医学会関連の日程の確認が行われ、常任委員会の提出議題は会長一任となり、役員で提案がある場合は申し出ることが承認された。

3. 平成29年2/4(土)(熊本)九州医師会連合会平成28年度第2回各種協議会の開催種目について

地域医療対策と医療保険対策協議会を推薦することを決定し、その他提案したい協議会があれば申し出ることが承認された。

4. 後援・共催名義等使用許可について

①11/26(土)(宮日会館)「過労死等防止対策推進シンポジウム」名義後援の依頼について
→過労死をゼロにし、健康で充実して働

き続けることのできる社会の実現を目指し開催されるシンポジウムで、名義後援を行うことが承認された。

5. 10/25(火)(ガーデンテラス宮崎)宮崎大学医学部教授等と県医師会役員等との懇談会について

当日の参加者及び新任教授等の紹介を含む進行スケジュールの確認が行われた。

6. 日本医師会の委員会委員の委嘱について

日本医師会から、救急災害医療対策委員会の委員に佐々木常任理事、公衆衛生委員会の委員に吉田常任理事を委嘱したいとの依頼があり、本会として了承することが承認された。

7. 平成29年度地域医療介護総合確保基金(医療)区分Ⅰの事業提案及び意向調査結果について

9月に各郡市医師会、専門分科医会、病院部会、精神科病院協会、有床診療所協議会に調査を行った結果、医療機関の施設整備等に関して3つの新規事業及び病床の機能分化・連携促進基盤整備に関して7つの回答があり、申し入れ事項を含め全ての事業を県に提案することが承認された。

8. 九州学校検診協議会運動器検診について

平成26年4月の学校保健安全法の一部改正に伴い新たに加わった運動器検診を新しい専門委員会として取り上げるもので、高村常任理事を委員として推薦することが承認された。

9. 平成28年度小児在宅医療に関する人材養成研修会における受講者の推薦について

厚労省が主体となり、小児在宅医療に関する地域の人材養成を目的に開催される研修会で、県小児科医会に人選をお願いすることが承認された。

(報告事項)

1. 10/12(水)(支払基金)支 払 基 金 幹 事 会 に
ついて
2. 10/16(日)(東京)東京都医師会新会館内覧会
及び落成記念祝賀会について
3. 10/17(月)(宮大医学部)県がん診療連携協議
会について
4. 10/13(木)(日医)日医医療情報システム協議
会運営委員会について
5. 10/17(月)(県医)市町村との妊婦健康診査に
関する打合せ会について
6. 10/13(木)(県医)各都市医師会医療廃棄物担
当理事連絡協議会(水銀血圧計等回収事業
に係る業者説明会)について
7. 10/16(日)(高鍋町)県総合防災訓練における
死体検案訓練について
8. 10/16(日)(県内各会場)県 総 合 防 災 訓 練 に
ついて
9. 10/17(月)(県医)広報委員会について
10. 10/15(土)(宮崎市中央公民館)宮崎の地域医
療を考えるつどいについて
11. 10/13(木)(日医)産業保健活動推進全国会議
について
12. 10/15(土)(県医)在宅医療研修会企画委員会
について

平成28年10月25日(火)第7回全理事協議会

医師会関係

(議決事項)

1. 12/ 3 (土)(日医)平成28年度家族計画・母体
保護法指導者講習会の開催について
シンポジウムのテーマを「周産期医療体
制の確保に向けて」と題して開催される講
習会で、濱田副会長と嶋本理事の出席が承
認された。
2. 本会外の役員等の推薦について

①宮崎県障がい者差別解消支援協議会委員
の推薦について

→障がいを理由とする差別を解消するこ
とを目的に設置される協議会で、河野会
長を推薦することが承認された。

②宮崎県公害健康被害認定審査会委員の推
薦について

→公害による健康被害の認定、障害程度
の決定を行う審査会で、委員の任期満了
に伴う推薦依頼があり、高村常任理事を
推薦することが承認された。

3. 平成29年度県への要望事項について

事前に照会の結果、担当役員から8つの
テーマ及び各都市医師会から12の要望が提
出され、項目及び発言者の確認が行われ、
11月1日の常任理事協議会で再度、検討す
ることが承認された。

4. 平成29年秋の叙勲候補者の推薦について

各都市医師会に照会の結果、1名の申請
があり、県医師会として推薦することが承
認された。

5. 会費減免申請について

在籍20年以上で満83歳に達する高齢によ
る会費減免(日医)1名が承認された。

6. 九州厚生局及び宮崎県による社会保険医療
担当者の個別指導等の実施に係る立会に
ついて

1 医療機関を対象に行われる個別指導
で、立元常任理事を立会人として派遣する
ことが承認された。

7. 12/ 2 (金)(日医)平成28年度「女性医師支援
センター・大学医学部・医学会女性医師支
援担当者連絡会」の開催について

よりよい男女共同参画を目指し、日医と
各大学、各学会の情報交換を目的に開催さ
れる連絡会で、荒木常任理事と金丸常任理
事が出席することが承認された。

8. 12/17(土)(沖縄)日本医師会女性医師支援センター事業九州ブロック会別会議の開催について

日医が実施する女性医師支援センター事業の一環としてブロック毎に開催される会議で、荒木常任理事と糸数理事が出席することが承認された。

9. 平成29年度以降のへき地出張診療事業について

事業主体を県から市町村に移管し、国庫補助対象診療所を除き、県から市町村へ補助を行う形に変更することが承認された。

10. 平成29年 5 / 3 (水祝)・4 (木祝) (岐阜)全国医師ゴルフ選手権大会の開催について

ゴルフ競技を通じて会員相互の親睦を図ることを目的に、日医と全国医師共同組合連合会が開催する大会で、本県の代表選手の2名の選考に協力すると共に、県医師会親善ゴルフ大会(11/ 3)を選考会とすることが承認された。

11. 12/15(木)(県医師会)平成28年度宮崎県感染症危機管理研修会について

県内の医師及び看護職員、保健所の感染症担当者等を対象に、新型インフルエンザ等の対策をテーマに開催される研修会で、テレビ会議システムの利用等を含め共催することが承認された。

12. 11/26(土)(大阪)平成28年度全国医師会勤務医部会連絡協議会の開催について

「2025年問題と勤務医の役割(案)」をメインテーマに開催される連絡協議会で、県医師会から富田副会長、岩村・嶋本理事が出席することが承認された。

13. 11・12月の行事予定について

11月の追加行事を中心に確認が行われた。

(報告事項)

1. 週間報告について

2. 10/19(水)(宮観ホテル)宮崎市郡医師会10月例会並びにしのめ医学会特別講演会について

3. 10/21(金)(県庁)県総合計画審議会及び県地方創生推進懇話会について

4. 10/24(月)(県庁)県医療審議会について

5. 10/19(水)(福岡)九州地方社会保険医療協議会総会について

6. 10/20(木)(県医)自殺対策うつ病研修会について

7. 10/18(火)(宮大)地域医療における働きやすい環境を考える会学生向けセミナーについて

8. 10/20(木)(KITEN)医療現場のワークライフバランスセミナーについて

9. 10/22(土)(宮観ホテル)保育支援事業全体顔合わせ会について

10. 10/24(月)(県医)広報委員会について

11. 10/21(金)(県医)県訪問看護ステーション連絡協議会役員会について

12. 10/21(金)(県医)県プライマリ・ケア研究会学術広報委員会について

13. 10/17(月)感染症対策に関する行政評価・監視にかかる調査協力について

14. 9/28(水)(宮崎労働局)労災診療指導委員会について

15. 10/ 7 (金)(県医)健康スポーツ医学委員会について

16. 10/24(月)(県医)医師会立看護学校担当理事連絡協議会について

17. 10/12(水)(宮大医学部)宮大医学部医の倫理委員会について

18. 9/28(水)(県医)医学会誌編集委員会について

19. 10/13(木)(JA-AZM)社会保険医療担当者の個別指導について

医師協同組合理事・運営委員合同協議会

(報告事項)

1. 10/25(火)(ガーデンテラス宮崎)医協理事会
について

医師連盟関係

(議決事項)

1. 11/19(土)(ひまわり荘)総務・支部長合同会
議の開催について
主に第24回参議院議員通常選挙の総括等

を行う合同会議であるが、当日、九州医師会医学会関連行事が熊本で開催されるため欠席することが承認された。

2. 平成29年1/7(土)(宮観ホテル)平成29年三
師会合同新春懇談会の開催について

本医師連盟担当で開催する新春懇談会で、県歯科医師連盟及び県薬剤師会に通知すると共に、本県選出の国会議員及び県知事らに案内することが承認された。

11月のベストセラー(宮崎県)

集計：2016年11月1日～11月25日

1	ハリー・ポッターと呪いの子	J. K. ローリング	静山社
2	九十歳。何がめでたい	佐藤愛子	小学館
3	雑談力	百田尚樹	PHP研究所
4	恋のゴンドラ	東野圭吾	実業之日本社
5	時限病棟	知念実希人	実業之日本社
6	全部レンチン! やせるおかず作りおき	柳澤英子	小学館
7	やさしい人愛蔵版	加藤諦三	PHP研究所
8	はじめての人のための3000円投資生活	横山光昭	アスコム
9	人間の煩悩	佐藤愛子	幻冬舎
10	君の臍臓をたべたい	住野よる	双葉社

明林堂書店調べ 提供：本郷店(宮崎市大字本郷北方) ☎(0985)56-0868

県 医 の 動 き

(11月)

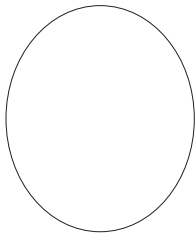
1	(日医)日医設立記念医学大会 治験審査委員会(富田副会長他) 第22回常任理事協議会(会長他)	17	(福岡)九州・沖縄地区医療安全に関するワーク ショップ(濱田副会長) 社会保険医療担当者の個別指導(立元常任理事) (日医)日医予防接種・感染症危機管理対策委員 会(峰松理事) 医協会計監査(富田理事長他)
2	日医社保指導者講習会復講(TV会議) (小牧常任理事) 九州プライマリ・ケア功労賞検討会議 (金丸常任理事)	18	(熊本)九医連常任委員会(会長) (熊本)九医連臨時委員総会(会長他)
3	県医親善ゴルフ大会 (滋賀)滋賀県在宅医療セミナー(石川常任理事) 医師クラーク育成・スキルアップ研修会	19	(熊本)九医連委員・九州各県役員合同協議会 (会長他) (熊本)九州医師会総会・医学会(会長他)
4	(日医)日医勤務医委員会(金丸常任理事) (日医)日医救急災害医療対策委員会 (佐々木常任理事) 宮崎銀行との懇親会(富田副会長他) 認知症サポート医フォローアップ研修会 (TV会議)(石川常任理事)	20	(熊本)九医学分科会・記念行事 県災害医療コーディネーター研修 (小牧常任理事) (延岡)医師クラーク育成・スキルアップ研修会
5	人体シミュレータを用いた在宅医療研修会 県整形外科医会研修会(川野理事) (福岡)全国医師協同組合連合会通常総会 (富田理事長他)	21	広報委員会(荒木常任理事他) 介護保険委員会(TV会議：延岡・南那珂) (会長他) 県内科医会医療保険小委員会(小牧常任理事)
6	(福岡)全国医師協同組合連合会通常総会 (富田理事長他)	22	福岡・佐賀両県医師会長との協議懇談会 (会長他)
7	県防災会議国土強靱化部会(小牧常任理事) 健康教育委員会(TV会議：延岡)(会長他)	23	(日南)医師クラーク育成・スキルアップ研修会
8	県地方独立行政法人評価委員会(会長) 第8回全理事協議会(会長他) 県福祉保健部・病院局と県医師会との意見交換 会(会長他)	24	宮大経営協議会・学長選考会議(会長) 県蚊媒介感染症対策会議(峰松理事) 日医医療IT委員会(日医)(荒木常任理事) 医協打合せ会(立元副理事長) 各専門分科医会長会
9	(福岡)九医連感染症対策協議会 (高村常任理事他) (福岡)九医連常任委員会(会長) (福岡)世界医師会one health国際会議(会長他)	25	熊本地震におけるDMAT及びJ-RAT活動の報告・ 打合せ会(富田副会長他) 医師国保組合理事会(秦理事長他)
10	(福岡)世界医師会one health国際会議(会長他) 県保険者協議会(濱田副理事長) 県自殺対策推進協議会(吉田常任理事) 地域医療構想委員会(TV会議：西臼杵) (会長他) 県産婦人科医会常任理事会(濱田副会長他) 県産婦人科医会献金委員会(濱田副会長)	26	県産婦人科医会ALSO研修会 (大阪)全国医師会勤務医部会連絡協議会 (富田副会長他) 県訪問看護ステーション連絡協議会総会・研修 会(池井常任理事) (福岡)九州学校検診協議会専門委員会 (高村常任理事) 宮崎県歯科医師会創立100周年記念式典・祝賀会 (会長他) (福岡)九州各県医師会学校保健担当理事者会 (高村常任理事)
11	(福岡)世界医師会one health国際会議 (荒木常任理事他) 県外科医会秋期講演会(岩村理事)	27	県産婦人科医会ALSO研修会
12	(沖縄)日本産婦人科医会学術集会(濱田副会長) 産業医研修会(TV会議)(佐々木常任理事) 病院部会・医療法人部会合同研修会	28	宮大医学部医の倫理委員会(糸数理事) 県経済団体協議会代表者会議(会長) 河野知事と県経済団体協議会との懇談会(会長) 医療従事者向け認知症対応力向上研修会 (TV会議)(富田副会長他)
13	(沖縄)日本産婦人科医会学術集会(濱田副会長) 世界糖尿病デー市民公開講座 医療安全対策セミナー(TV会議) (富田理事長他)	29	医協理事・運営委員合同協議会(会長他) 九州地方社会保険医療協議会宮崎部会 (濱田副会長) 医協理事会(富田理事長他) 第9回全理事協議会(会長他) 各都市医師会長協議会(会長他)
14	広報委員会(荒木常任理事他) 県総合診療円卓会議(金丸常任理事)	30	労災診療指導委員会 (都城市北諸県郡医師会館)都城市北諸県郡医師 会臨時社員総会 宮崎の医療を考える会(若手記者との勉強会) (富田副会長他)
15	医療事故調査支援委員会常任委員会 (濱田副会長他) (日医)都道府県医師会長協議会(会長) 第23回常任理事協議会(富田副会長他)		
16	県障害者施策推進協議会(会長) 首都直下地震を想定した衛星利用実証実験(防 災訓練)(日医TV会議)(小牧常任理事他) 県障がい者差別解消支援協議会(会長)		

ニューメンバー

新入会員と新規開業会員をご紹介しますコーナーです。

宮崎市
あきづきクリニックMJ

あきづき 英治
秋 月 英 治



住 所	宮崎市
専門科目	消化器外科, 胃腸内科
家族構成	妻, 長女(高2), 次女(高1)
略 歴	平成元年 大阪大学医学部医学科 卒業 平成2年 大阪大学医学部附属病院 第二外科 平成3年 大阪新千里病院 (現大阪府済生会千里病院) 平成6年 熊本大学医学部附属病院 第二外科 平成10年 高千穂町国民健康保険病院 平成28年10月 あきづきクリニック MJ開業

自己紹介 出身は熊本ですが、妻が宮崎出身で、子供の学校が宮崎市内ということもあり、平成28年10月に宮崎市にあきづきクリニックMJを開業いたしました。平成10年から約19年間、宮崎県高千穂町の急性期医療、地域医療に携わってまいりました。これまでの経験を生かして宮崎市の地域医療に貢献していきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

宮崎県医師会医療情報コーナー

県医師会館1階の「医療情報コーナー」では、分かりやすい医療や介護の本、闘病記のほか、難病・認知症・健康増進や子育てに役立つ本・雑誌・DVDなどを幅広く取り揃えています。県民の皆様への貸出もしておりますので、お気軽にお立ち寄りください。パソコン情報検索、ビデオ・DVDの視聴もできます。

開室時間：月～金曜日 10：00～19：00、土曜日 10：00～18：00

休館日：日曜・祝日、12月29日～1月3日、8月14日～15日、特別整理期間(3日間)

〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101番地

TEL 0985-22-5118 E-mail : tosho @ miyazaki.med.or.jp

お知らせ

医師資格証を持ちましょう

ドクターバンク情報

(無料職業紹介所)

平成28年11月11日現在

本会では、会員の相互情報サービスとしてドクターバンク(求人・求職等の情報提供)を設置しております。登録された情報は、当紹介所で管理し秘密は厳守いたします。

現在、下記のと通りの情報がよせられております。お気軽にご利用ください。

お申し込み、お問い合わせは当紹介所へ直接お願いいたします。

また、宮崎県医師会ホームページでも手続きと情報のあらましを紹介しておりますのでご覧ください。

1. 求職者登録数 4人

1) 男性医師求職登録数 3人 (人)

希望診療科目	求 職 数	常 勤	非 常 勤
内 科	1	0	1
老 健	2	1	1

2) 女性医師求職登録数 1人 (人)

希望診療科目	求 職 数	常 勤	非 常 勤
検 診	1	0	1

2. 斡旋成立件数 54人 (人)

	男性医師	女性医師	合 計
平 成 2 8 年 度	3	0	3
平成 16年度から累計	40	14	54

3. 求人登録 96件 332人 (人)

募集診療科目	求人数	常 勤	非常勤
内 科	118	88	30
外 科	28	24	4
整 形 外 科	25	22	3
精 神 科	18	16	2
循 環 器 科	7	6	1
脳 神 経 外 科	12	9	3
消 化 器 内 科	12	9	3
麻 酔 科	10	8	2
眼 科	6	5	1
放 射 線 科	10	9	1
小 児 科	1	0	1
呼 吸 器 内 科	11	10	1
リハビリテーション科	5	4	1
総合診療科・内科	7	6	1
神 経 内 科	7	6	1
救 命 救 急 科	7	7	0
健 診	3	1	2
産 婦 人 科	1	1	0
泌 尿 器 科	1	0	1
検 診	4	2	2
皮 膚 科	3	2	1
人 工 透 析	4	4	0
在 宅 担 当 医	1	1	0
そ の 他	31	26	5
合 計	332	266	66

求 人 登 録 者(公開)

※求人情報は、申し込みが必要です。宮崎県医師協同組合、
無料職業紹介所(ドクターバンク)へお申し込み下さい。

※下記の医療機関は、公開について同意をいただいております。

登録番号	施 設 名	所在地	募集診療科	求人数	勤務形態
160011	赤十字センター	宮 崎 市	検診	3	常勤・非常勤
160013	(医)三晴会 金丸脳神経外科病院	宮 崎 市	脳外, 整, 放, 麻, 内	10	常勤・非常勤
160017	(医)プレストピア プレストピア宮崎病院	宮 崎 市	乳外, 放, 内, 麻	3	常勤
160020	(財)弘潤会 野崎病院	宮 崎 市	精, 内	2	常勤
160031	(社医)同心会 古賀総合病院	宮 崎 市	呼内, 神内, 眼, 総診, 呼外 臨病, 乳外, 整外, 麻酔	11	常勤
160033	(医)如月会 若草病院	宮 崎 市	精	2	常勤
170046	(医)社団善仁会 市民の森病院	宮 崎 市	消内, 内分泌内, 呼内, リウマチ, 神経内, 健診	6	常勤・非常勤
170048	(医)慶明会 けいめい記念病院	国 富 町	内, 放, 在宅医療	3	常勤
180082	国立病院機構宮崎東病院	宮 崎 市	内, 神内, 整, 消内	5	常勤
190087	宮崎市郡医師会病院	宮 崎 市	内(緩和ケア), 消内, 呼内, 総診	8	常勤
190094	(医)耕和会 迫田病院	宮 崎 市	総内, 内視鏡	6	常勤・非常勤
190095	(医)慶明会 宮崎中央眼科病院	宮 崎 市	眼	1	常勤
200104	(医)社団善仁会 宮崎善仁会病院	宮 崎 市	内, 外, 救急, 呼外, 婦人, 整, 麻	7	常勤
200105	(医)誠友会 南部病院	宮 崎 市	内, 外, 放	3	常勤
210110	(医)幸秀会 大江整形外科病院	宮 崎 市	整	1	常勤
210118	慈英病院	宮 崎 市	内, 整, リハビリ	7	常勤・非常勤
230128	(医)真愛会 高宮病院	宮 崎 市	内, 精	2	常勤
230132	(医)康友会 青島クリニック	宮 崎 市	内	1	常勤
230134	(医)慈光会 宮崎若久病院	宮 崎 市	精	1	常勤
230139	介護老人保健施設サンフローラみやざき	国 富 町	内, 外	2	常勤
230143	(医)社団孝尋会 上田脳神経外科	宮 崎 市	脳外, 内	2	常勤
230144	宮崎生協病院	宮 崎 市	総内, 呼内, 消内, 健診	8	常勤・非常勤
230146	(財)潤和リハビリテーション振興財団 潤和会記念病院	宮 崎 市	内, 神内, 外, 整外, 脳外, リハ, 麻酔, 救急, 緩和ケア	10	常勤
230148	(医)コムロ美容外科	宮 崎 市	美外, 形成外, 外, 麻酔	8	常勤・非常勤
230161	(医)健心会 滝口内科病院	宮 崎 市	内	2	常勤・非常勤
230164	宮崎県保健所	宮 崎 市	公衆衛生	3	常勤
230165	野崎病院健診センター	宮 崎 市	健診	1	非常勤
230171	(医)いなほ会 日高病院	宮 崎 市	内	1	非常勤
230174	(医)常聖会 巴外科内科	宮 崎 市	内	1	非常勤
230175	社会福祉法人 キャンパスの会	宮 崎 市	内, 小, 整	1	常勤
230177	(医)社団尚成会 近間病院	宮 崎 市	内, 消内, 消外, 放(いずれか)	1	常勤・非常勤
230178	介護老人保健施設 むつみ苑	宮 崎 市	内	1	常勤
230180	(一社)藤元メディカルシステム 藤元中央病院	宮 崎 市	内, 糖内, 呼内, 血内	4	常勤
160008	(医)正立会 黒松病院	都 城 市	泌	1	非常勤
160010	(徳医)敬和会 戸嶋病院	都 城 市	内, 消内, 整, 神内	7	常勤・非常勤
160018	(医)宏仁会 メディカルシティ東部病院	都 城 市	内, 救急, 放射, 脳外, 外, 眼, 透内, 皮膚	8	常勤
170057	(医)清陵会 隅病院	都 城 市	内, 外, 整	3	常勤
180064	国立病院機構都城医療センター	都 城 市	内, 呼内, 総診	4	常勤
180081	(医)恵心会 永田病院	都 城 市	精	1	常勤
190092	都城市郡医師会病院	都 城 市	内, 呼内	6	常勤
210114	藤元病院	都 城 市	精, 内	3	常勤
230127	(医)倫生会 三州病院	都 城 市	外, 内, 整	7	常勤・非常勤
230133	介護老人保健施設すこやか苑	都 城 市	不問	1	常勤

登録番号	施 設 名	所在地	募集診療科	求人数	勤務形態
230137	医) 宏仁会 海老原内科	都 城 市	内	1	常勤
230142	医) 魁成会 宮永病院	都 城 市	内, リハビリ	2	常勤
230153	都城健康サービスセンター	都 城 市	内	1	非常勤
230157	医) 一誠会 都城新生病院	都 城 市	精, 内	4	常勤・非常勤
230162	藤元総合病院	都 城 市	内, 透, 循内, 救急, 放射, 病理, 呼内, 精	16	常勤
230172	医) 静雄会 藤元上町病院	都 城 市	内	4	常勤・非常勤
230176	一社) 藤元メディカルシステムグリーンホーム	三 股 町	内	1	常勤
230179	医) 与州会 柳田クリニック	都 城 市	外	1	非常勤
230181	介護老人保健施設 はまゆう	三 股 町	内	1	常勤
230183	医) 恵心会 坂元医院	都 城 市	消内, 老人内	2	非常勤
160012	医) 伸和会 共立病院	延 岡 市	外, 整, 放, 内	6	常勤
160021	医) 建悠会 吉田病院	延 岡 市	精	3	常勤・非常勤
160034	特医) 健寿会 黒木病院	延 岡 市	外, 内, 緩和ケア	6	常勤・非常勤
190086	早田病院	延 岡 市	内	1	常勤
200100	医) 育生会 井上病院	延 岡 市	産婦, 内	2	常勤
200102	延岡市医師会病院	延 岡 市	消内, 消外, 内	5	常勤
210109	延岡市夜間急病センター	延 岡 市	内, 小	2	非常勤
230151	介護老人保健施設エクセルライフ	延 岡 市	内	1	常勤
230156	医) 中心会 野村病院	延 岡 市	内, 外	2	常勤
230163	堺胃腸科内科クリニック	延 岡 市	内	1	非常勤
160039	医) 誠和会 和田病院	日 向 市	外, 内, 整, 神内	6	常勤
210111	宮崎県済生会 日向病院	門 川 町	内	3	常勤
230147	美郷町国民健康保険西郷病院	美 郷 町	内, 整	2	常勤
230152	美郷町国民健康保険南郷診療所	美 郷 町	内	1	常勤
230160	日向市立東郷病院	日 向 市	内, 整	2	常勤
160006	都農町国保病院	都 農 町	内, 放, 外	3	常勤
160023	医) 宏仁会 海老原総合病院	高 鍋 町	整, 内, 総診, 麻, 眼, 健診, 循内, 脳	10	常勤・非常勤
230170	介護老人保健施設なでしこ園	高 鍋 町	内	1	常勤
160024	医) 隆徳会 鶴田病院	西 都 市	内, 外	2	常勤
150002	医) 慶明会 おび中央病院	日 南 市	内, 外, 整	4	常勤・非常勤
150003	医) 同仁会 谷口病院	日 南 市	内	1	非常勤
160022	医) 愛鍼会 山元病院	日 南 市	内	2	常勤
160037	医) 十善会 県南病院	串 間 市	精, 内(いずれか)	1	常勤
170047	日南市立中部病院	日 南 市	内, 外, 整, リハビリ, 在宅医療	5	常勤
180071	串間市民病院	串 間 市	内, 外	2	常勤
230138	小玉共立外科	日 南 市	不問	2	常勤・非常勤
230149	介護老人保健施設おびの里	日 南 市	内	2	常勤・非常勤
230166	医) 秀英会 英病院	串 間 市	内	1	常勤
230168	医) 月陽会 きよひで内科クリニック	日 南 市	内	7	常勤・非常勤
230182	串間市市木診療所	串 間 市	総診, 内(いずれか)	1	常勤
160019	医) 相愛会 桑原記念病院	小 林 市	内, 皮膚	4	常勤・非常勤
170043	医) 和芳会 小林中央眼科	小 林 市	眼	2	常勤・非常勤
180067	小林市立病院	小 林 市	救急, 総診, 放	5	常勤
180076	医) 友愛会 園田病院	小 林 市	外, 循内, 整, 脳外	9	常勤・非常勤
190090	特医) 浩然会 内村病院	小 林 市	精, 内	3	常勤
190091	医) 友愛会 野尻中央病院	小 林 市	整, 内	4	常勤・非常勤
230155	医) 三和会 池田病院	小 林 市	脳外, 内, 放射, 外, リハビリ	6	常勤・非常勤
230167	介護老人保健施設さわかセンター	小 林 市	内	1	非常勤
230169	医) 連理会 和田クリニック	小 林 市	内	2	常勤
230173	医) 高千穂会 大森内科	小 林 市	内	2	常勤・非常勤
170049	五ヶ瀬町国民健康保険病院	五ヶ瀬町	内, 外	2	常勤
180070	高千穂町国保病院	高千穂町	内, 透	3	常勤
190088	日之影町国保病院	日之影町	内, 整	1	常勤

病医院施設の譲渡・賃貸

◆譲渡，賃貸希望の物件を紹介いたします。

平成28年11月11日現在

1. 譲渡物件	①宮崎市阿波岐ヶ原町前田 2633番，2634番 土地のみ：2022.17㎡(593.57坪)	所有者：児湯医師会員 (医) 崧雲会 林クリニック
	②西都市中央町2丁目6番地 土地：2,280.83㎡(691.16坪) 建物：鉄筋コンクリート造陸屋根3階建 1階 674.74㎡ } 2階 547.79㎡ } 1,400.48㎡(424.38坪) 3階 177.95㎡ } ※別途駐車場あり(20台)	所有者：西都市西児湯医師会員 図師医院跡
2. 譲渡又は 賃貸物件	①小林市南西方49番地1 土地：1,991.34㎡(603.43坪) 建物：鉄筋コンクリート造陸屋根2階建 1階 471.41㎡ } 2階 638.35㎡ } 1,109.76㎡(336.29坪) ※駐車場あり(30台)	所有者：西諸医師会員 (医) 社団 産婦人科 生駒クリニック
	②日向市鶴町2丁目9番15号 土地：792㎡(240坪) 建物：RC造 鉄骨造 1階 237.49㎡ } 2階 338.25㎡ } 913.99㎡(276.96坪) 3階 338.25㎡ } ※別途駐車場あり(10台)	所有者：日向市東臼杵郡医師会員 三ヶ尻整形外科跡

ドクターバンク無料職業紹介所利用のご案内

1. 取扱範囲は宮崎県内全域です。但し，求職者は県外でも結構です。
2. 紹介受付は，月～金の9時～12時及び13時～17時です。
3. 申込み方法は，所定の用紙「求職票」「求人票」にご記入後登録させていただきます。
4. ご希望に沿った先を斡旋させていただきます。
5. 求職者の紹介時には各医療機関で医師免許等のご確認をお願いいたします。
6. 斡旋成立時の紹介料は，「求人」「求職」いずれも無料です。

お問合せ先 ドクターバンク無料職業紹介所

〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101番地(宮崎県医師協同組合)
TEL 0985-23-9100(代)・FAX 0985-23-9179
E-mail: isikyoku@miyazaki.med.or.jp

日州医事へのご意見・ご感想をお待ちしています

宮崎県医師会広報委員会

E-Mail : genko@miyazaki.med.or.jp

FAX : 0985-27-6550

TEL : 0985-22-5118

日州医事では、読者の皆様から広くご意見・ご感想・ご要望をお待ちしています。本誌に対するご感想や、読みたい記事のご提案など、忌憚のないご意見を是非お寄せください。

なお、いただいたご意見は「読者の広場」として日州医事上で匿名にて紹介させていただくことがあります。掲載を希望されない場合はその旨お知らせください。

注：FAXの際は、このページを切り取り、

裏面の原稿用紙もご利用になれます。

宮崎県医師会広報委員会 行 FAX: 0985-27-6550

き
り
と
り
せ
ん

お 名 前 :

ご 所 属 :

T E L :

F A X :

宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

平成28年11月29日

		12		月			
1	木	13:30	(日医)都道府県医師会医事紛争担当理事連絡協議会	14	水	13:30	DV被害者保護支援ネットワーク会議
		19:00	生活習慣病検診従事者研修会(肺・乳・胃・大腸がん検診研修会)(TV会議)			16:00	支払基金幹事会
						18:00	県がん対策審議会
2	金	14:00	(日医)大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会	15	木	19:00	感染症危機管理研修会(TV会議)
		19:00	県医中間監事監査			19:00	広報委員会
3	土			16	金	14:00	宮大医学部医の倫理委員会
4	日	9:01	宮崎銀行ゴルフコンペ	17	土	9:00	指導医のための教育ワークショップ
						14:00	女性医師支援センター事業九州ブロック会議
5	月	19:00	生活習慣病検診従事者研修会(肺・乳・胃・大腸がん検診研修会)(TV会議)	18	日	8:00	指導医のための教育ワークショップ
		19:00	広報委員会				
6	火	15:00	地方公務員災害補償基金県支部審査会	19	月	19:00	次年度の運動器検診についての打合せ
		18:00	治験審査委員会				
		19:00	第24回常任理事協議会	20	火	18:00	医協理事会
						18:30	第10回全理事協議会
						19:00	役職員懇談会
7	水	10:00	(日医)医療事故調査制度に係る支援団体統括者セミナー	21	水	15:00	労災診療指導委員会
		10:00	社会保障審議会医療保険部会療養費検討専門委員会			15:00	(日医)日医医療秘書認定試験委員会
		15:00	(日医)日医医療秘書認定試験委員会			19:00	延岡市医師会忘年会
		19:00	都城市北諸県郡医師会忘年会	22	木	19:00	西都市西児湯医師会忘年会
8	木	13:30	社会保険医療担当者の新規個別指導	23	金		(天皇誕生日)
		19:00	女性医師委員会	24	土		
9	金			25	日		
10	土	15:00	生活習慣病検診従事者研修会(肺・乳・胃・大腸がん検診研修会)(TV会議)	26	月	18:00	九州地方社会保険医療協議会宮崎部会
		18:00	県産婦人科医会全理事会			19:00	医師確保対策委員会
11	日			27	火	16:00	県医療審議会医療法人部会
						19:00	第26回常任理事協議会
12	月	13:30	県ドクターヘリ運航調整委員会	28	水		
		19:00	医学賞選考委員会	29	木		(年末休業)
13	火	13:00	「自信をもって取り組める医薬品の教育」研修会開会式	30	金		(年末休業)
		19:00	第25回常任理事協議会	31	土		(年末休業)

※都合により、変更になることがあります。

行事予定は県医師会のホームページからご覧になれます。

宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

平成28年11月29日

1			月		
1	日	(年始休業)	17	火	14:00 (日医)日医連常任執行委員会 14:20 (日医)都道府県医師会長協議会 16:30 (日医)日医連執行委員会 17:30 (日医)都道府県医師会長協議会・ 日医連執行委員会合同新年会 19:00 第28回常任理事協議会
2	月	(年始休業)			
3	火	(年始休業)			
4	水	13:00 新年賀詞交歓会			
5	木		18	水	19:00 医師国保組合定例事務監査
6	金		19	木	13:30 県後期高齢者医療広域連合 運営懇話会 16:30 (日医)日医学術推進会議 19:00 特定健康診査等従事者研修会 (TV会議)
7	土	15:00 九医連九州ブロック災害医療研 修会 17:00 九州各県医師会救急災害医療担当 理事連絡協議会 19:00 三師会合同新春懇談会			
8	日	9:00 九医連九州ブロック災害医療研 修会			
9	月	9:00 緩和ケアチーム研修会	20	金	19:00 医師国保組合理事会
10	火	18:00 治験審査委員会 19:00 第27回常任理事協議会	21	土	14:00 人体シミュレータを用いた 在宅医療研修会 16:00 次期診療報酬改定の要望事 項に係る九医連医療保険対 策協議会
11	水	16:00 支払基金幹事会 18:30 病院部会・医療法人部会理事会・ 新年会	22	日	
12	木	19:00 ロコモティブシンドローム予防講 演会 19:30 県産婦人科医会常任理事会	23	月	19:00 広報委員会 19:00 県感染症危機管理・予防接種 実務担当者研修会
13	金	19:00 労災部会自賠委員会 19:45 損害保険医療協議会	24	火	19:00 第29回常任理事協議会
14	土	14:00 人体シミュレータを用いた在宅医 療研修会 14:30 産業医研修会(TV会議)	25	水	15:00 労災診療指導委員会
15	日		26	木	13:30 宮大経営協議会・学長選考会議
16	月	19:00 広報委員会	27	金	18:00 九州地方社会保険医療協議会 宮崎部会 19:00 人体シミュレータを用いた在 宅医療研修会
			28	土	14:30 自賠責保険研修会 15:00 県産婦人科医会冬期総会
			29	日	9:00 (日医)在宅医療関連講師人材 養成事業研修会
			30	月	19:00 高次脳機能障害講演会(TV会議)
			31	火	19:00 第11回全理事協議会

※都合により、変更になることがあります。

行事予定は県医師会のホームページからご覧になれます。

医 学 会 ・ 講 演 会

日 本 医 師 会 生 涯 教 育 講 座 認 定 学 会

単位：日本医師会生涯教育制度認定単位数，CC：カリキュラムコード（当日，参加証を交付）

がん検診：各種がん検診登録・指定・更新による研修会（胃・大腸・肺・乳）

アンダーラインの部分は，変更になったところです。

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
第205回宮崎県泌尿器科医会 12月1日(木) 19:00～20:00 宮崎観光ホテル	局所限局性前立腺癌に対する新しい低侵襲的治療戦略 京都府立医科大学泌尿器科学教授 浮村 理	9 (1.0)	◇主催 ※宮崎県泌尿器科医会 ☎0985-85-2968 ◇共催 武田薬品工業㈱
平成28年度宮崎県医師会生活習慣病検診従事者研修会 12月1日(木) 19:00～21:00 県医師会館(TV会議場：都城・延岡・日向・児湯・西都・西諸・西臼杵)	個別化治療時代の肺癌診療 県立宮崎病院内科医長，感染管理科長 姫路 大輔	7 (0.5)	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118
	乳癌診療における早期発見の重要性について ブレストピア宮崎病院副院長 柏葉 匡寛	11 (0.5)	
	胃癌に対する最近の治療 宮崎大学光学診療部副部長 武野 慎祐	12 (0.5)	
	炎症性腸疾患と大腸がん 宮崎大学医学部消化器血液学分野講師 山本 章二郎	82 (0.5)	

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
第14回宮崎消化器 癌治療研究会 12月2日(金) 18:55～20:55 KITEN 参加費：500円	膵癌診療ガイドラインより見た膵癌化学療法の変遷 藤元総合病院外科統括部長 山口 幸二	2 (0.5)	◇主催 宮崎消化器癌治療研究会 ◇共催 ※大鵬薬品工業(株) ☎0985-27-4527
	膵癌に対する化学療法の治療戦略 静岡県立静岡がんセンター消化器内科医長 福富 晃	9 (0.5) 15 (0.5)	◇後援 宮崎県医師会
第73回宮崎整形外科懇話会 12月3日(土) 18:00～19:00 県医師会館 参加費：1,000円	肩の痛みを診る治す 愛知医科大学整形外科特任教授 岩堀 裕介	15 (1.0)	◇主催 宮崎整形外科懇話会 ◇共催 宮崎県整形外科医会 大正富山医薬品(株) (連絡先) 宮崎大学医学部整形外科 ☎0985-85-0986
第110回宮崎市郡 医師会病院心臓病 研究会 12月5日(月) 18:50～20:30 宮崎観光ホテル	重症下肢虚血に対する血行再建の最前線 宮崎市郡医師会病院循環器内科医長 仲間 達也	9 (0.5)	◇主催 宮崎市郡医師会心臓病研究会 ◇共催 富士製薬工業(株) (連絡先) 宮崎市郡医師会病院 ☎0985-24-9119
	肥大型心筋症の臨床 Up-to-Date －他の肥大心との鑑別を含めて－ 高知大学医学部老年病・循環器内科学教授 北岡 裕章	7 (0.5) 15 (0.5)	
平成28年度宮崎県 医師会生活習慣病 検診従事者研修会 12月5日(月) 19:00～21:00 県医師会館(TV会 議場：都城・延岡 ・日向・児湯・西 都・南那珂・西諸)	個別化治療時代の肺癌診療 県立宮崎病院内科医長，感染管理科長 姫路 大輔	7 (0.5)	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118
	乳癌診療における早期発見の重要性について プレストピア宮崎病院乳腺外科 船ヶ山 まゆみ	11 (0.5)	

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
平成28年度宮崎県 医師会生活習慣病 検診従事者研修会 12月5日(月) 19:00～21:00 県医師会館(TV会議場：都城・延岡・日向・児湯・西都・南那珂・西諸)	胃癌に対する最近の治療 宮崎大学光学診療部副部長 武野 慎祐	12 (0.5)	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118
	炎症性腸疾患と大腸がん 宮崎大学医学部消化器血液学分野講師 山本 章二郎	82 (0.5)	
延岡医師漢方研究会 12月8日(木) 19:00～20:30 延岡市医師会病院	消化器病学のオリエント －PPIに依存しないGERD, FD対策－ 井野辺病院消化器内科部長 那須 眞示	51 (0.5) 52 (0.5) 83 (0.5)	◇主催 延岡医師漢方研究会 延岡市西臼杵郡薬剤師会 (株)ツムラ ◇後援 ※延岡市医師会 ☎0982-21-1300
西臼杵郡医師会学 術講演会 12月8日(木) 19:00～20:00 ホテル高千穂	高齢者の生活習慣病管理 －健康寿命からフレイルまで－ 東京大学医学系研究科加齢医学教授 秋下 雅弘	73 (0.5) 82 (0.5)	◇主催 ※西臼杵郡医師会 ☎0982-73-2010 ◇共催 延岡市西臼杵郡薬剤師会 武田薬品工業(株)
都城市北諸県郡医 師会学術講演会 12月8日(木) 19:00～20:00 都城ロイヤル ホテル	C型慢性肝炎に対するインターフェロンフリー治療の 現状と展望 九州大学病院総合診療科准教授 古庄 憲浩	13 (0.5) 73 (0.5)	◇主催 ※都城市北諸県郡医師会 ☎0986-22-0711 ◇共催 ギリアド・サイエンシズ(株)

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連 絡 先
宮崎市郡医師会産業医研修会 12月10日(土) 14:15～17:20 宮崎市郡医師会館	てんかんと運転免許 西都病院精神科 植田 勇人 基礎研修の後期・生涯研修の専門研修会：1.5単位	6 (0.5) 9 (0.5) 11 (0.5)	◇主催 ※宮崎市郡医師会 ☎0985-53-3434
	事業所のメンタルヘルス対策を支援して ーストレスチェックから職場復帰支援までー 人財科学研究所代表 工藤 智徳 基礎研修の後期・生涯研修の専門研修会：1.5単位	11 (0.5) 12 (0.5) 70 (0.5)	
平成28年度宮崎県医師会生活習慣病検診従事者研修会 12月10日(土) 15:00～17:00 県医師会館(TV会議場：都城・延岡・日向・児湯・西都)	個別化治療時代の肺癌診療 県立宮崎病院内科医長，感染管理科長 姫路 大輔	7 (0.5)	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118
	乳癌診療における早期発見の重要性について ブレストピア宮崎病院乳腺外科 齋藤 智和	11 (0.5)	
	胃癌に対する最近の治療 宮崎大学光学診療部副部長 武野 慎祐	12 (0.5)	
	炎症性腸疾患と大腸がん 宮崎大学医学部消化器血液学分野講師 安倍 弘生	82 (0.5)	

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
第171回 宮崎県眼科医会講習会 12月10日(土) 16:00～19:00 宮崎観光ホテル 参加費：3,000円	ドライアイと流涙症 ー相反する2つの涙液疾患について考えるー 愛媛県立中央病院眼科主任部長 山口 昌彦	36 (1.0)	◇主催 ※宮崎県眼科医会 ☎0985-28-1015 ◇共催 ノバルティスファーマ(株)
	加齢黄斑変性専門外来ークリニック編ー 高崎佐藤眼科院長 佐藤 拓	36 (1.0)	
最期まで自分らしく生きることを考える集い 12月11日(日) 14:00～16:30 西都原考古博物館	地域での在宅看取りへの取組みについて 三財病院院長 相澤 潔	12 (1.0)	◇主催 西都市 ◇共催 西都市西児湯内科医会 西都市西児湯医師会 西都市在宅医療・介護連携推進協議会 (連絡先) 西都市役所健康管理課介護保険係 ☎0983-43-3024
	パネルディスカッション：最期まで自分らしく生きるを支える 三財病院副院長 松本 英裕	4 (1.0) 81 (0.5)	
都城市北諸県郡医師会内科医会学術講演会 12月12日(月) 19:00～20:30 都城ロイヤルホテル	当科における虚血性心疾患患者の血中多価不飽和脂肪酸値と冠動脈病変との関連 宮崎大学医学部附属病院第一内科 坂元 紀陽	73 (0.5)	◇主催 都城市北諸県郡医師会内科医会 ◇共催 武田薬品工業(株) (連絡先) 都城市北諸県郡医師会 ☎0986-22-0711
	高血圧診療と研究の最近の話題 宮崎大学医学部内科学講座 循環体液制御学分野教授 北村 和雄	74 (0.5) 82 (0.5)	
西都市西児湯医師会学術講演会 12月12日(月) 19:00～20:00 ホテルプリムローズ西都	骨粗鬆症治療最前線ー顎骨壊死 UP to Dateー 三財病院副院長 松本 英裕	77 (0.5) 82 (0.5)	◇主催 ※西都市西児湯医師会 ☎0983-43-1687 ◇共催 西都市西児湯内科医会 西都児湯歯科医師会 武田薬品工業(株)

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
宮崎県医師会産業 医研修会 12月13日(火) 19:00～21:00 延岡市職業訓練 支援センター	この一年間にみられた産業保健の動向 ー厚労省・報道発表資料と通達からー 産業保健相談員 西部労働衛生コンサルタント事務所代表 矢崎 武 生涯研修の更新研修会：2単位	3 (0.5) 7 (0.5) 8 (0.5) 9 (0.5)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会
宮崎県医師会産業 医研修会 12月15日(木) 14:00～16:00 県医師会館	メンタルヘルス不調労働者の事例検討による考察 産業保健相談員・都城新生病院 前原 正法 生涯研修の現地研修会：2単位	5 (0.5) 11 (0.5) 69 (0.5) 70 (0.5)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会
平成28年度宮崎県 感染症危機管理研 修会(TV会議) 12月15日(木) 19:00～21:00 県医師会館(TV会 議場：都城・延 岡・日向・児湯・ 西都・南那珂・西 諸・西臼杵(高千 穂国保病院))	新型インフルエンザ等の対策について(仮) 地域医療機能推進機構理事長 尾身 茂	8 (1.0) 11 (0.5) 12 (0.5)	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
西諸医師会・西諸 内科医会合同学術 講演会 12月15日(木) 19:00～20:00 ガーデンベルズ 小林	C型肝炎ウイルスの撲滅に向けて 飯塚病院肝臓内科診療部長 矢田 雅佳	12 (1.0)	◇主催 ※西諸医師会 ☎0984-23-2113 ◇共催 西諸内科医会 ギリアド・サイエンシズ(株)
第206回宮崎県泌 尿器科医会 12月15日(木) 19:00～20:30 宮崎観光ホテル 参加費：5,000円	宮崎大学病院泌尿器科に導入した新規手術について ー骨盤臓器脱に対する腹腔鏡手術(LSC)の紹介ー 宮崎大学医学部泌尿器科学講座教授 賀本 敏行	9 (1.0)	◇主催 ※宮崎県泌尿器科医会 ☎0985-85-2968
宮崎県医師会産業 医研修会 12月16日(金) 19:00～21:00 県医師会館	メンタルヘルス不全ー病気療養期間に行うこと(Ⅰ)ー 産業保健相談員・西都病院 植田 勇人 生涯研修の専門研修会：2単位	1 (0.5) 5 (0.5) 11 (0.5) 70 (0.5)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会
宮崎市郡外科医会 12月例会 12月19日(月) 19:15～20:15 宮崎観光ホテル	大腸肛門外科医が関わる骨盤底疾患と排便障害の治療 東京山手メディカルセンター 大腸肛門病センター部長 山名 哲郎	0 (0.5) 55 (0.5)	◇主催 宮崎市郡外科医会 ◇共催 マイランEPD合同会社 (連絡先) 宮崎市郡医師会 ☎0985-53-3434

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連 絡 先
第53回ひむか運動器セミナー 12月20日(火) 19:00～20:30 宮崎観光ホテル 参加費：500円	腕神経叢損傷の診断と治療 ー基礎からロボット支援手術までー 労働者健康安全機構横浜労災病院副院長 三上 容司	57 (0.5) 63 (0.5)	◇主催 ひむか運動器セミナー ◇共催 ※アステラス製薬㈱ ☎0985-61-1537
宮崎県医師会産業医研修会 12月21日(水) 19:00～21:00 県医師会館	作業環境関連疾患(腰痛・VDT障害)の予防と悪化防止 産業保健相談員・宮崎県立看護大学教授 江藤 敏治 生涯研修の専門研修会：2単位	11 (0.5) 12 (0.5) 37 (0.5) 60 (0.5)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会
県北産婦人科医会(12月度例会) 12月22日(木) 19:00～20:00 延岡市医師会病院	絨毛細胞をめぐる最近の話題 九州大学医学研究院生殖病態生理学教授 加藤 聖子	9 (0.5) 71 (0.5)	◇主催 県北産婦人科医会 ◇共催 ※日本化薬㈱ ☎0985-29-6267
宮崎県医師会産業医研修会 1月12日(木) 19:00～21:00 都城市北諸県郡医師会館	この一年間にみられた産業保健の動向 ー厚労省・報道発表資料と通達からー 産業保健相談員 西部労働衛生コンサルタント事務所代表 矢崎 武 生涯研修の更新研修会：2単位	3 (0.5) 7 (0.5) 8 (0.5) 9 (0.5)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
宮崎県内科医会学 術講演会 1月19日(木) 18:45～20:30 宮崎観光ホテル	インクレチン関連薬の腎保護作用(仮) 岡山大学病院新医療研究開発センター教授 四方 賢一	76 (1.0)	◇主催 宮崎県内科医会 ◇共催 ※小野薬品工業(株) ☎0985-61-8123
第79回宮崎大学眼 科学研究会 1月21日(土) 15:00～19:00 宮崎観光ホテル 参加費:2,000円	眼球突出のみかた 宮崎大学医学部感覚運動医学講座 眼科学分野准教授 中馬 秀樹	36 (1.0)	◇主催 ※宮崎大学医学部眼科学教室 ☎0985-85-2806
	最近の網膜の話題から 宮崎大学医学部感覚運動医学講座 眼科学分野教授 直井 信久	36 (1.0)	
平成28年度自賠責 保険研修会 1月28日(土) 14:30～17:30 シーガイアコンベンションセンター	自賠責保険(共済)損害調査のしくみ 損害保険料率算出機構 宮崎自賠責損害調査事務所長 大坪 秀憲	6 (0.5)	◇主催 宮崎県医師会 ◇共済 宮崎県損害保険医療協議会 ※宮崎県医師会労災部会 ☎0985-22-5118
	外傷性頸部症候群の診断と治療 宮崎大学医学部感覚運動医学講座 整形外科科学分野助教 濱中 秀昭	57 (0.5) 63 (0.5)	
	自賠責保険の医療費請求について 損害保険料率算出機構 宮崎自賠責損害調査事務所長 大坪 秀憲	6 (0.5)	

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
宮崎県医師会産業 医研修会 2月10日(金) 19:00～21:00 県医師会館	メンタルヘルス不全一病気療養期間に行うこと(Ⅱ)ー 産業保健相談員・西都病院 植田 勇人 生涯研修の専門研修会 : 2単位	1 (0.5) 5 (0.5) 11 (0.5) 70 (0.5)	◇主催 宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会

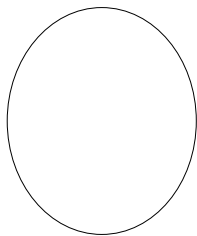
日本医師会生涯教育カリキュラム(2016)

カリキュラムコード(略称:CC)

1: 医師のプロフェッショナリズム	29: 認知能の障害	57: 外傷
2: 医療倫理: 臨床倫理	30: 頭痛	58: 褥瘡
3: 医療倫理: 研究倫理と生命倫理	31: めまい	59: 背部痛
4: 医師一患者関係とコミュニケーション	32: 意識障害	60: 腰痛
5: 心理社会的アプローチ	33: 失神	61: 関節痛
6: 医療制度と法律	34: 言語障害	62: 歩行障害
7: 医療の質と安全	35: けいれん発作	63: 四肢のしびれ
8: 感染対策	36: 視力障害, 視野狭窄	64: 肉眼的血尿
9: 医療情報	37: 目の充血	65: 排尿障害(尿失禁・排尿困難)
10: チーム医療	38: 聴覚障害	66: 乏尿・尿閉
11: 予防と保健	39: 鼻漏・鼻閉	67: 多尿
12: 地域医療	40: 鼻出血	68: 精神科領域の救急
13: 医療と介護および福祉の連携	41: 嘔声	69: 不安
14: 災害医療	42: 胸痛	70: 気分の障害(うつ)
15: 臨床問題解決のプロセス	43: 動悸	71: 流・早産および満期産
16: ショック	44: 心肺停止	72: 成長・発達の障害
17: 急性中毒	45: 呼吸困難	73: 慢性疾患・複合疾患の管理
18: 全身倦怠感	46: 咳・痰	74: 高血圧症
19: 身体機能の低下	47: 誤嚥	75: 脂質異常症
20: 不眠	48: 誤飲	76: 糖尿病
21: 食欲不振	49: 嚥下困難	77: 骨粗鬆症
22: 体重減少・るい瘦	50: 吐血・下血	78: 脳血管障害後遺症
23: 体重増加・肥満	51: 嘔気・嘔吐	79: 気管支喘息
24: 浮腫	52: 胸やけ	80: 在宅医療
25: リンパ節腫脹	53: 腹痛	81: 終末期のケア
26: 発疹	54: 便通異常(下痢・便秘)	82: 生活習慣
27: 黄疸	55: 肛門・会陰部痛	83: 相補・代替医療(漢方医療を含む)
28: 発熱	56: 熱傷	0: その他

新刊書籍のご案内

診療メモ



糖尿病黄斑浮腫

佐々木眼科医院 ^{さ さ き} 佐々木 ^{きわむ} 究

1. はじめに

糖尿病黄斑浮腫(黄斑浮腫)は、糖尿病網膜症に残された課題の一つである。糖尿病網膜症の10%に黄斑浮腫が生じる。黄斑浮腫が持続すると視細胞が障害され中心視力は低下する。運転免許の更新ができなくなり、やがて読書が困難となるため、就労年齢層での社会的失明の原因として問題となる。黄斑浮腫には局所浮腫とびまん性浮腫の2つの型があるが、両者を合併する症例も多い。

2. 局所浮腫

黄斑部に生じた虚血領域、毛細血管瘤から血漿が漏出し網膜内に貯留する(写真1)。単純型、増殖前型、増殖型網膜症のいずれでも生じる。

治療方法

虚血領域、毛細血管瘤に光凝固術を行う。毛細血管瘤の大きさは直径10 μ mから100 μ mであり、中心窩近くの毛細血管瘤の凝固では、術者は緊張を強いられる。虚血領域、毛細血管瘤が凝固できれば浮腫は改善する。

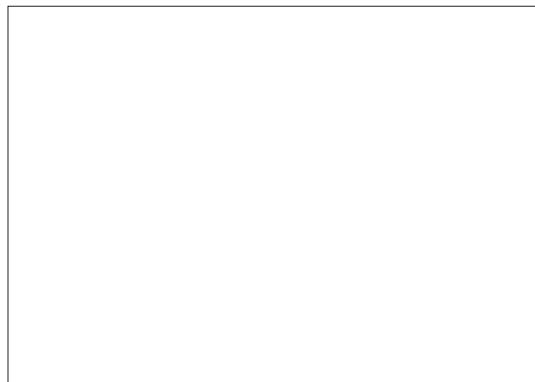


写真1. 局所浮腫の症例の蛍光造影写真。

黄斑に生じた毛細血管瘤から蛍光色素の漏出を認める。

3. びまん性浮腫

黄斑部の毛細血管からびまん性に血漿が漏出し貯留する(写真2, 3)。糖尿病罹病期間の長い患者さんにみられる。

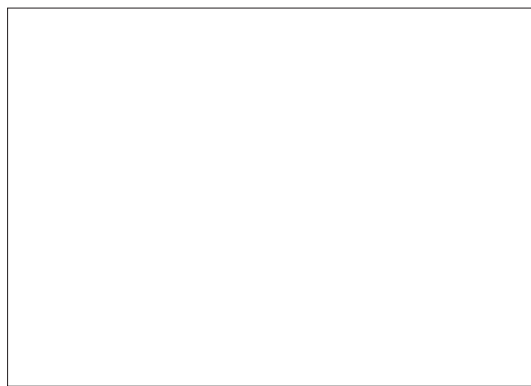


写真2. 症例A。びまん性浮腫の蛍光造影写真。

黄斑の毛細血管からびまん性に蛍光色素の漏出を認める。

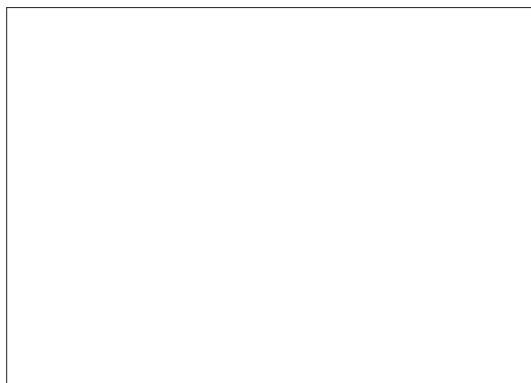


写真3. 症例Aの治療前のOCT(光干渉断層計)写真。

黄斑に嚢胞状の著名な浮腫を認める。

治療方法

a) VEGF(血管内皮増殖因子)阻害薬療法

現在、びまん性浮腫治療の第一選択であ

る。網膜に循環障害による虚血が生じるとVEGFが生産され、血管透過性が亢進する。びまん性浮腫の症例では硝子体中のVEGF濃度が高いことが知られている。2014年にルセンテイス[®]、アイリーア[®]が黄斑浮腫治療薬として保険適応となった。これらの薬を眼内、すなわち硝子体に注射する。治療効果は視力表で平均1～4段階の改善が得られる*。

b) ステロイド局所療法

びまん性浮腫では炎症性機転が原因となっていることがある。それらの症例では硝子体中に炎症系サイトカインが増加しており、ステロイドが効果的である。トリアムシノロン(マキユエイド[®]、ケナコルト[®])を硝子体またはテノン嚢下(眼外)に注射する。VEGF阻害薬とほぼ同等の効果がある。

薬物治療の問題点は、再発を繰り返す症例が多く、そのつど注射を行う必要があることである。VEGF阻害薬の場合は高価であるので患者さんおよび医療財政に負担がかかる。ステロイドであれば緑内障の合併症が問題となる。

c) 硝子体手術療法(図1)

薬物治療で効果が認められない症例が適応になる。硝子体手術を行って浮腫が改善した症例の割合は60%から70%との報告が多い(写真4)。硝子体手術の奏功機序は、VEGFやサイトカインが眼内に貯留しにく

くなる、酸素分圧が改善される、硝子体によるけん引が解除されることなどがあげられる。

びまん性浮腫と腎症

硝子体手術まで行ってもびまん性浮腫が改善されなかった患者さんが、透析の導入や腎移植を機に浮腫が改善したとの報告がある。このことは眼科治療のみでは限界のある症例が存在することを示している。実際、びまん性浮腫の症例では血清クレアチニンなどの腎機能を示すデータが悪化していることがあり、内科からの情報提供は治療の参考になる。

4. おわりに

黄斑浮腫の病態が解明されるにつれ、薬物・手術治療が進歩したが、それらに抵抗性の症例があることも事実である。さらなる病態解明と新たな治療薬の開発が進んでおり今後に期待したい。

高血糖、高血圧、高コレステロール血症は、糖尿病網膜症さらには黄斑浮腫の増悪因子であり、全身管理が何よりも重要である。また、びまん性浮腫は神経症、腎症とともに全身の微小循環障害の一部とされている。黄斑浮腫の治療においても内科との連携が必要である。

*治療前の視力のちがいによって改善の段階が異なる。注射前の視力が0.6であれば1.0に改善するが、0.1であれば0.2にとどまる。

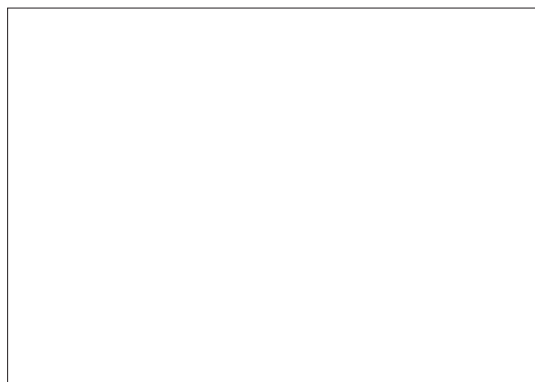


図1 硝子体手術の模式図。

微細なカッターでゲル状の硝子体を切除、吸引除去する。

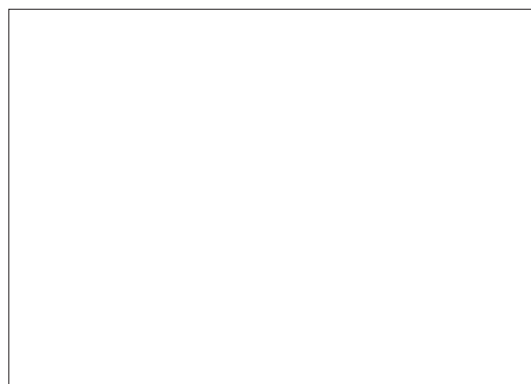


写真4. 症例Aの治療後のOCT写真。

VEGF阻害薬、ステロイド局所治療、硝子体手術を行い浮腫は改善した。浮腫が長期間続いたため視力は0.2である。

宮大医学部学生のページ

地域医療学実習について

宮崎大学医学部医学科5年 おし押 かわ川 たかし隆

●はじめに

宮崎大学医学部では5年次の臨床実習の中で、地域医療学実習が組み込まれています。この実習は地域医療・総合診療医学講座の吉村教授をはじめとした諸先生方のご指導のもと、宮崎市内および日南・串間地区の病院、診療所、クリニックに加え、訪問看護ステーション、デイサービスセンター、老人ホーム、福祉センターといった諸施設の皆さまのご協力によって成り立っています。今年度のプログラムでは実習期間は2週間となっており、最初の週は田野病院を中心として宮崎市内で実習を行い、次の週は県南地区の日南・串間に泊り込みで実習を行うこととなっております。今回は私が9月に体験した地域医療学実習について、簡単ではありますがご紹介をさせていただきます。

●田野病院での実習

基本的には田野病院で1週間実習を行います。1～2日は宮崎市内の関連施設で実習を行います。田野病院の実習は大きく外来実習と病棟実習とがあります。

外来実習では医師や看護師の指導のもと、患者に同意をいただき、バイタル測定や採血を行い、問診や身体診察まで行います。場合によっては初診の患者を診ることもあります。特に採血については、これまでの経験の少なさとそれに伴う緊張もあり、始めは上手くできませんでしたが、数をこなすことで実習が終了する頃にはかなり手技が上達したように感じ、自信ができました。また、患者への問診や身体診察についても、大学での一般的な実習とは異なり、入院患者ではなく外来患者、場合によっては初診の方に対して診察を行うため、得られた情報か

ら即座に鑑別疾患を考えて、必要な診察を限られた時間の中で行うことが求められました。当然、そのような経験はこれまでになく、ほとんど先生のご指導に従う形になりましたが、地域病院における外来業務のイメージは明確につかむことができました。特に実習の中で来院者における高齢者の多さと患者に対して先生方が気さくに話をする姿が印象的でした。今回の実習ではタイミングが合わず、市内の関連施設で実習を行う機会がありませんでしたが、関連施設においても、最初に学生に問診や身体診察をさせていただける施設は多く、患者に触れる機会を多く与えていただくことで充実した実習を行える体制となっていると伺いました。

病棟実習では、大学病院での実習と同じく担当患者が割り振られるのですが、田野病院では特にADL (Activities of Daily Living: 日常生活動作) やIADL (Instrumental Activities of Daily Living: 手段的日常生活動作)、生活背景、患者にとってのキーパーソンは誰か、といった日常生活に関連する事項をしっかりと聴取することが求められました。また、訪問看護やデイサービスの送迎などで実際に患者の自宅を見せていただく機会もあり、病気のみならず、患者の生活に焦点をあてることの重要性を強く意識することができました。

●健康講座

地域医療学実習では、時期によっては地域住民の方々と交流するイベントがあります。私達の実習中には田野文化会館で田野の住民の方々を対象とした健康講座があり、学生も1人5～10分の持ち時間で健康に関する話題を発表させていただきました。発表のテーマは各々が決め

てよいということで、それぞれが興味のある身近な話題をとりあげ、塩分摂取、不眠、腰痛、歯磨き、熱中症、認知症の6つのテーマで発表を行いました。講座に参加される住民の方は健康に対する意識が高く、高度な質問を受けてあたたかみを感じる場面もありましたが、私たち自身も身近な健康問題について考える良い機会となりました。

●県南地区での実習

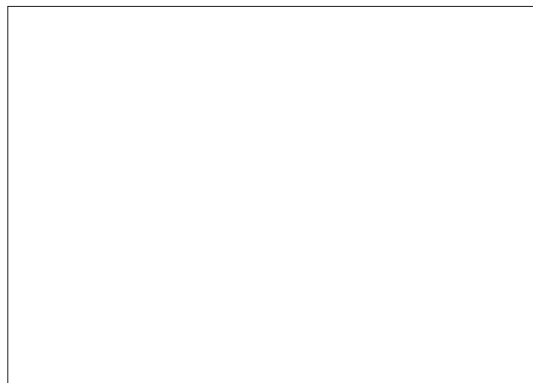
県南地区での実習は南那珂医師会の医療機関で実習を行うこととなっており、私達の実習時には学生は串間市民病院、日南市立中部病院、百瀬病院の3つのうちいずれかの病院を中心として、周辺のクリニックや関連施設で実習をさせていただきました。私は主に串間市民病院で実習をさせていただき、ゆうゆうの森クリニック・デイサービスの見学や、串間市総合保健福祉センター福祉保健課の健診事後指導への同行もさせていただきました。宿泊については市民病院横の医師宿舎を提供していただき、快適に実習を行うことができました。

県南地区での実習は、田野病院と同様に外来と病棟での実習がメインで患者の日常生活に留意するように指導されました。自身の担当する患者に対する検査も任せていただき、長谷川式スケールや尿量測定などを自分の手で行いました。特に今回の実習では、患者の検査や健診事業などを通じて看護師、検査技師、保健師、栄

養士といったコメディカルの方々と触れ合う機会が多く、これまでよりもコメディカルの方々を身近に感じることができました。また、私は宮崎出身なのでそれほど苦は感じなかったのですが、他県出身の学生は患者の話す方言と独特のイントネーションのために、始めは会話を行うことが難しかったようです。このような点も地域医療学実習ならではの体験ではないかと思います。

●最後に

実習期間中は経験したことがないことばかりで本当に大変でしたが、とても充実した実習をさせていただくことができました。地域医療学実習を通じて、多くの方の支えにより医療が成り立っていること、医療は病院の中だけで完結するものではないことが強く意識できたように思います。このように充実した実習を行うことができたのは、ひとえに地域医療・総合診療医学講座の先生方のご尽力と実習に協力してくださる関連施設の皆さま、地域住民の皆さまのおかげであります。また、来年度の地域医療学実習については県南地区に止まらず、県内全域に実習受け入れ先を広げるとのことです。より多くの方々のご協力をたまわること、来年はさらに充実した実習となることと思います。地域医療学実習に関係する皆さまに感謝しつつ、私自身が地域医療における力となり、恩返しができるように今後も研鑽に励みたいと思います。



実習終了時の記念写真(実習班メンバーと吉村教授)

お知らせ

県医師会から各郡市医師会へ送付しました文書についてご案内します。詳細につきましては、会員専用ページをご覧ください。所属郡市医師会へお問い合わせください。会員専用ページを見るためにはユーザ名、パスワードが必要です。県医師会にお問い合わせください。また、MMA通信(県医師会から会員への情報提供メーリングリスト)でも本文書について随時お知らせしていますので、まだご登録されていない会員はぜひご登録をお願いします。県医師会学術広報課(TEL 0985-22-5118)までご連絡ください。

送付日	文 書 名
10月 3 日	・医療事故情報収集事業「医療安全情報No.118」の提供について
10月 4 日	・平成28年度死体検案研修会(基礎)の開催について ・「保険医療機関におけるコンタクトレンズ等の医療機器やサプリメント等の食品の販売について」の一部改正について ・第13回公益社団法人宮崎県老人保健施設協会研究大会開催のご案内 ・組換え沈降B型肝炎ワクチン(酵母由来)の安定供給に係る対応について ・新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく特定接種の登録について ・平成28年熊本地震に伴う保険診療関係等の特例措置の期間について
10月 5 日	・社会福祉施設等における防犯に係る安全の確保について ・「病原微生物検出情報」の送付について
10月 7 日	・肝炎治療費助成事業におけるヴィキラックス配合錠及びレベトールカプセル併用療法の取扱いについて ・「乳がん月間講演会」の開催について ・国民健康保険被保険者証を無効とすることについて
10月11日	・ポナチニブ塩酸塩製剤の使用に当たっての留意事項について
10月14日	・都道府県医師会地域医療構想情報共有サイトについて ・「60歳以上の女性の美容医療トラブルが高額化！ーしわ取り注射で1,300万円もの請求が……」の送付について ・一般財団法人化学及血清療法研究所に対する報告命令等について ・介護保険制度下での居宅サービス等の対価に係る医療費控除等の取扱いについて ・宮崎県精神科救急医療システムに係る平成28年度当番病院の一部変更について ・腸チフスの発生について
10月17日	・新たに設定された人工中耳用材料の施設基準に係る届出の取扱いについて ・医療事故情報収集等事業第46回報告書の送付について
10月18日	・宮崎県胃がん検診精度管理要領の一部改正について ・各がん検診実施機関等登録(指定)について

送付日	文 書 名
10月21日	・日本医師会・日本がん登録協議会共催シンポジウム「本当に増えているがん，減っているがん」の開催について ・新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく特定接種(国民生活・国民経済安定分野)の登録について ・腰痛予防対策講習会(保健衛生業向け)の開催について ・医療計画の見直し等に関する検討会「地域医療構想に関するワーキンググループ」及び「在宅医療及び医療・介護連携に関するワーキンググループ」における意見の整理について
10月24日	・エチゾラム及びゾピクロンの投薬期間の制限について ・「携帯による医療用麻薬等の輸入・輸出手続きに関する手引き」の改訂について ・国民健康保険被保険者証を無効とすることについて
10月25日	・病院の耐震改修の状況の調査について ・『「療担規則及び薬担規則並びに療担基準に基づき厚生労働大臣が定める揭示事項等」及び「保険外併用療養費に係る厚生労働大臣が定める医薬品等」の実施上の留意事項について』の一部改正について ・平成28年鳥取県中部地震による被災者に係る被保険者証等の提示等について ・ワルファリンカリウム及びアマゾール系抗真菌剤(経口剤・注射剤)の「使用上の注意」改訂の周知について(依頼)について ・平成28年鳥取県中部地震による被災者に係る公費負担医療の取扱いについて ・「使用上の注意」の改訂について ・国民健康保険被保険者証を無効とすることについて
10月28日	・NBCR対策推進機構 第3回「有毒化学物質等による化学災害対策担当者養成講習会」の開催について ・厚生労働省「ワクチン・血液製剤産業タスクフォース」顧問からの提言について ・安全衛生教育及び研修の推進について ・「第3回医師たちによるクリスマス・チャリティコンサート」鑑賞者募集について ・災害により被災した要介護高齢者等への対応について ・平成28年度「遠隔医療従事者研修」開催のご案内
10月31日	・医療事故情報収集等事業「医療安全情報No.119」の提供について

平成28年度 総目次 (No.797～No.808)

【表紙】

夢	宮崎 市	大迫 文子	1月号
雪景色	宮崎 市	藤木 美津子	2月号
メジロ(青島・こどものくに)	宮崎 市	井ノ口 信子	3月号
干潟夕照	宮崎 市	丸田 英夫	4月号
初夏	国富 町	原 政樹	5月号
紫陽花(アジサイ)	宮崎 市	押川 千賀子	6月号
小便小僧のきもだめし	宮崎 市	佐々木 究	7月号
田園の風景	宮崎 市	黒川 基樹	8月号
スウェーデンで出会った少女	都 城 市	谷口 浩子	9月号
やすらぎ	都 城 市	吉山 絢子	10月号
今年の柿	宮崎 市	押川 千賀子	11月号
飛沫	宮崎 市	竹尾 康男	12月号
	会 長	河野 雅行	

【会長のページ】

年頭所感 年頭にあって			1月号
生命倫理ー遺伝子関連ー			2月号
マイナンバー制度			3月号
28年度診療報酬改定に思う			4月号
医療にかかる消費税問題について			5月号
医師会内委員会について			6月号
2期目に臨んで			7月号
学校医について			8月号
オリンピックに想う			9月号
女性医師の活躍に期待する			10月号
医療事故調査制度のその後			11月号
卒後臨床研修と基礎医学研究について			12月号

【日州医談】

「医療機関に退蔵されている水銀」の回収について	常任理事	立 元 祐 保	2月号
勤務医, 日本医師会, 日本医学会そして日本医師連盟について考える	理 事	岩 村 威 志	3月号
医師国保組合の課題	理 事	佐々木 究	4月号
地域医療構想と地域医師会	副 会 長	富 田 雄 二	5月号
医療事故調査制度施行半年を過ぎて	副 会 長	濱 田 政 雄	6月号
「医師資格証」を持ちましょう	常任理事	立 元 祐 保	7月号
医療と政治	理 事	米 澤 勤	8月号
医協の便利な使い方	副 会 長	富 田 雄 二	9月号
一億総活躍社会と子ども・子育て対策	副 会 長	濱 田 政 雄	10月号
健康サポート薬局について	常任理事	吉 田 建 世	11月号
医療機関に退蔵されている水銀血圧計等の回収事業について	常任理事	立 元 祐 保	11月号
「かかりつけ医」制度について	常任理事	小 牧 斎	12月号

【新任教授挨拶】

機能制御学講座物質科学分野教授	徐 岩	1月号
宮崎大学医学部医療人材育成支援センター 臨床医学教育部門教授		
消化器内科学講座教授	小松 弘 幸	4月号
感染症学講座微生物学分野教授	河上 洋	12月号
	新 竜一郎	12月号

【挨拶】

年頭所感	日本医師会長	横 倉 義 武	1月号
年頭所感	顧問	秦 喜八郎	1月号
年頭所感	顧問	稲 倉 正 孝	1月号
年頭所感	宮崎市郡医師会長	川 名 隆 司	1月号
年頭所感	都城市北諸県郡医師会長	飯 田 正 幸	1月号
年頭所感	延岡市医師会長	吉 田 建 世	1月号
年頭所感	日向市東臼杵郡医師会長	渡 邊 康 久	1月号
年頭所感	児湯医師会長	永 友 和 之	1月号
年頭所感	西都市西児湯医師会長	岩 見 晶 臣	1月号
年頭所感	南那珂医師会長	島 田 雅 弘	1月号
年頭所感	西諸医師会長	高 崎 直 哉	1月号
年頭所感	西臼杵郡医師会長	佐 藤 元二郎	1月号
年頭所感	宮崎大学医学部医師会長	吉 原 博 幸	1月号
年頭所感	内科医会長	小 牧 斎	1月号
年頭所感	小児科医会長	三 宅 和 昭	1月号
年頭所感	外科医会長	八 尋 克 三	1月号
年頭所感	整形外科医会長	川 野 啓一郎	1月号
年頭所感	皮膚科医会長	成 田 博 実	1月号
年頭所感	泌尿器科医会長	中 山 健	1月号
年頭所感	産婦人科医会長	濱 田 政 雄	1月号
年頭所感	眼科医会長	柴 田 博	1月号
年頭所感	耳鼻咽喉科医会長	井 手 稔	1月号
年頭所感	精神科医会長	吉 田 建 世	1月号
年頭所感	放射線科医会長	平 井 俊 範	1月号
年頭所感	東洋医会長	川 越 宏 文	1月号
年頭所感	透析医会長	藤 元 昭 一	1月号
年頭のご挨拶	宮崎県知事	河 野 俊 嗣	1月号
年頭のご挨拶	宮崎大学長	池ノ上 克	1月号
年頭のご挨拶	衆議院議員(1区)	武 井 敏 輔	1月号
年頭のご挨拶	衆議院議員(2区)	江 藤 拓	1月号
年頭のご挨拶	衆議院議員(3区)	古 川 禎 久	1月号
年頭のご挨拶	参議院議員	松 下 新 平	1月号
年頭のご挨拶	参議院議員	長 峯 誠	1月号
年頭のご挨拶	県議会議員	清 山 知 憲	1月号

【随想・随筆】

我が友、高杉君を語るーDear friends！	日 南 市	北 村 和 生	3月号
趣味の木工	宮 崎 市	菊 池 英 維	3月号
還暦を迎えてー消化器外科医として癌外科に対する思いー	宮 崎 市	谷 口 正 次	3月号

戦後 70年, 指導者への想い
 孫との旅を楽しむ
 モミジの枯死をめぐって
 クレームは神様
 GO AHEAD
 聴診器の二百年
 “ためこみ症”の話
 4度目の夏のしまなみ
 生涯現役で頑張ろう
 離れの増築をめぐって

宮崎市 森 憲 正 3月号
 宮崎市 田 島 直 也 4月号
 西都市 友 成 久 雄 4月号
 宮崎市 谷 口 二 郎 4月号
 延岡市 長 沼 弘三郎 9月号
 宮崎市 森 憲 正 9月号
 西都市 友 成 久 雄 9月号
 宮崎市 川 野 啓一郎 10月号
 宮崎市 谷 口 二 郎 10月号
 西都市 友 成 久 雄 12月号

【新春随想・俳壇・歌壇・川柳・絵画】

申年生まれ
 ハーモニカと私
 ロータリーエンジンは消えてしまうのか
 児童虐待防止推進月間に思うこと
 卒中後二十三年のわれ
 新春に想うこと
 西郷の「ツン」と戯れ言っ
 年男回顧録
 ラグビーワールドカップ
 たかがカラオケ
 もうすぐ「傘寿」です
 ロケツ染色画との出会い
 娘の電話
 ハイジに教えてほしいこと
 母校への思い
 清水の子
 医者のかせに大ゲサな
 影の診療科
 還暦に思う
 梅毒について
 宮崎エスプラント会
 還暦バンド
 二つ返事と帰り来ぬ風
 皮膚レーザー治療の発展に向き合い23年
 大淀川のほとりで
 猿でも出来る？
 海道東征
 沿道の芝生
 「エンジン01文化戦略会議オープンカレッジ in のべおか」を終えて

宮崎市 高 木 千 晶 1月号
 延岡市 宝珠山 弘 1月号
 志布志市 川 畠 尚 志 1月号
 日向市 中 村 剛 之 1月号
 延岡市 藤 本 孝 一 1月号
 都城市 野 田 俊 一 1月号
 えびの市 森 藤 秀 美 1月号
 宮崎市 澤 田 惇 1月号
 宮崎市 松 本 宏 一 1月号
 宮崎市 山 村 善 教 1月号
 宮崎市 立 山 浩 道 1月号
 高千穂町 興 梶 知 子 1月号
 延岡市 末 岡 常 昌 1月号
 宮崎市 丸 山 亮 1月号
 西都市 大 塚 康二朗 1月号
 宮崎市 市 来 齊 1月号
 宮崎市 谷 口 二 郎 1月号
 宮崎市 大 賀 純 一 1月号
 宮崎市 岡 留 敏 秀 1月号
 宮崎市 菊 池 英 維 1月号
 宮崎市 星 井 芙美子 2月号
 宮崎市 日 高 せつ子 2月号
 高鍋町 坂 田 師 通 2月号
 宮崎市 中 野 俊 二 2月号
 宮崎市 香 月 博 2月号
 宮崎市 辰 元 信 2月号
 延岡市 長 沼 弘三郎 2月号
 宮崎市 武 谷 立 2月号
 延岡市 佐 藤 信 博 2月号
 宮崎市 平 井 俊 範 2月号

医学の近未来

【はまゆう随筆・短歌・俳句】

ポイントカードで大騒ぎ
 ペットロス症候群
 忘れられない旅

宮崎市 谷 口 二 郎 7月号
 都城市 吉 松 成 博 7月号
 宮崎市 日 高 正 昭 7月号

個人旅行の楽しみ	宮崎 市	石川 恵美	7月号
戦争画を思う	宮崎 市	藤木 浩	7月号
数字への想い	延岡 市	前田 資雄	7月号
アメリカ西部	宮崎 市	加藤 丈司	7月号
子供の姿と親の姿	延岡 市	宝珠山 弘	7月号
～2020年東京オリンピックを迎えて想うこと～	宮崎 市	横田 直人	7月号
水平思考の世界とゴルフ?	都城 市	安藤 健一	7月号
還暦に思い残ること	宮崎 市	松本 宏一	7月号
わが誕生日	延岡 市	藤本 孝一	7月号
遺伝カウンセリング体制の確立を	都城 市	阿南 隆一郎	8月号
運命の出会い	西都 市	大塚 康二郎	8月号
袖振り合うも多生の縁	都城 市	前原 正法	8月号
宮崎の原風景	宮崎 市	佛坂 正幸	8月号
東京マラソンに参加して	宮崎 市	田中 善久	8月号
サンマルコ美術館	高鍋 町	大森 史彦	8月号
趣味の音楽とバスケットボール	都城 市	後藤 又朗	8月号
kurumi	宮崎 市	加嶋 亜紀	8月号
「見本」と「手本」	小林 市	上田 集宣	8月号
夏と生き物	宮崎 市	下村 直也	8月号
線維筋痛症診療ネットワークへの参加をお願いします	日南 市	河野 清秀	8月号
雑科雑感	日向 市	吉岡 誠	8月号
傘寿の患者一年生	都城 市	横山 陽二	8月号
官民格差	日南 市	笠目 敏夫	8月号
”西南役”余聞	延岡 市	長沼 弘三郎	8月号

【会員投稿】

高額薬剤についての考察	宮崎 市	大西 雄二	11月号
-------------	------	-------	------

【エコー・リレー】

念願の東京マラソン	西都 市	床島 真紀	1月号
雀の卵	宮崎 市	名越 康子	1月号
絵画コレクション	都城 市	大橋 剛	2月号
ゲームと私	宮崎 市	楨 英俊	2月号
録画人間の末路	宮崎 市	北村 儀雄	3月号
生活習慣病予防医学を世界へ発信	宮崎 市	帖佐 宣昭	3月号
健康よもやま話	帯広 市	難波 清	4月号
実家	串間 市	高木 昌彦	4月号
釣りの歴史	宮崎 市	巴 寛	5月号
私とワイン	宮崎 市	佐藤 潤一郎	5月号
禁酒の功罪	宮崎 市	野村 勝政	6月号
ごあいさつ	延岡 市	石井 千寸	6月号
一病息災	宮崎 市	尾田 朋樹	7月号
大人買い症候群の一例	宮崎 市	室井 栄治	7月号
趣味はジャズCD集め	宮崎 市	黒木 隆男	8月号
マラソンは科学だ	高鍋 町	弓削 俊彦	8月号
東九州道開通	宮崎 市	山本 恵太郎	9月号
Route 220	宮崎 市	久保 紳一郎	9月号
「エコー・リレー」に寄せて	宮崎 市	鬼塚 恭子	10月号

種子島サーフィン一人旅	宮 崎 市	松 元 柊 徳	10月号
年賀状	宮 崎 市	福 留 理 恵	11月号
ポリクリ	宮 崎 市	中 原 浩	11月号
昭和のピアノ	延 岡 市	西 桂 子	12月号
猟犬と室内犬	宮 崎 市	中 田 博	12月号

【叙位・叙勲】

平成 27年 1 月～12月までの叙勲及び表彰・祝賀受賞会員			1 月号
瑞宝小綬章	都城市北諸県郡医師会	藤 元 登四郎	10月号
旭日双光章	都城市北諸県郡医師会	柳 田 喜美子	10月号

【表彰・祝賀】

公衆衛生事業功勞により厚生労働大臣表彰	宮崎市郡医師会	阿 南 育 男	6 月号
公衆衛生事業功勞により厚生労働大臣表彰	南那珂郡医師会	戸 倉 修	6 月号
公衆衛生事業功勞により日本公衆衛生協会会長表彰	延岡市医師会	日 高 隆 徳	6 月号
医療功勞により県知事表彰	宮崎市郡医師会	田 崎 高 伸	10月号
医療功勞により県知事表彰	都城市北諸県郡医師会	丸 田 茂 徳	10月号
医療功勞により県知事表彰	延岡市医師会	井 上 博	10月号
医療功勞により県知事表彰	日向市東臼杵郡医師会	横 田 晃	10月号
医療功勞により県知事表彰	児湯医師会	崎 濱 國 治	10月号
医療功勞により県知事表彰	西都市西児湯医師会	鶴 田 曜 三	10月号
警察部外功勞者表彰(警察協力章)	都城市北諸県郡医師会	石 井 芳 満	10月号
救急医療功勞により厚生労働大臣表彰	西都市西児湯医師会	相 澤 潔	11月号
救急医療功勞により県知事表彰	宮崎市郡医師会	濱 砂 重 仁	11月号
救急医療功勞により県知事表彰	延岡市医師会	高 見 博 昭	11月号
救急医療功勞により県知事表彰	日向市東臼杵郡医師会	今給黎 承	11月号
産科医療功勞により厚生労働大臣表彰	延岡市医師会	井 上 博	11月号

【あなたできますか？】

【宮崎県感染症発生動向】

【メディアの目】

動物を見る目	朝日新聞社	宮崎総局長	今 井 清 満	2月号
少年鑑別所との連携	共同通信社	宮崎支局長	池 谷 孝 司	3月号
チーズ饅頭	日本経済新聞社	宮崎支局長	土 居 輝 行	4月号
感じることを出発点に	時事通信社	宮崎支局長	牧 野 達 夫	5月号
東九州自動車道に思う	読売新聞	宮崎支局長	長 田 泰 弘	6月号
仮想と現実の混同	西日本新聞社	宮崎総局長	中 山 憲 康	7月号
仮想現実の行方	朝日新聞社	宮崎支局長	加 藤 学	8月号
リオが終った さあ、2020東京オリンピックだ	UMKテレビ宮崎	報道部長	坂 元 秀 光	9月号
体内時計	宮崎日日新聞社	報道部長	杉 尾 守	10月号
リオから東京へ！県内アスリートへの期待	MRT宮崎放送	報道部長	馬 登 貴	11月号
見たいものしか見えない	南日本新聞社	宮崎支局長	重 晶 修 一	12月号

【郡市医師会だより】

西諸医師会(メイン)	理 事	花 田 武 浩	2 月号
西臼杵郡医師会(メイン)	副 会 長	植 松 昌 俊	3 月号
宮崎大学医学部医師会(メイン)	会 長	吉 原 博 幸	4 月号
宮崎市郡医師会(メイン)	副 会 長	高 村 一 志	5 月号

宮崎市郡医師会	会 長	川 名 隆 司	8月号
都城市北諸県郡医師会	会 長	飯 田 正 幸	8月号
延岡市医師会	会 長	吉 田 建 世	9月号
日向市東臼杵郡医師会	会 長	渡 邊 康 久	9月号
児湯医師会	会 長	永 友 和 之	10月号
西都市西児湯医師会	会 長	松 本 英 裕	10月号
南那珂医師会	会 長	島 田 雅 弘	11月号
西諸医師会	会 長	内 村 大 介	11月号
西臼杵郡医師会	会 長	佐 藤 元二郎	12月号
宮崎大学医学部医師会	会 長	鮫 島 浩	12月号
【国公立病院だより】			
宮崎県立こども療育センター	所 長	川 野 彰 裕	5月号
美郷町国民健康保険西郷病院	院 長	東 善 昌	7月号
椎葉村国民健康保険病院	院 長	吉 持 厳 信	9月号
国民健康保険高原病院	院 長	莫 根 隆 一	11月号
【宮崎大学医学部だより】			
発達泌尿生殖医学講座 産婦人科学分野	医 局 長	川 越 靖 之	2月号
機能制御学講座 腫瘍生化学分野	教 授	森 下 和 広	3月号
社会医学講座 法医学分野	教 授	湯 川 修 弘	5月号
機能制御学講座 機能生化学分野	教 授	西 頭 英 起	6月号
内科学講座 神経呼吸内分泌代謝学分野	医 局 長	望 月 仁 志	7月号
臨床神経科学講座 精神医学分野	医 局 長	船 橋 英 樹	8月号
地域医療・総合診療医学講座	教 授	吉 村 学	9月号
宮崎大学医学部附属病院 薬剤部	副 部 長	岩 切 智 美	10月号
宮崎大学医学部附属病院 手術部	医 局 長	白 石 哲 朗	11月号
解剖学講座 組織細胞化学分野	助 教	山 口 優 也	12月号
【専門分科医会だより】			
耳鼻咽喉科医会	会 長	井 手 稔	3月号
放射線科医会	会 長	平 井 俊 範	5月号
内科医会	副 会 長	田 口 利 文	6月号
東洋医会	会 長	川 越 宏 文	7月号
外科医会	会 長	八 尋 克 三	8月号
皮膚科医会	会 長	成 田 博 実	10月号
【部会だより】			
園医部会	部 会 長	橋 口 兼 英	4月号
勤務医部会	理 事	岩 村 威 志	9月号
学校医部会	理 事	高 村 一 志	11月号
病院部会・医療法人部会	病院部会長	濱 砂 重 仁	12月号
【報告(宮崎県医師会各種委員会)】			
医学賞選考委員会			2月号
介護保険委員会			4月号
医学会誌編集委員会			4月号
医学会誌編集委員会			11月号
健康スポーツ医学委員会			12月号
健康教育委員会			12月号

【報告(諸会議)】

九州医師会連合会平成27年度第1回各種協議会	1月号
九州医師会連合会第351回常任委員会	1月号
日本医師会女性医師支援センター事業九州ブロック会議	1月号
九州各県医師会学校保健担当理事者会	2月号
平成27年度九州学校検診協議会第2回専門委員会	2月号
宮崎県地域医療・福祉推進協議会代表者会	2月号
九州医師会連合会臨時委員総会	3月号
九州医師会連合会委員・九州各県医師会役員合同協議会	3月号
第115回九州医師会連合会総会・医学会	3月号
医師会立看護学校担当理事連絡協議会	3月号
日本医師会医療情報システム協議会	4月号
九州各県医師会医療事故調査制度担当理事連絡協議会	4月号
九州各県医師会救急・災害医療担当理事連絡協議会	4月号
九州医師会連合会平成27年度第2回各種協議会	4月号
第3回各郡市医師会長協議会	4月号
宮崎県医師会創立127周年記念医学会	4月号
平成27年度女性医師支援事業連絡協議会	5月号
平成28年熊本地震へのJMAT派遣について	5月号
九州医師会連合会第352回常任委員会	5月号
九州医師会連合会第353回常任委員会	5月号
都道府県医師会広報担当理事連絡協議会	6月号
平成27年度都道府県医師会生涯教育担当理事連絡協議会	6月号
第5回日本糖尿病対策推進会議総会	6月号
第17回都道府県医師会介護保険担当理事連絡協議会「地域支援事業等の推進について」	7月号
九州医師会連合会常任委員・九州各県医師会次期会長合同会議	7月号
九州医師会連合会常任委員・九州ブロック次期日医代議員協議会	7月号
九州ブロック日医代議員(含・次期)連絡会議	7月号
第163回宮崎県医師会臨時代議員会(概要)	8月号
第164回宮崎県医師会定例代議員会(概要)	8月号
第165回宮崎県医師会臨時代議員会(概要)	8月号
平成28年度第73回宮崎県医師会総会	8月号
九州医師会連合会第354回常任委員会	8月号
九州医師会連合会第355回常任委員会	8月号
九州医師会連合会第25回常任執行委員会	8月号
平成28年度都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会	8月号
九州医師会連合会第356回常任委員会	9月号
第17回宮崎県医師会医家芸術展	10月号
第60回九州ブロック学校保健・学校医大会平成28年度九州学校検診協議会(年次大会)	10月号
平成28年度九州学校検診協議会幹事会	10月号
九州各県医師会学校保健担当理事者会(日本医師会学校保健担当理事との懇談会)	10月号
平成28年度九州医師会連合会学校医会評議員会	10月号
平成28年度九州学校検診協議会第1回専門委員会	10月号
九州医師会連合会第357回常任委員会	10月号
九州医師会連合会第111回定例委員総会	10月号

九州医師会連合会第358回常任委員会	11月号
第1回各郡市医師会長協議会	11月号
全国医師会医療秘書学院連絡協議会定例総会 第66回定例総会・平成28年度第1回運営委員会	11月号
平成28年度「宮崎内視鏡外科アニマルラボセミナー in 佐土原」開催報告	11月号
医師会立看護学校担当理事連絡協議会	12月号
九州医師会連合会第359回常任委員会	12月号
都道府県医師会JMAT担当理事連絡協議会	12月号
第38回産業保健活動推進全国会議	12月号

【報告(その他)】

宮崎県臨床研修医説明会・講演会/新研修医祝賀会 ～ All Miyazaki 研修医スタートアップセミナー&ウェルカムパーティ～	5月号
宮崎県医師会親善ゴルフ大会	12月号
平成28年度宮崎大学医学部5年生 未来の医療を語る全員交流会 in MIYAZAKI	12月号

【薬事情報センターだより】

新薬紹介(その83)	1月号
新薬紹介(その84)	2月号
先駆け審査指定制度	3月号
脂質異常症治療薬	4月号
新薬紹介(その85)	5月号
免疫チェックポイント阻害薬	6月号
新薬紹介(その86)	7月号
コンパニオン診断薬	8月号
後発医薬品の販売名	9月号
新薬紹介(その87)	10月号
基礎的医薬品	11月号
新薬紹介(その88)	12月号

【宮崎県医師国保組合だより】

マイナンバー制度への対応について	2月号
第20回歩こう会について(予告)	2月号
平成28年度の保険料賦課について	4月号
国民健康保険法第116条にかかる届出のお願い	4月号
第20回歩こう会に参加して	宮崎市長 早稲田 芳 男 5月号
平成27年度宮崎県医師国民健康保険組合第114回通常組合会	5月号
平成28年度宮崎県医師国民健康保険組合第115回通常組合会	9月号
宮崎県医師国民健康保険組合の役員について	9月号
被保険者証の一斉更新について	9月号
日曜日の集団検診について	9月号
保健事業のご案内	10月号

【追悼のことば】

松崎武壽先生	延岡市医師会	2月号
中山民男先生	都城市北諸県郡医師会	6月号
赤須健次郎先生	延岡市医師会	7月号
大坪芳彦先生	南那珂医師会	7月号
緒方道治先生	日向市東臼杵郡医師会	7月号

【ニューメンバー】(新入会員・新規開業会員)

郡 山 晴 喜 (こおりやま はるき)	三 股 町	2 月号
福 留 慶 一 (ふくどめ けいいち)	宮 崎 市	4 月号
井 上 輝 彦 (いのうえ てるひこ)	三 股 町	4 月号
加 嶋 亜 紀 (かしま あき)	宮 崎 市	5 月号
染 矢 晋 佑 (そめや しんすけ)	延 岡 市	11月号
山 田 達 夫 (やまだ たつお)	都 城 市	11月号
秋 月 英 治 (あきづき えいじ)	宮 崎 市	12月号

【診療メモ】

レーシックの現状について	宮田眼科病院	森 洋 斉	1 月号
腹腔鏡手術と3D			
宮崎大学医学部発達泌尿生殖医学講座泌尿器科学分野		賀 本 敏 行	2 月号
乳房再建術について	県立宮崎病院外科	池 田 奈央子	3 月号
「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015」について			
潤和会記念病院		鶴 田 和 仁	4 月号
舌下免疫療法について	つばい耳鼻咽喉科クリニック	坪 井 康 浩	5 月号
低線量肺がんCT検診	宮崎県健康づくり協会	湯 田 敏 行	6 月号
乳癌検診についてー乳癌検診はパターン認識？ー			
まつ婦人科クリニック		松 敬 文	7 月号
ジカウイルス感染症(ジカ熱)について			
宮崎大学医学部内科学講座免疫感染病態学分野		高 城 一 郎	8 月号
てんかんと運転免許	西都病院	植 田 勇 人	9 月号
「B型肝炎ワクチンの定期接種化」～平成28年10月1日より～			
たんぽぽ小児科		山 崎 俊 輔	10月号
正しい歯磨きについて	宮崎県歯科医師会地域保健担当	錦 井 英 資	11月号
糖尿病黄斑浮腫	佐々木眼科医院	佐々木 究	12月号

【私の本】

歌集『日向の光と影』	宮 崎 市	大 西 雄 二	6 月号
------------	-------	---------	------

【公示】

宮崎県医師会役員等選挙当選人名簿			6 月号
------------------	--	--	------

【宮大医学部学生のページ】

〔宮崎大学学園祭〕第11回清花祭～宮大浪漫～			1 月号
宮崎の医療を考える会 地域包括ケアシステム			
ー住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けるためにー			
医学科5年	上 條 苑 子		2 月号
医学生为国家試験対策の現状と国試対策委員の活動	医学科5年	登 石 匠	3 月号
サークル紹介 ～すずかけ太鼓～	医学科3年	坂 本 遊	4 月号
MDphDコース(医学研究者育成コース)と研究室生活について			
医学科4年	神 谷 莉 香		5 月号
台湾成功大学留学記	医学科6年	枝 元 真 人	6 月号
MUSB宮崎大学学生放送局	医学科4年	亀 田 紗緒里	7 月号
第13回宮崎大学医学部音楽祭	医学科4年	小 林 謙 一	8 月号
MANGOUプロジェクト	医学科4年	坂 口 大 介	9 月号
宮崎大学学園祭第12回清花祭～清花爛漫～			10, 11月号
地域医療学実習について	医学科5年	押 川 隆	12月号

【その他】

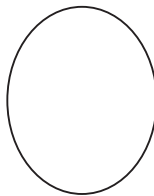
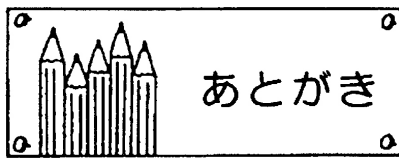
宮崎県医師会役員等名簿	7月号
各郡市医師会役員等名簿	8月号
宮崎県医師会理事業務分担	8月号
平成28年総目次	12月号

【案内】

平成28年度第73回宮崎県医師会総会	5月号
宮崎県医師会親善ゴルフ大会	8, 9月号

【お知らせ】

郡市医師会への送付文書	各号
日州医事へのご意見・ご感想をお待ちしています	各号
宮崎県医師会メーリングリストのご案内	1～3, 10～12月号
平成27年度日本医師会認定医療秘書養成制度卒業生求職のお願い	1月号
宮崎県医療勤務環境改善支援センター	1～4, 10～12月号
医療事故調査制度相談窓口	2～5, 8～12月号
宮崎県医師会無料託児サービスのお知らせ	2～5, 8, 10, 11月号
宮崎県医師会医療情報コーナー	2～5, 7～12月号
医師資格証を持っていますか？	2, 3月号
女性医師メーリングリストのご案内	3月号
宮崎県医師会役員等の選挙のご案内	4月号
宮崎県看護協会からのお知らせ	4月号
宮崎県医師会・医師国保組合・医師協同組合事務局職員配置	4月号
宮崎大学医学部附属病院からのお知らせ	4月号
日本医師会生涯教育制度の実施要項が変更されました	4月号
日本医師会医師年金ご加入のおすすめ	4月号
「はまゆう随筆」原稿募集	5, 6月号
クールビズについて	5～10月号
被保険者資格喪失届について	5月号
第17回宮崎県医師会医家芸術展作品募集！	5月号
「結核患者の服薬支援連携パスポート」を導入します(宮崎県)	5月号
日本医師会キャラクターデザイン募集について	5月号
第17回宮崎県医師会医家芸術展	6～8月号
平成28年度日本医師会認定医療秘書養成制度卒業生求職のお願い	7～9月号
医師資格証を持ちましょう	7～9, 12月号
「重症熱性血小板減少症候群の治療に関する臨床研究」を開始します	8月号
宮崎県がん登録室便り	8月号
「新春随想」原稿募集	10, 11月号
年末・年始の休館について	12月号



今年の4月から日州医事の編集委員をさせていただき、あっという間に9か月がたちました。慌ただしく毎日が過ぎ、いつのまにか季節は冬、そしてクリスマス。あんなに暑かった夏がうそのようです。ただし、すでに11月に入り、立冬は過ぎているのに、なぜか”暑い？暖かい！”と感じるのは50歳を過ぎた私だからでしょうか。いやそのようなことはないと思います、今から寒い冬を迎える準備をしている

今日この頃です。

さて、今年を振り返ってみると、まず、8月にリオデジャネイロでオリンピック、パラリンピックがありました。勝利に対する日本人の底力、最後まで諦めないという執念をみせつけられた試合、意外と日本人は根性があるじゃないか！と、手に汗を握りながら興奮して、ついつい夜更かしをしたことを覚えています。4年後、いよいよ東京でオリンピック、パラリンピックが開催されます。どのように出来上がっていくのか、楽しみでもあり不安でもあります、平和で安全な環境で開催されることを願います。

そして、もう一つは、アメリカの大統領選挙で、初の女性大統領を目指したヒラリー・クリントン氏が敗れたことでしょうか。敗北演説を読みましたが、特に女性に対して世代を問わず、勇気と感動を与え、また、将来大人になっていく小さな女の子たちにも語りかけているという熱いメッセージを感じました。そして、医学部の女子学生の占める割合が増えている今日、卒業後も妊娠、出産、育児を経ても、自分の仕事に誇りを持ち、生き生きと仕事ができる環境を、後輩の女性医師のために、我々の世代も真剣に考えていかなければならない時代になったということを感じ深く考えたところでした (上山)

* * * * *

TVショッピングでお馴染みの、果物や野菜を皮ごとジュースにできるスロージューサー。長い間憧れていましたが、先日遂に台所の主である奥さんに購入の許可をいただきました。食べきれないほど庭になった柑橘系の果実を、面倒なので皮ごと半分切って投入。あっという間にジュースになり、子ども達は大喜び。少し皮の風味がしますが、普段捨てるところからも栄養を取ることができるので、体に良いような気分になりました。(岡本)

* * *

水痘の抗体価は小児科医が医師の中で一番高いという記事を見た事がある。それだけ水痘の子どもに接触する機会が多いからなのだが、小児科医は風邪や胃腸炎をもらう事が多い。すると私たちはバテてしまうが、子どもたちは39℃あっても、水下痢が出ても元気だ。そして私たちは、子どもたちのきれいな腫や屈託のない笑顔などから癒しや元気をもらっている。いろいろ病気をもらっても、これからも今の仕事を長く続けていきたいと思う。(山崎)

* * *

とんかつが好きです。しかしH勝等の大手チェーンは上品すぎて好みではありません。肉は少し筋があって固めだがジューシー、パン粉は粗めで、よく学生街の定食屋にあるような少し下品なとんかつが好みます。宮崎には老舗の権八や志乃、巨大とんかつで有名な大淀亭、益造などがありますが、私の好みは宮崎駅前のらくいと中央郵便局の裏にあるりろです。とくに後者はコストパフォーマンスもよく、ローズだけでなく、普段はあまり食べないヒレカツもこの店のは秀逸で、とんかつ好きの五郎丸にもぜひ教えてやりたいお店です。みなさん、他にどこかいいお店を知ったら教えてください。(稲倉)

* * *

去る11月19日に開催された『きみが外科医になる日セミナー in宮崎』に参加させていただきました。主に高校生・医学生・研修医を対象とし、医師を目指す若者に外科医の魅力ややりがいを知ってもらうことを目的としたイベントでしたが、第一線で活躍されている先生方の貴重なお話をうかがい、またその後の懇親会では実際の外科手術で使用する器具を用いた手術の模擬体験などもすることができ、将来の進路を考える上で大変貴重な機会となりました。(佐井)

* * *

最近はフルーツを食べることはまっていて、今年の秋は旬のものを毎週何かしら食べている。最近、幼いころに食べて感動した記憶のあるザクロを食してみた。飛び散る赤い果汁に悪戦苦闘しながら、真っ赤な種が入った粒を一粒一粒ずつ取り出していき、ようやく全ての粒を取り出し終えた。いくつかを口の中に放り込んでみたが、種の触感が微妙で残念ながら期待したほどの感動はなかった。やはり、幼いころとは味覚が変わってしまったのかと少し物悲しい気持ちになってしまった。(柴野)

* * *

秋の学会で最も印象に残ったのが3D映像を用いた手術機器です。眼科手術は手術顕微鏡下で直接術野を見ながら行うので、わざわざテレビモニターの画面を見て手術を行うことはないだろうと思っていました。しかし手術顕微鏡にカメラを取り付けて大きな画面で3D映像を見ると、さらに細かい所まで鮮明に観察できて、立体感も申し分ありませんでした。大きな可能性を感じました。(佐々木)

* * *

今月のトピックス

平成28年度宮崎大学医学部5年生未来の医療を語る全員交流会 in MIYAZAKI

先日、平成29年度の医師臨床研修マッチング結果が発表されました。宮崎県内では60人のマッチングが決定し過去2番目に多かったそうです。若手医師が減少している宮崎県においては喜ばしい知らせです。卒後研修の充実に関わり、さまざまな機会を作り学生達に宮崎での研修の魅力を伝えて下さっている先生方に感謝いたします。

36ページ

診療メモ 糖尿病黄斑浮腫

糖尿病人口は予備軍も含め国民の5人に1人、2,000万人いると言われています。内科での血糖コントロールと眼科検診率の向上に伴い、牽引性網膜剥離や血管新生緑内障を合併するような進行した増殖糖尿病網膜症患者は減りましたが、糖尿病黄斑浮腫により視力が低下している患者は依然としてみられ、時に治療に苦慮することがあります。糖尿病黄斑浮腫について佐々木究先生に解説していただきました。 70ページ

宮大医学部学生のページ 地域医療学実習について

宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座の地域医療実習は実践的な参加型実習になっており、学生満足度が全体の診療科の中で総合2位だそうです(本誌 第805号)。医学科5年で医師会広報委員の押川隆さんの地域医療実習体験記です。 72ページ

日 州 医 事 第808号(平成28年12月号)(毎月1回10日発行)

発行人 公益社団法人 宮 崎 県 医 師 会 会長 河野 雅行
〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101番地 TEL 0985-22-5118(代)・FAX 27-6550
<http://www.miyazakimed.or.jp/> E-mail:office@miyazakimed.or.jp

編 集 宮崎県医師会広報委員会
委 員 長 沖田 和久・副委員長 西田 隆昭, 岡本健太郎
委 員 中村 豪, 野村 勝政, 押川 隆, 馬場 萌子
山崎 俊輔, 稲倉 琢也, 上山 貴子, 佐井 佳世, 柴野 雅資
担当副会長 富田 雄二・担当理事 荒木 早苗, 佐々木 究
事 務 局 学術広報課 立山 幸恵, 牧野 諭

印刷所 有限会社 ケイ・プロデュース・落丁・乱丁の際はお取り替えいたします。
定 価 350円(但し、県医師会員の購読料は会費に含めて徴収してあります)